ネットワークビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

ご使用になる前に

本ユーザーマニュアルは、ネットワークビデオレコーダーのインストールおよび運営のための基本説明書です。本装置を初めてご使用になる使用者を初め、以前多くの類似装置を使用していた使用者の方でも、必ずご使用になる前に本ユーザーマニュアルをお読みになり注意事項をご確認の上、製品を使用することをお勧め致します。安全上の警告および注意事項は、製品を正しく使うことで危険や財産上の被害を防ぐことにつながるので、必ずお守りください。お読みになった後は、いつでも確認できる場所に必ず保管して下さい。

- 本ユーザーマニュアルを無断で複製できません。
- 本製品には 一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。そのソフトウェアのソースコードをご希望の方には提供できます。詳しい内容はソフトウェアCDに(OpenSourceGuide\OpenSourceGuide.pdf)または取引説明書と一緒に提供されるオープンソースガイドを確認してください。
- 規格品以外の製品を使用することで発生した損傷、またはユーザーマニュアルの使用方法を従わずに発生した製品の損傷は、当社で責任を負わないのでご注意下さい。
- NVR(ネットワークビデオレコーダー)を初めてご使用になるか、使い方がよく分からない使用者は、設置や使用する途中に必ず購入先までお問い合わせ頂き、専門技術者のサポートを受けて下さい。
- システムの機能拡張および故障修繕のためにシステムを分解する場合は、必ず購入先までお問い合わせ頂き、専門家のサポートを受けなければなりません。

設置する前に注意する点 (安全上の警告と注意)

安全および製品の故障を防ぐため、本装置をご使用になる前に下記の内容を必ず熟知した後お使いください。製品を正しく使うことで使用者の安全を保護し、財産上の損害などを防止するための内容であるため、必ずお読みになった上正しくお使い下さい。

警告 / 注意の内容

警告 : 人が死亡したり重傷を負う可能性が予想される内容です。

注意 : 人が負傷したり物的損害の発生が予想される内容です。

警告

- **設置前に必ず本機器の電源をOFFにし、電源プラグを同時にいくつも差し込んで使用しないでください。**
  異状発熱や火災、感電の危険があります。
- **本機器の内部に高電圧部分があるため、任意に蓋を開けないようにし、絶対に分解、修理、改造しないでください。**
  異常作動により火災や感電、傷害の危険があります。
- **停電や落雷による被害を減らすため、保護設備を作ってご使用ください。**
  火災、感電、傷害の原因となります。
- **電源ケーブル部分を無理に引き抜いたり、濡れた手で電源プラグを差し込んだり抜いたりしないでください。コンセントがゆるい場合は電源プラグを差し込まないでください。**
  火災や感電の危険があります。
- **本機器を作動するための圧力電圧は、電圧変動範囲が規定電圧の10%以内でなければならず、電源コンセントは必ず接地させてください。電源コネクタを接続するコンセントにはヘアドライヤーやアイロン、冷蔵庫などの電熱器具を一緒に使用しないでください。**
  異状発熱や火災、感電の原因となります。

- **電源ケーブル接続端子や映像信号出力端子、シリアルポート、LANケーブル接続端子、外部入出力ポートなどが本機器の裏面に突出しているため、壁のそばに設置するとケーブルが無理に折り曲がったり押さえられて破損したり切れることがあるため、裏面を壁から15cm以上離すようにしてください。**
  火災や感電、傷害の原因となります。
- **周囲の温度と湿度が適切な場所で使用してください。**
  火災の原因となることがあります。温度が高すぎたり(40°C以上)低いところ(5°C以下)、湿気が多い場所は避けてください。
- **湿気や埃、ススなどが多い場所には設置しないでください。**
  感電や火災の原因となります。
- **製品を直射光線の当らない涼しい場所に置き、適正温度を維持して、ろうそくや暖房器具などの熱が出る場所を避けてください。**
  火災の危険があります。
- **本機器を設置する途中や設置した後には、機器がある場所を常にきれいにして、常に埃がないようにし、特に機器を掃除する場合には必ず乾いたタオルで拭いて、水やシンナー、有機溶剤は使用しないでください。**
  機器の表面を傷つける恐れがあり、故障や感電の危険があります。
- **電源ケーブルを無理に曲げたり重い物を乗せて破損しないようにしてください。**
  火災の原因となります。
- **平らで安定した場所に設置し、垂直に立てたり斜めに置いて使用しないでください。**
  機器がひっくり返ったり落ちると故障の原因となり、傷害の危険があります。
- **製品の上に水やコーヒー、飲料水などのような液体の入った器を乗せないでください。**
  液体がこぼれて製品内部に入ると故障や火災の原因となります。
- **異常な音がしたり臭いがする場合は、すぐに電源プラグを抜いて購入先やサービスセンターにお問い合わせください。**
  火災や感電の危険があります。
- **電池は製造者が指定した同一タイプ名又は同等品にのみ交換してください。そして使用した電池は製造者の指示に従って廃棄してください。**
  爆発の危険があります。
- **湿気のある床や接地されていない電源拡張ケーブル、被覆の取れた電源コード、安全接地の欠如など、作業スペースであり得る危険を注意深く調べ、問題が発生した場合は購入先や専門家にお問い合わせください。**
  火災や感電の危険があります。

⚠ 注意

- **強い磁性や電波のある場所、衝撃のある場所、ラジオやテレビなどの無線機器に近接した場所には設置しないようにしてください。**
  磁石類や電波、振動のない場所に設置してください。
- **ユーザーが電源プラグを楽に操作できる場所に設置してください。**
  製品に深刻な異常や火災が発生した場合、電源プラグを抜いて危険要素を簡単に取り除けるようにしてください。
- **密閉されておらず風通のよい場所に設置し、システム運営室の空気を適切に循環させてください。**
  周辺の環境要素により故障の原因となります。裏面は15cm以上、前面は5cm以上間隔を置いて設置してください。
- **強い衝撃や振動は機器の故障の原因となるため、使用時に注意してください。**
  振動のない場所に設置してください。
- **製品の上に重い物を置かないでください。**
  故障の原因となります。
- **通風のために開いている溝に導電性物体が落ちないように注意してください。**
  故障の原因となります。
- **製品が駆動中には電源プラグを抜かず、製品を動かしたり移動させないでください。**
  故障の原因となります。

- HDDがいっぱいになったときに録画を続けるために設定を変更して録画を続ける場合、以前の保存データが削除されるため、データが消えても良いかもう一度確認してください。
- 製品前面のHDD状態表示LEDが点滅し続けていれば、システムがHDDに正常に接続されていることが分かります。HDD状態表示LEDが点滅し続けているかどうか随時確認してください。
- データを保存するHDDの寿命が尽きると、保存しようとする映像データが損傷して復旧できないことがあります。録画中にHDDに保存されているデータを再生する場合、画面が映らなくなったらHDDの寿命が尽きたことを意味するため、早急に購入先やサービスセンターに依頼してHDDを交換してください。
- 装置の動作状態を随時確認して、異常がある場合すぐに購入先やサービスセンターにお問い合わせください。

目 次

第 1 章 — 概要 1

1.1 特徴 1
1.2 システムの構成図 2
1.3 裏面パネル 2
1.4 前面パネル 3
1.5 アップグレード 3
遠隔アップグレード 4
1.6 システムスタート及び終了 6

第 2 章 — 開始 7

2.1 システムに接続 7
2.2 システム設定 8
2.3 デバイスの登録 10
2.4 リアルタイム映像監視 14
2.5 録画 14
2.6 録画映像再生 15

第 3 章 — システムの概要 17

3.1 サービス管理者 17
メニュー 17
状態情報 18
サービスデータベースのバックアップ/復元 18
カスケード 20
3.2 設定 21
サービス 22
デバイス 23
ユーザー(使用者) 24
録画スケジュール 24
イベント管理 25
3.3 クライアント 26
メニュー 28
サイトリスト 29
パネル 29
メニュー – 環境設定 30

第 4 章 — リアルタイム映像監視 37

4.1 映像監視 37
レイアウトの監視 39
レイアウトの順次監視 40
カメラの順次監視 42
4.2 マップ監視 44
4.3 カメラの制御 45
PTZ制御 47
映像拡大 48
4.4 マップの制御 48

第 5 章 — 録画 51

5.1 録画スケジュールの設定 51

タイムラプス録画の設定 53
イベントベース録画の設定 55
スケジュールの管理 57
緊急録画設定 58

第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存 61

6.1 録画映像再生 61
モーションイベントの停止映像 64
オブジェクト/モーション 検索 65
映像拡大 65
イメージ効果 66
6.2 録画映像を動画で保存 66
専用のビューアーファイルで保存 66
AVIファイルで保存 68

第 7 章 — イベント処理 71

7.1 リアルタイムイベント 71
映像監視 71
映像再生 72
7.2 イベント録画映像 73

第 8 章 — システムの動作状態及びデバイス状態の監視 75

8.1 システムの動作状態の監視 75
8.2 動作状態の監視 76

第 9 章 — ログ検索 77

第 10 章 — ストリーミング 79

第 11 章 — デバイス管理 81

11.1 デバイスの登録 81
11.2 デバイスの管理 84
デバイス修正 85
デバイスを遠隔設定 87
ファームウエアアップグレード 87
デバイスの状態確認 88
入力 / 出力デバイス情報の修正 88
11.3 ONVIF™ Conformanceプロトコルデバイスの遠隔設定 89

第 12 章 — ユーザー管理 95

第 13 章 — ストレージ管理 97

第 14 章 — イベント管理 99

14.1 イベント管理スケジュール 設定 99
スケジュールの管理 104
14.2 イベント管理 105
ライブポップアップ 105
イベント確認 106

第 15 章 — マップエディター 109

15.1 マップの登録 109

15.2 マップ設定 110

第 16 章 — ネットワークキーボードを利用した制御 113

16.1 登録 113
16.2 接続 114
16.3 実行 114
映像監視 114
映像再生 115
16.4 ネットワークキーボードボタン 116
実行命令ボタン 116
クライアントシステム制御ボタン 117

第 17 章 — 遠隔監視 119

クライアントシステムシステムの要求事項 119
17.1 インストール 119
17.2 アンインストール 121

第 18 章 — 連合サービス 123

システムの要求事項 123
18.1 インストール 123
18.2 アンインストール 125
18.3 開始 126
サービス実行 126
ログイン 127
システム設定 127
サービス登録 128
リアルタイム映像監視 129
録画映像再生 130
18.4 システムの概要 131
サービス管理者 131
設定 131
クライアント 131

付録 133

イベント録画モードのスケジュール設定例 133
OSD情報 135
ネットワーク接続解除ログ 135
トラブルシューティング(Q&A) 136
製品仕様 137

索引 139

第 1 章 — 概要

1.1 特徴

本製品はネットワークビデオエンコーダー及びネットワークカメラの映像 監視、録画及び再生、そしてDVRの映像監視及び録画映像の再生のためのネットワークビデオレコーダー(NVR)で、次のような特徴を持っています。

- リアルタイム映像の遠隔監視
- ストリーミングサービスを通じてリアルタイム映像を多数のクライアントシステムで遠隔監視(別ストリーミングが可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数と同じ)
- NVRシステムに同時接続機能(最大20名)
- ソフトウェアの遠隔アップグレード及びシステムの遠隔設定(該当機能を提供するデバイスの場合にのみ対応)
- システムログ表示(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)
- リアルタイム映像のマップ監視
- 制御システムでのシステム運営及び管理、イベント処理が容易
- 連合サービスを用いた複数のNVRシステム(最大256個)の管理
- セキュリティのためにSSL機能をサポート
- 双方向オーディオ通信をサポートし、遠隔対話が可能
- セキュリティのためにユーザーグループ別に権限設定
- ユーザー中心の直感的なGUIを提供
- 次はネットワークカメラ及びネットワークビデオエンコーダー接続時にのみ提供されます。
  - 映像録画及び録画映像再生
  - 監視映像の緊急録画機能
  - オーディオ録音
  - 独自的な映像データベースファイルのシステムを用いた安定した録画
- 次の機能はDVR接続時にのみ提供されます。
  - DVR録画映像の再生
  - 緊急録画の遠隔制御
- 登録可能なデバイス数と録画及びストリーミング可能なチャンネル数は次の通りです。
  - 登録: iNEXプロトコルを使用しないデバイスを含め最大1,024個のデバイス(iNEXプロトコルを使用しないデバイスの場合、録画可能なカメラ数だけ登録機能。例えば、16チャンネルモデルである場合、INEXプロトコルを使用しないデバイスは最大16個まで登録可)
  - 録画(DVRの場合は対応しない): 最大16(16チャンネルモデル) / 32(32チャンネルモデル)チャンネル
  - ストリーミング(DVRの場合は対応しない): ストリーミング可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数と同一

✓ 本ユーザーマニュアルで“遠隔地システム”とは、カメラが装着されたネットワークビデオエンコーダー及びDVRまたはまたはネットワークカメラのことであり、“クライアントシステム”とは、NVRシステムに遠隔アクセスするために“iNEXクライアント”プログラムが実行中のPCのことです。

✓ デバイスがiNEXプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダーである場合、カメラの使用と間家なく、4つのカメラが全て録画できるチャンネルに含まれます。従って1つのデバイスを登録する時、録画及びストリーミングできるチャンネルの数が一回で4つずつ減ります。

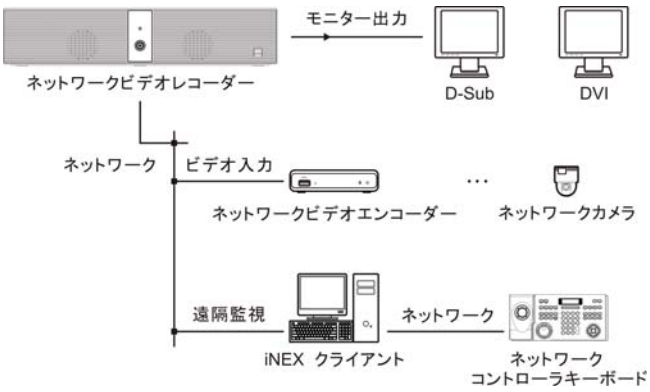
✓ よりまさる官製システム構築のためにiNEX連合ソフトウェアが支援されます。詳しい内容は、“第 18 章 — 連合サービス” (p. 123)部分を参照してください。

✓ 本マニュアルは16chモデルと32chモデルの両方をカバーしています。単純化のため、本マニュアルは32chモデルを中心に記述しています。詳しくは“製品仕様” (p. 137)をご参照下さい。

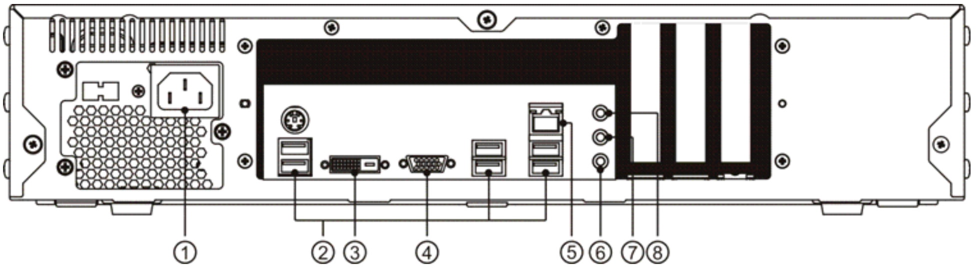
✓ この製品はOpenSSLツールキットを利用するためにOpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含む(http://www.openssl.org/)。

✓ 本製品にには一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。そのソフトウェアのソースコードをご希望の方には提供できます。詳しい内容は、ソフトウェアCDに(OpenSourceGuide\OpenSourceGuide.pdf)またはユーザーマニュアルと一緒に提供されるオープンソースガイドを確認してください。

1.2 システムの構成図



1.3 裏面パネル



① **電源接続:** 電源コードを接続します。

② **USBポート:** USB装置を接続します。

③ **DVI:** PCモニターを接続します。システムを稼働する前にモニターを接続してください。システム稼働後にモニターを接続すると、映像が出力されないことがあります。モニターの設定に関する詳しい内容は、"3.3 クライアント、メニュー – 環境設定、画面分割" (p. 31)部分を参照してください。

④ **D-Sub:** PCモニターを接続します。システムを稼働する前にモニターを接続してください。システム稼働後にモニターを接続すると、映像が出力されないことがあります。モニターの設定に関する詳しい内容は、"3.3 クライアント、メニュー – 環境設定、画面分割" (p. 31)部分を参照してください。

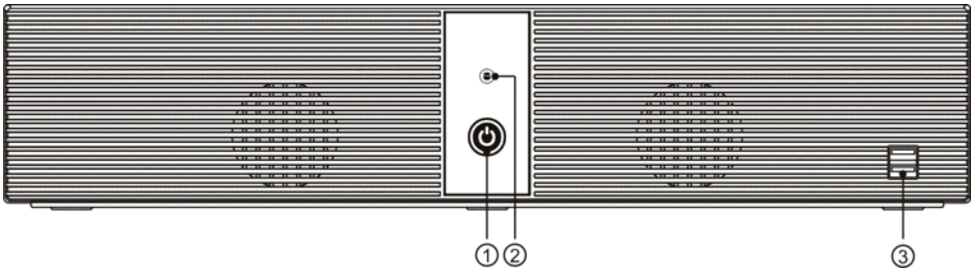
⑤ **ネットワーク(RJ-45):** RJ-45ジャックを持つCat5ケーブルを接続します。ネットワーク設定に関する詳しい内容は、"2.2 システム設定" (p. 8)部分を参照してください。

⑥ **オーディオ入力(マイク):** マイクを接続します。双方向オーディオ通信時に使用します。

⑦ **オーディオ出力(ラインアウト):** スピーカーを接続します。

⑧ **オーディオ入力(ラインイン):** ラインインデバイスを接続します。双方向オーディオ通信時に使用します。

1.4 前面パネル



① **電源ボタン:** ボタンを押して電源を点け消しします。装置が稼動する間、青い色のLEDが点いています。
② **ハードディスクLED:** ハードディスクの動作の有無を表示します。
③ **USBポート:** USB装置を接続します。

前面パネルのUSBポートにUSB装置を接続して使用する場合、接続するUSB装置の特性によりUSB装置が接続された状態でWindowsが正常にブートされないことがあります。このような問題が発生した場合には、Windowsが正常にブートされてから USB装置を接続するか、或いは裏面パネルのUSBポートを使用してください。

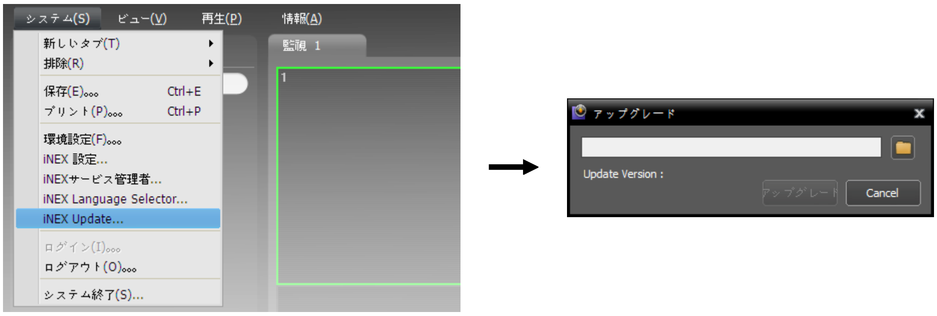
1.5 アップグレード

USBフラッシュメモリーを接続してソフトウェアのアップグレードを行うことができます。

✓ USBフラッシュメモリーを接続したソフトウェアのアップグレードは基本使用者グループ(“Administrators”)に属した使用者のみ支援されます。

1. iNEXクライアントプログラム実行中にアップグレードパッケージファイルが含まれたUSBフラッシュメモリーを製品に接続します。

2. NVRシステムの“システム”メニューで“iNEX Update”をクリックすると次のようなメッセージが現れます。



ボタンをクリックしてから“Standard.conf”ファイルを選択します。選択したファイルの経路とソフトウェアのバージョンが表示されます。→ “アップグレード”ボタンをクリックします。→ iNEXクライアントプログラムが終了され、NVRシステムがWindowsの環境に入ります。→ NVRシステムがアップグレードを始めます。アップグレードが完了するとiNEXプログラムが自働的に実行されます。

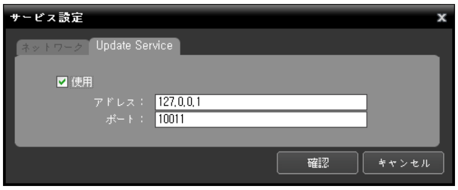
遠隔アップグレード

アップデートサービスが実行している場合、アップグレードするソフトウェアバージョンの設置ファイルを利用して遠隔でNVRシステムをアップグレードすることができます。

アップデートサービスの設定

1. NVRシステムで"サービス管理者"プログラムを実行します。"サービス管理者"プログラム実行に関する詳しい内容は、"3.1 サービス管理者" (p. 17)部分を参照してください。サービス管理者で"管理サービス"を選択します。

2. 上段のメニューで"設定 –サービスオプション"をクリックしてから"アップデートサービス"タブを選択します。"使用"を選択してからアップデートサーバーのIPアドレス及びポート番号を入力します。



アップデートサービスのインストール

1. ソフトウェアのインストールCDを準備します。

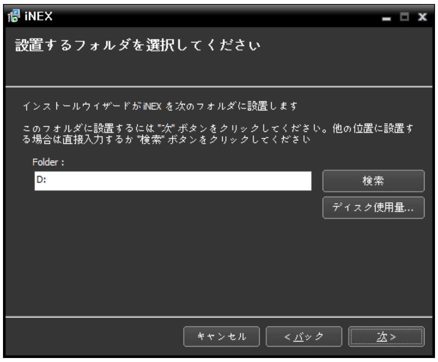
2. アップデートサーバーでソフトウェアインストールCDの"Setup"のフォルダーの下にある"UpdateServiceSetup.exe"ファイルを実行します。

✓ Microsoft® Windows® Vistaまたはその上のOSで"ユーザーアカウント制御"画面が表示されることがあります。この場合、"許可"ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

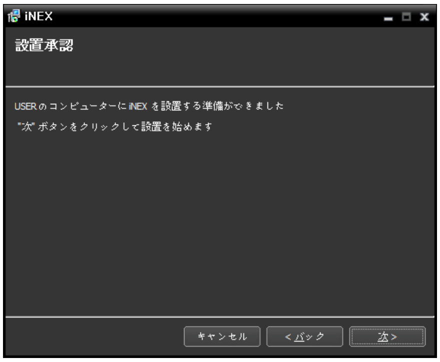
3. プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、"OK"ボタンをクリックします。

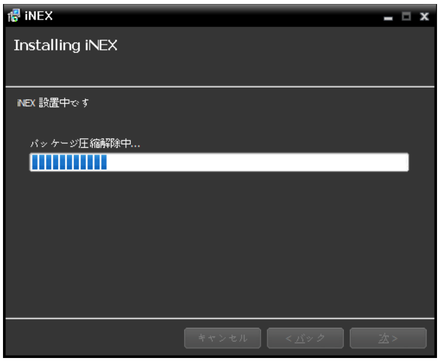
✓ 選択した言語が正しくディスプレイされるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
✓ プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に"スタート"メニューの"iNEX" → "Utility"フォルダーにある"Language Selector"を実行します。

4. サービスがインストールされる経路を指定した後、"次"ボタンをクリックします。"ディスク使用量…"ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。



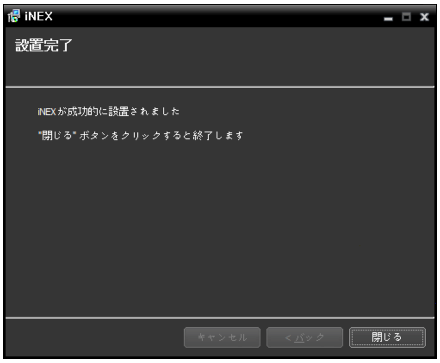
5. 次のインストール画面が表示されたら、"次"ボタンをクリックします。





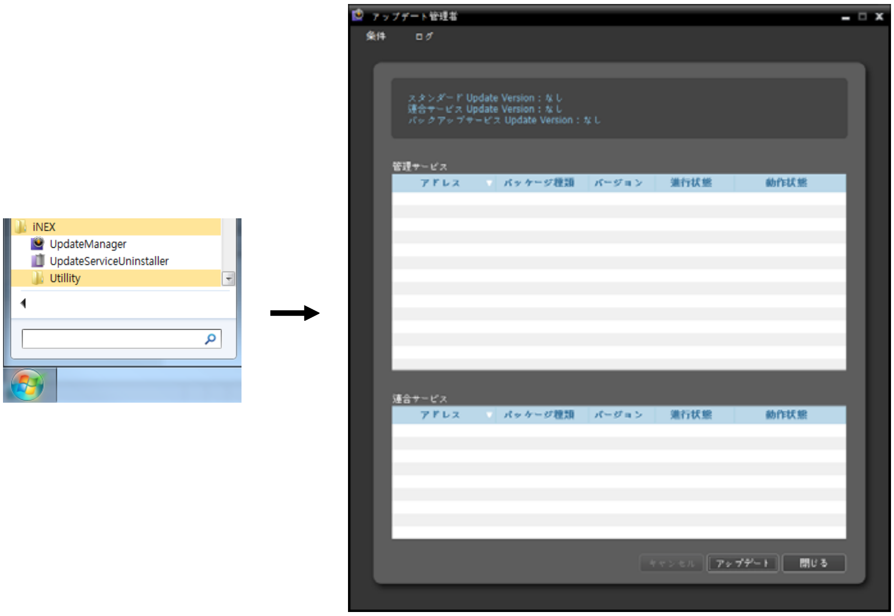
✓ “NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“Visual C++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

6. 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。

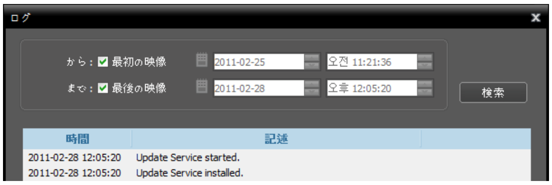


アップグレード

1. アップデートサーバーで“スタート”メニューの“iNEX”をクリックしてから“アップデートマネージャー” ソフトを実行します。



- 設定: アップグレードファイルを指定したりアップデートサーバーのポート番号を設定します。
  - パッケージアップデート: アップグレードするインストールファイルの経路を指定します。
  - ポート設定: アップデートサーバーのポート番号を設定します。
- ログ: “ログを見る”して、システムログを確認したり検索することができます。



検索しようとするログの時間範囲を設定した後、“検索ツール”ボタンをクリックすると、ログ情報を表示します。“最初の映像”オプションを選択すると、最初のログから、“最後の映像”オプションを選択すると、最後のログまで表示します。

2. “アップデートマネージャー”ソフトの上段のメニューで“設定 – パッケージアップデート”をクリックします。

ボタンをクリックしてアップグレードするインストールファイルの経路を指定します。“確認”ボタンをクリックします。

3. “アップデートマネージャー”画面の下段の“アップデート”ボタンをクリックします。iNEXサービスソフトがインストールされていない場合、“クライアント”システムの場合、“アップデート”ボタンをクリックする時“クライアント”ソフトのアップグレードが進行されます。NVRシステムである場合、周期的にアップデートサービスに接続して必要時アップグレードを進行します。

1.6 システムスタート及び終了

システム前面部のドアを電源ボタンを押すと、システムが稼動してiNEXプログラムが実行されます。“iNEXクライアント”プログラムの“システム”メニューで“終了”をクリックするか、システム稼働中にシステム前面部の電源ボタンを押すと、終了するかどうかを確認する画面が表示され、確認が完了するとシステムが終了します。

✓ システムを稼働する前にまずモニターを接続してください。システム稼働後にモニターを接続すると、映像が出力されないことがあります。

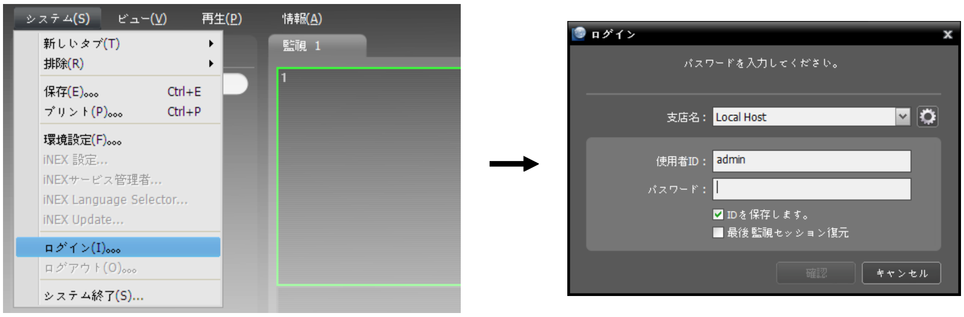
第 2 章 — 開始

2.1 システムに接続

NVRシステムが稼働するとiNEXプログラムが 実行されます。NVRシステムに接続するためにまず以下のようにログインします。

ログイン

左上段の“システム”メニューで“ログイン”をクリックします。



- 支店名: NVRシステムに接続するために“Local Host”を選択します。他のNVRシステムに接続しようとする場合リストの右側にある ボタンをクリックして 該当NVRシステムをリストに追加したりリストにあるNVRシステムの情報を修正することができます。

- 支店名、サービスのアドレス、サービスポート: NVRシステム名を指定してからNVRシステムのIPアドレス及びポート番号(基本値: 11001)を入力します。NVRシステムがDVRNS機能を利用する場合“DVRNS使用”を選択した後、NVRシステムが登録されたDVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメイン名)とポート番号を入力します。この場合、サービスのアドレス入力はNVRシステムのIPアドレスではなく、名前を入力します。この時、入力する名前はDVRNSサーバーに登録されている名前と同一しなければなりません。DVRNS機能使用に関する詳しい内容は、“2.2 システム設定、DVRNS” (p. 9)部分を参照してください。

- 使用者ID、パスワード: 使用者ID及びパスワードを入力します。使用者IDの基本値は“admin”、パスワードの初期値は“12345678”です。ユーザーメニューで使用者ID及びパスワードが変更できます。詳しい内容は、“第 12 章 — ユーザー管理” (p. 95)部分を参照してください。
- ID保存します: この項目を選択するとログインする際、入力したIDを保存します。
- 最後監視セッション復元: クライアントソフトの監視画面に以前の監視セッションを復元することができます(“クライアント”プログラムのみ支援)。

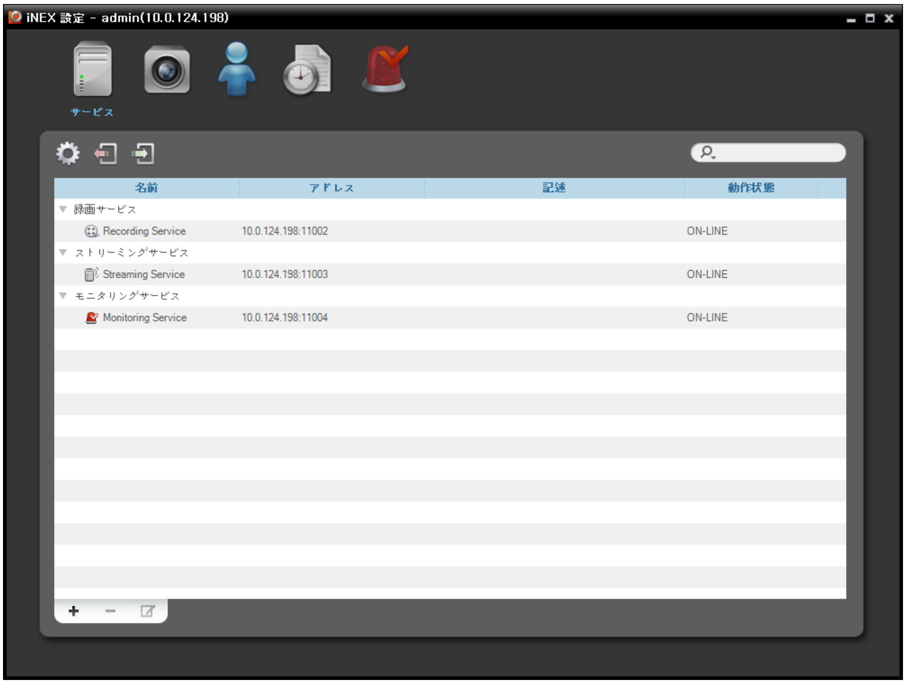
iNEXプログラムの実行

次のようにiNEXプログラムを実行します。各プログラムに関する詳しい内容は、“第 3 章 — システムの概要” (p. 17)部分を参照してください。

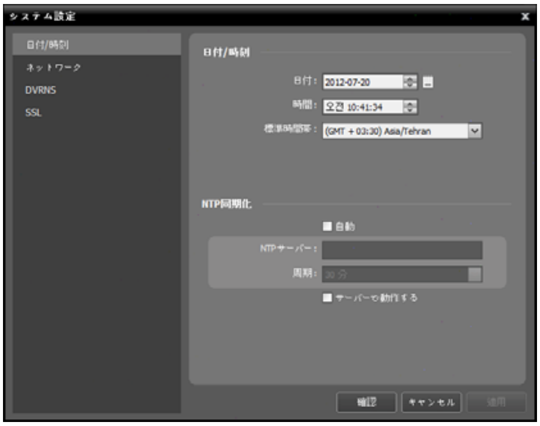
- “クライアント”プログラム: NVRシステムが稼働すると“クライアント”プログラムが自動的に実行されます。
- “設定”プログラム: NVRシステムにログインした後、左上段の“システム”メニューで“iNEX設定” をクリックします。
- “サービス管理者”プログラム: NVRシステムにログインした後、左上段の“システム”メニューで“iNEXサービス管理者”をクリックします。

2.2 システム設定

“iNEX設定”プログラムを 実行した後、NVRシステムを設定します。



(システム設定)ボタンをクリックすると、システム設定画面が表示されます。



日付/時刻

- 日付、時刻、標準時間帯: NVRシステムの日付、時刻及び標準時間帯を設定します。
- NTP同期化:
  - ☑ 自動同期: NVRシステムの時間を一定の間隔ごとに自動でタイムサーバと一致させます。タイムサーバのIPアドレス(またはドメインネーム)を入力した後、自動同期周期を設定します。
  - サーバ作動: NVRシステムをタイムサーバで動作させるために選択します。他の装置がNVRシステムの時間を読み込み、システム時間をNVRシステムと一致させることができます。

ネットワーク

NVRシステムに装着されたネットワークカードのリストが表示されます。リストでネットワークカードを選択すると、該当ネットワークカードのネットワーク情報が表示され、"設定"ボタンを押してネットワーク設定を変更することができます。NVRシステムのネットワーク接続種類および情報は、またはDNSサーバのIPアドレスはネットワーク管理者にお問い合わせ下さい。

- 種類: NVRシステムのデバイスのネットワークの種類を選択します。
  - 手動: 固定IPを使って接続する場合に選択し、関連項目を手動で設定できます。
  - DHCP: "適用"ボタンをクリックすると、DHCPサーバから ネットワーク情報を自動で取得します。DHCPを使用する場合、NVRシステムのIPアドレスが随時変更されることがあるため、DVRNS機能を使用することを推奨します。DVRNS機能に関する詳しい内容は、続く"DVRNS"部分を参照してください。
- DNSサーバー: DNSサーバーのIPアドレスを入力します。DNSサーバを設定すると、DVRNSサーバ、タイムサーバの設定時、サーバのIPアドレスの代わりにドメインネームを使用できます。NVRシステムがDHCPでネット枠に接続されている場合、"DHCPから取得"を選択するとDHCPサーバーからDNSサーバーのIPアドレスを自動に受け取ります。この場合、更新されたアドレスは次の接続時に表示されます。

DVRNS

- サーバーのアドレス、サーバーのポート: NVRシステムを登録するDVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメインネーム)及びポート番号を入力します。
- ☑ DVRNS私用: NVRシステムに接続する際、DVRNS機能を使ってNVRシステムのIPアドレスの代わりにネームを入力できます。
  - IPルータ(NAT)使用中: NVRシステムがIPルータを通じてネットワークに接続されている場合に選択します。
  - ネーム: DVRNSサーバに登録するNVRシステムの名を入力します。"確認"をクリックして入力した名前が使用可能であるかを確認します。

- ✓ “DVRNS”(DVRネームサービス)とは、動的IPを使うNVRシステムに接続する度に変わるIPアドレスの代わりに固有のNVRシステムの名前をDVRNSサーバに登録し、その名前で当該NVRシステムに接続できるようにする機能です。本機能を使用ためには、NVRシステム名をDVRNSサーバに登録しなければなりません。
- ✓ ネットワーク設定が変更される場合、設定ウィンドウ下段の“確認”ボタンを押して変更値を保存してからDVRNSを設定してください。
- ✓ DVRNSサーバのIPアドレスやドメインネームは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。“ネットワーク“設定でDNSサーバを設定した場合、“DVRNS”項目にDVRNSのIPアドレスの代わりにドメインネームを入力できます。
- ✓ IPルータ(あるいはNAT)を使用する場合、ポート設定などのネットワーク機能はIPルータ(あるいはNAT)の使用法に従います。
- ✓ “ネーム”項目の“確認”ボタンをクリックして、入力されたNVRシステムの使用可能有無を確認しなかった場合は、DVRNS設定を保存できません。また、ネームを入力しなかったりDVRNSサーバに登録済みのネームを入力した場合はエラーメッセージが表示されます。

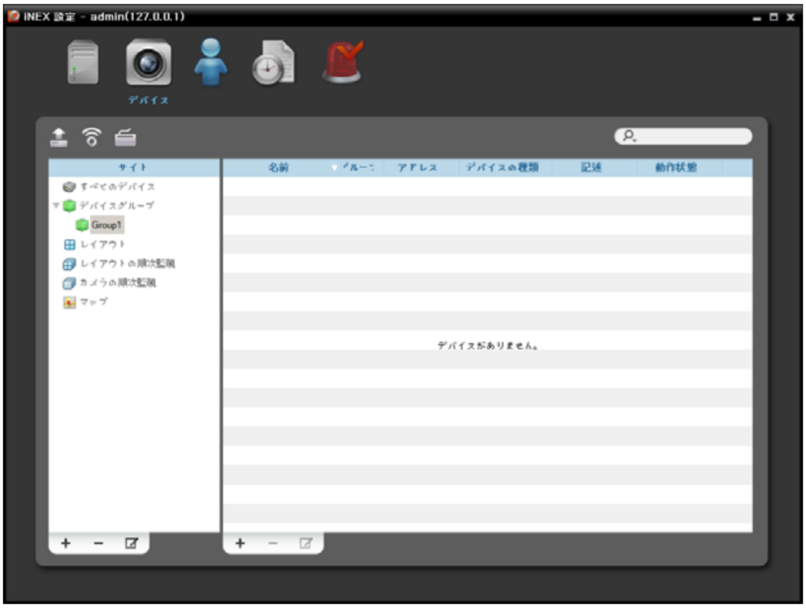
SSL

iNEXプログラムのサービスに伝送されるデータにSSL (Secure Sockets Layer)プロトコルを用いたセキュリティ機能を設定することができます。但し、SSL機能を使う時、セキュリティレベルによってはNVRシステムに負荷がかかる可能性があります。設定の変更時、現在管理サービスに接続されているサービスがすべて再接続され“iNEX設定”及び“iNEXクライアント”プログラムからログアウトされます。従って設定変更した後はiNEXプログラムに再度ログインする必要があります。

2.3 デバイスの登録

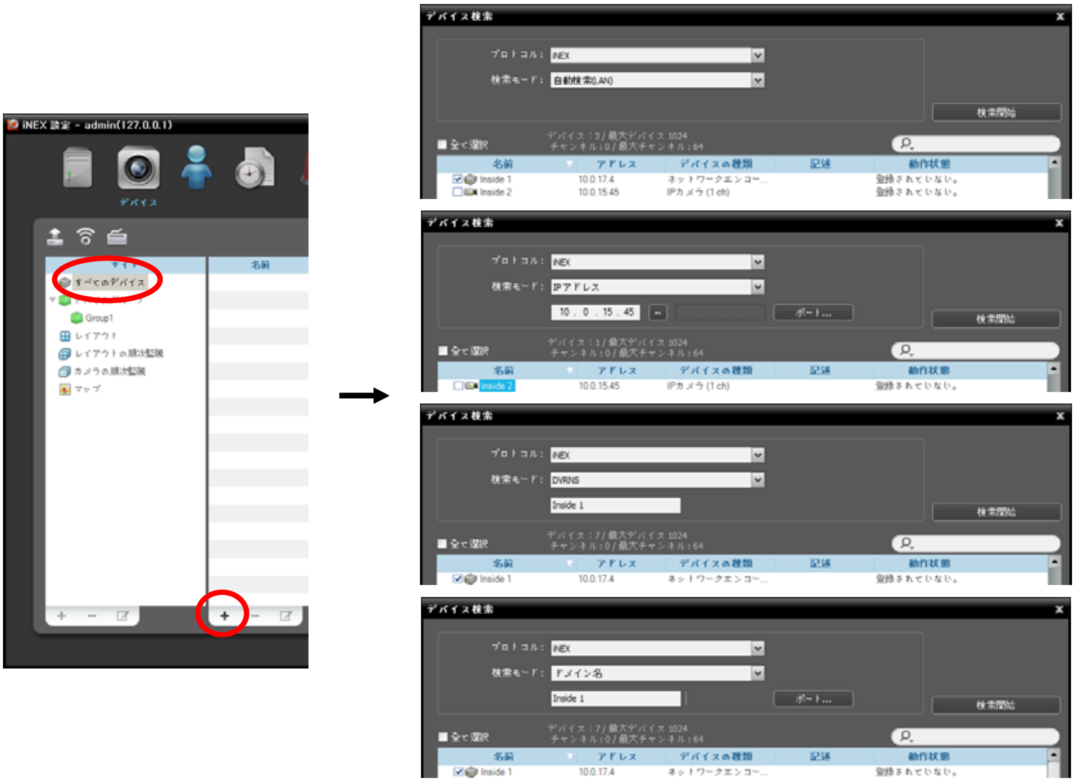
iNEXプログラムで提供する機能を使用するためには、まずデバイスを登録した後、該当するデバイスをデバイスグループに追加しなければなりません。

“iNEX設定”プログラムを実行します。



1. “デバイス”メニューを選択します。

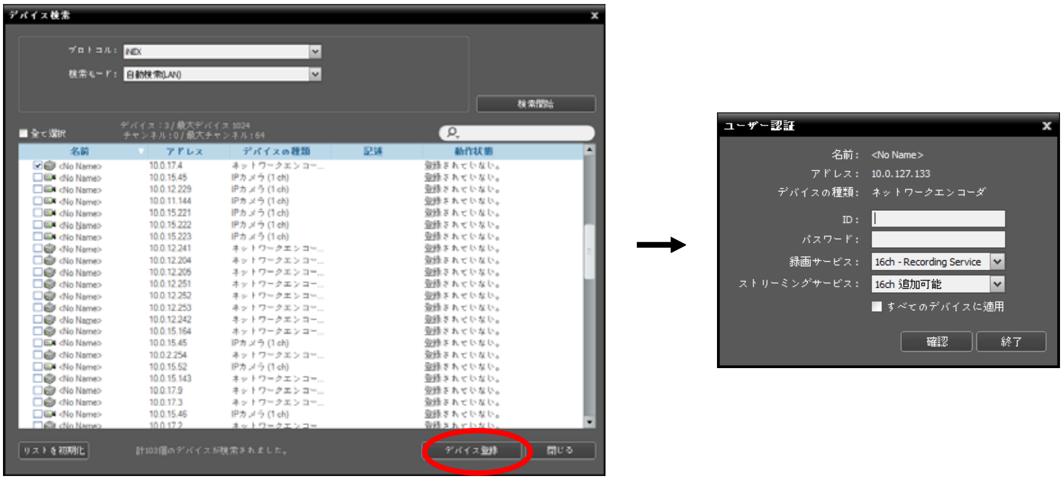
2. “サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックした後、右のサイトリストのパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“デバイス検索”画面が表示されます。



- プロトコル: 検索するデバイスのプロトコルまたはメーカーを選択します。デバイスが使用するプロトコルによってイベント関連機能に対応できないこともあり(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)、その他にも該当デバイスの設定によって一部機能に対応しないことがあります。
- 検索モード: 検索モードを選択した後、“検索開始”ボタンをクリックすると、検索結果をリストで表示します。デバイスのIPアドレス帯域がNVRシステムのIPアドレス帯域と異なる場合、iNEXプログラムは該当デバイスのIPアドレスを有効にしないものと見なします。この場合、デバイスのIPアドレスを変更すれば、デバイスの登録ができます。
  - 自動検索(LAN): LAN環境にあるデバイスをリストに表示します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。ONVIF^{TM} Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、Microsoft® Windows® Vistaまたはその上のOSではソフトウェアのインストール時に“Disable WS-Discovery Windows Service (fdPHost, FDResPub)”項目を選択した場合にのみ自動検索に対応します。またはONVIF^{TM} Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス連結が正しく動作しない可能性があります。
  - IPアドレス: デバイスのIPアドレスを入力します。二つ以上のデバイスを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス連結が正しく動作しない可能性があります。
  - DVRNS: デバイスがDVRネームサービス(DVRNS)機能を使用する場合、DVRNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。デバイスが登録されているDVRNSサーバーの情報が正しく設定されているか確認してください(“サービス”メニュー – ⚙ (システム設定)ボタン)。デバイスが登録されているDVRNSサーバーの情報が正しくない場合はデバイスが検索できません。
  - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合DNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。
- ☑ : リストで各デバイスの名前の横にあるチェックボックスを選択して、登録するデバイスを選択します。“全て選択”を選ぶとリストにあるすべてのデバイスを選択します。

- ✓ iNEXで支援するプロトコルであってもモデルによっては支援されない場合があります。支援されるモデルに対する詳しい内容は、NVRの購入先にお問い合わせください。
- ✓ デバイスがONVIF™ Conformanceプロトコルを支援する場合、プロトコル 選択時、そのデバイスのメーカ(またはiNEXプロトコル)を選択したりONVIF™ Conformanceプロトコルを選択することができます。ただし、デバイスがONVIF™ Conformanceプロトコルを支援してもモデルによってはどちらかが支援されなかったり両方とも支援されない場合があります。詳しい内容は、NVR購入先にお問い合わせください。デバイスがONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するように設定する方法はデバイス毎に異なりますのでそのデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

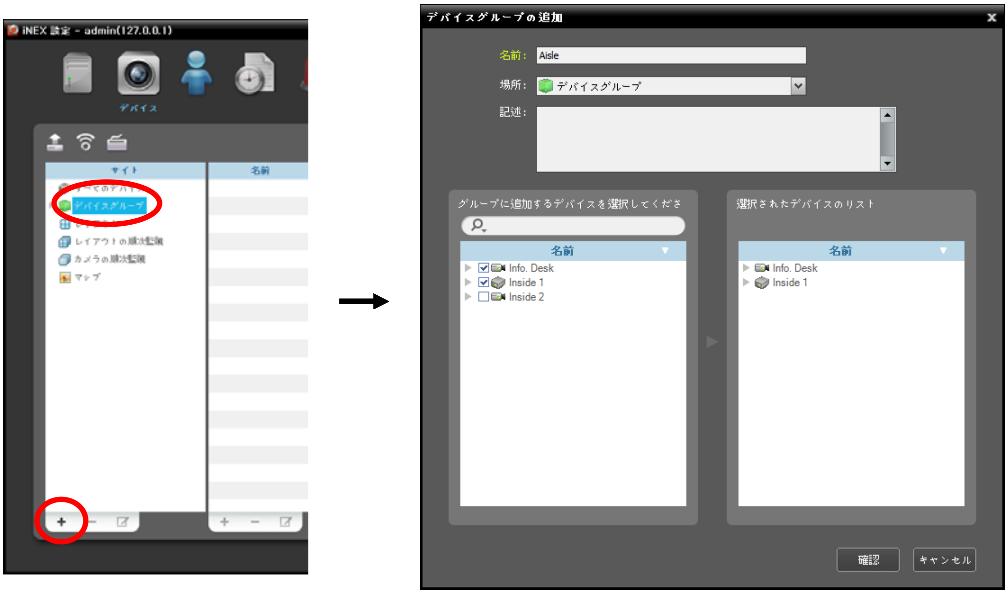
3. “デバイス検索”画面の下段の“デバイス登録”ボタンをクリックします。



- 名前、アドレス、デバイスの種類: 選択したデバイスの名前、IPアドレス及び種類を表示します。デバイスの名前は、デバイスでの設定によって自動的にアップデートされます。
- ID、パスワード: 遠隔接続のために各デバイスで設定したユーザーID及びパスワードを入力します。接続はデバイスの“Administrator”グループ内のユーザーのみ許可され、録画はデバイスの“Administrator”グループ内の“admin”ユーザーのみ許可されます。
- 録画サービス: 録画サービスを選択します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。録画サービスにデバイスが登録され、録画スケジュールによって録画が行われます。録画サービスのチャンネル番号は登録可能なカメラ数を表し、名前はサービスメニューで設定した録画サービスの名前を表します。“録画しない”項目を選択した場合、“録画スケジュール”設定時に該当デバイスが登録されていないものと判断し、該当デバイス関連スケジュールは実行されません。録画が行われた後、録画サービスで該当デバイスを削除すると、該当デバイスを再度登録しても以前の録画映像は検索または再生できません。録画サービスに登録されたデバイスのリストは“サービス”メニューで録画サービス設定時に“デバイス設定”タブで確認できます。詳しい内容は、“第 13 章 — ストレージ管理” (p. 97)部分を参照してください。
- ストリーミングサービス: 選択したデバイスの映像監視する時、ストリーミングサービスを使用するかどうか選択します。ストリーミングサービスを使用する場合、ストリーミング サーバーを通じてクライアントシステムに映像を伝送し、従って多数のユーザーが同時に 映像を監視することができます。ストリーミングが可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数とおなじです。詳しい内容は、“第 10 章 — ストリーミング” (p. 79)部分を参照してください。
- すべてのデバイスに適用: 1つ以上のデバイスを選択した場合、選択したデバイスのユーザーID及びパスワードが全て同じであれば、入力したユーザーID及びパスワードを全てに適用することができます。

- ✓ デバイスがDVRの場合、DVRの仕様及びバージョンによってポート番号の入力が追加要求されることがあります。
- ✓ デバイスがiNEXプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダーである場合、カメラ使用と関係なく、自動で4つのカメラが全て登録されます。

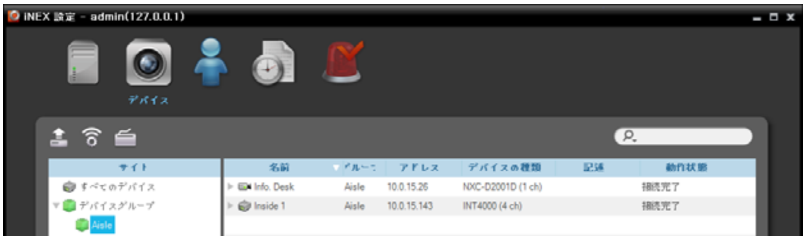
4. “サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“サイト”パネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“デバイスグループの追加”画面が表示されます。



- 名前: デバイスグループの名前を入力します。
- 場所: 該当するデバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。
- グループに追加するデバイスを選択してください、選択されたデバイスのリスト: 左側でカメラの横にあるチェックボックスを選択すると、選択したカメラが右側に追加されます。

“確認”ボタンをクリックすると、該当するデバイスグループが登録されます。

5. デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。“サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後“デバイスグループ”の左側の矢印ボタン(▶)をクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示され、接続状態が表示されます。デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。ネットワーク接続解除ログに関する詳しい内容は、“付録 — ネットワーク接続解除ログ” (p. 135)部分を参照してください。



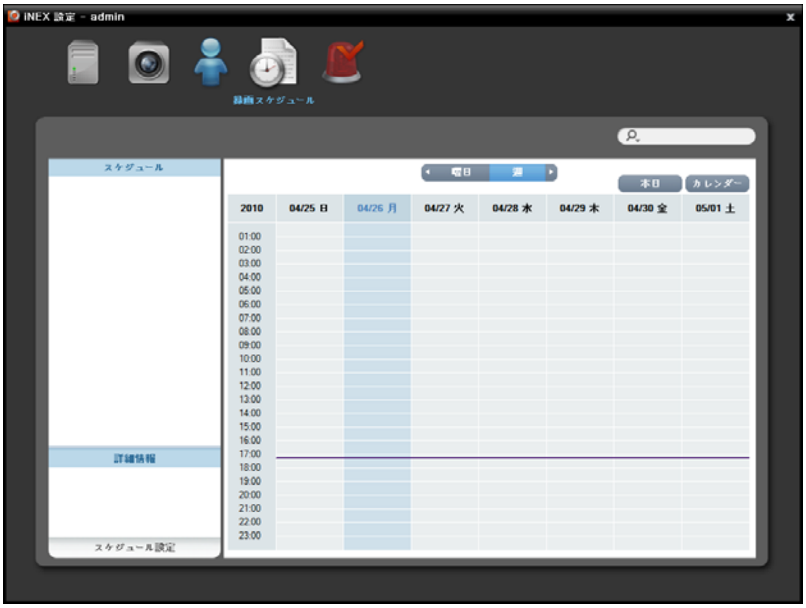
登録されたデバイスグループを選択した後、“サイト”パネルの下段にある ボタンをクリックすると“デバイスグループ修正”画面が表示され、該当するデバイスグループを修正することができます。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81)部分を参照してください。

2.4 リアルタイム映像監視

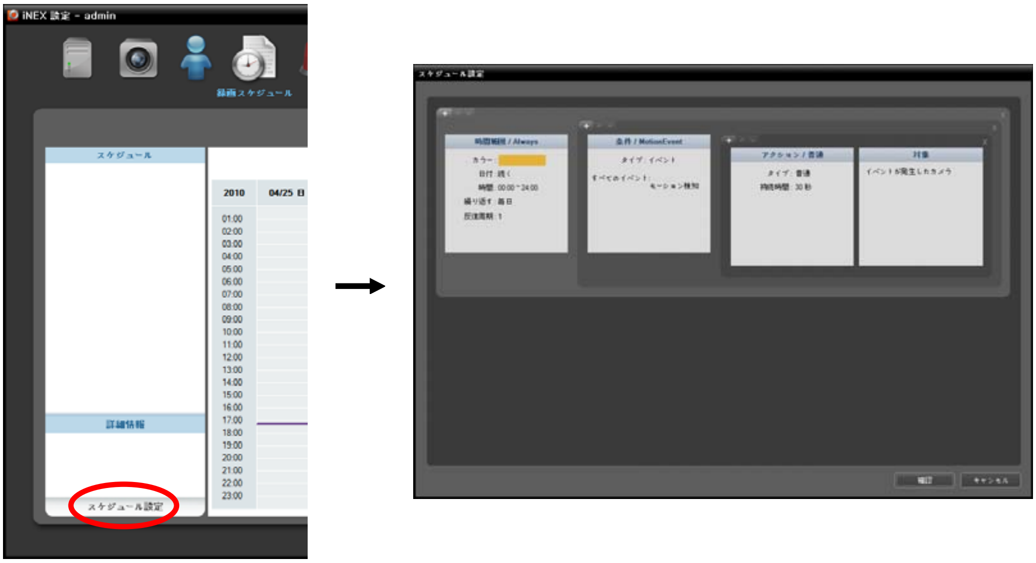
1. “サイト”リストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認します。
2. パネルタブで監視タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。詳しい内容は、“第 4 章 — リアルタイム映像監視” (p. 37)部分を参照してください。

2.5 録画

“iNEX設定”プログラムを実行した後、“録画スケジュール”メニューを選択した後、次の説明を参照して録画スケジュールを設定します。詳しい内容は、“5.1 録画スケジュールの設定” (p. 51)部分を参照してください。



1. 下段の“センサー設定”ボタンをクリックします。“センサー設定”画面が表示されて、現在の設定値を示すスケジュール画面が表示されます。



2. 各スケジュール画面の任意の位置でダブルクリックすると、プリセットの設定画面が表示されます。

3. プリセットリストで希望するプリセットを選択した後、 ボタンをクリックして、新しいプリセットを登録します。プリセットリストでプリセットを選択した後、 または ボタンをクリックすると選択したプリセットを削除するか、プリセットの設定を変更することができます。“確認”ボタンをクリックすると設定が適用されます。

2.6 録画映像再生

1. “サイト”リストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認します。

2. パネルタブで再生タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面またはDVR検索画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。再生パネルまたはDVR検索パネルの下段にあるツールバー及びタイムテーブルを用いて、映像を検索及び再生することができます。詳しい内容は、“第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存”(p. 61)部分を参照してください。

第 3 章 — システムの概要

NVRシステムは次のプログラムで構成されています。

- iNEXサービス管理者: サービスの実行を制御したり、システムログを表示します。詳しい内容は、“3.1 サービス管理者” (p. 17)部分を参照してください。
- “iNEX設定”: サービス、デバイス及びユーザーを追加したり、録画スケジュールイベント管理スケジュール及びストレージを設定します。詳しい内容は、“3.2 設定” (p. 21)部分を参照してください。
- “iNEXクライアント”: 登録されたカメラの映像を監視したり、ストレージに録画された映像を再生または動画で保存することができ、システムログ及びデバイスの状態を確認します。詳しい内容は、“3.3 クライアント” (p. 26)部分を参照してください。PCに“iNEXクライアント”プログラムをインストールして実行することもできます。“iNEXクライアント”プログラムのインストールに関する詳しい内容は、“第 17 章 — 遠隔監視” (p. 119)部分を参照してください。

3.1 サービス管理者

NVRシステムにログインします。ログインに関する詳しい内容は、“2.1 システムに接続、ログイン” (p. 7)部分を参照してください。“システム”メニューの“iNEXサービス管理者”をクリックすると“iNEXサービス管理者”プログラムが実行します。

① メニュー: サービスの実行を制御したりシステムログを表示します。

② 状態情報: サービスの動作状態を表示します。

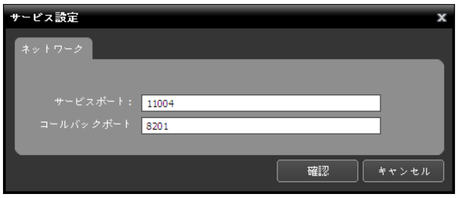
メニュー

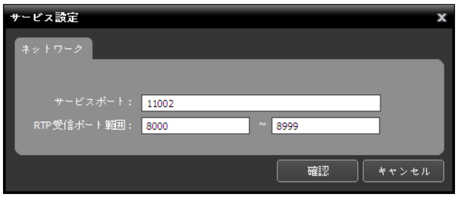
- 条件
  - サーバー設定: ウォッチドッグ(Watchdog)設定を変更することができます。

  - 制限時間(分): サービスが動作しない時のサービス再スタートのための待機時間を設定します。システムの状態を周期的に確認し、設定された時間の間サービスが動作しない場合、サービスを自動的に再スタートします。
  - 再起動条件: サービスが動作しない時のシステムの再起動条件を設定します。“再起動を使用しない”オプションを選ぶと、システムを再起動せずにサービスを再スタートします。

✓ iNEXプログラムで“ウォッチドッグ”とは、サービスが動作しているかを周期的に確認し、設定された時間の間iサービスが動作しない場合、自動的にサービスを再スタートする機能です。

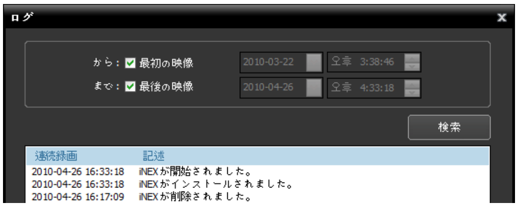
  - サービス設定: サービスリストでサービスを選択した後、“サービス設定”をすると、選択したサービスに接続するための接続情報が設定できます。サービスの種類によって設定の項目が異なる事があります。





- サービスポート: 選択したサービスに接続するためのポート番号を設定します。
- コールバックのポート: デバイスからコールバックメッセージを受信するためのポート番号を設定します(モニタリングサービスの場合にのみ対応)。ポート番号は該当デバイスで遠隔コールバックのために設定したポート番号と同一でなければなりません。
- RTP受信ポート範囲: RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します(録画 / ストリーミングサービスの場合にのみ対応)。ネットワークファイヤーウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。クライアントシステムのRTPポート番号または一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、iNEXプログラムの録画 / ストリーミング機能が支援されない場合があります。

- ログ: "ログを見る"して、システムログを確認したり検索することができます。



検索しようとするログの時間範囲を設定した後、"検索ツール"ボタンをクリックすると、ログ情報を表示します。"最初の映像"オプションを選択すると、最初のログから、"最後の映像"オプションを選択すると、最後のログまで表示します。

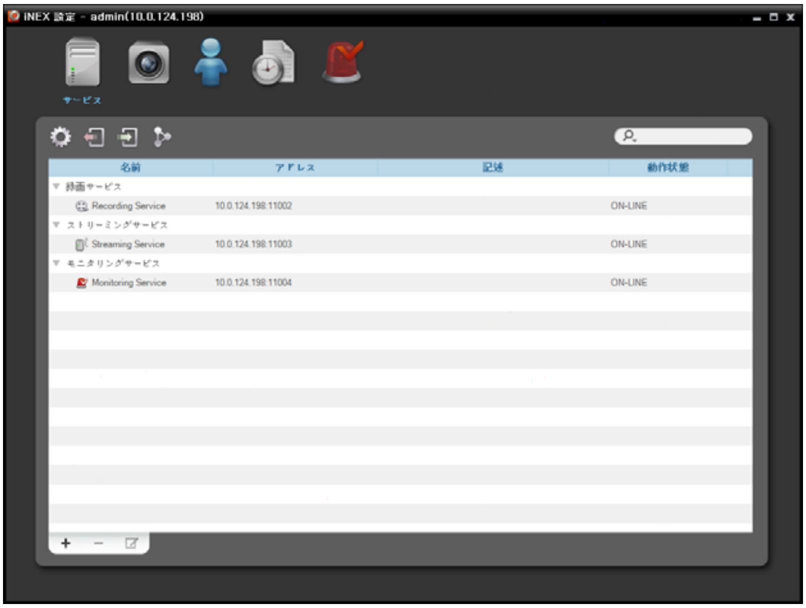
状態情報

- サービス: NVRシステムでサポートするサービスのリストを表示します。
  - 管理サービス: iNEXプログラムの実行のためのサービス、デバイス、ユーザー、スケジュール情報を管理します。管理サービスが動作しない場合、iNEXプログラムは動作しません。
  - 録画サービス: ネットワークビデオデバイスで転送された映像を録画します。録画サービスが動作しない場合、iNEXプログラムが動作しても録画及び既存録画映像再生はは行われません。
  - モニタリングサービス: NVRシステムに登録されたデバイスでリアルタイムイベント及びコールバックイベントが感知された場合、該当イベントをクライアントシステムに通知します。
  - ストリーミングサービス: デバイスから伝送されてきた映像を多数のクライアントシステムにストリーミングします。
- 動作状態: 各サービスの動作状態を表示します。
  - 作動中: サービスが正しく作動していることを示します。"iNEX設定"及び"iNEXクライアント"プログラムを実行することができ、録画スケジュールに従って録画が行われます。
  - 失敗: 何らかの問題によりサービスの実行が中断されたことを示します。ウォッチドッグの設定に従ってサービスを再スタートしたり、システムを再起動します。ウォッチドッグの設定についての詳しい内容は、"メニュー" (p. 17)部分を参照してください。
- CPUの使用量: 各サービスのCPUの使用量を表示します。
- メモリー使用量: 各サービスのメモリー使用量を表示します。

サービスデータベースのバックアップ/復元

(サービスデータベースのバックアップ)ボタンをクリックしてサービスと関わる設定値をUSB保存デバイスに".iexp"ファイルで保存することができます。また (サービスデータベースの復元)ボタンをクリックして保存された設定値を読み込んで現在のNVRシステムに適用することができます。

"iNEX設定"プログラムを実行します。

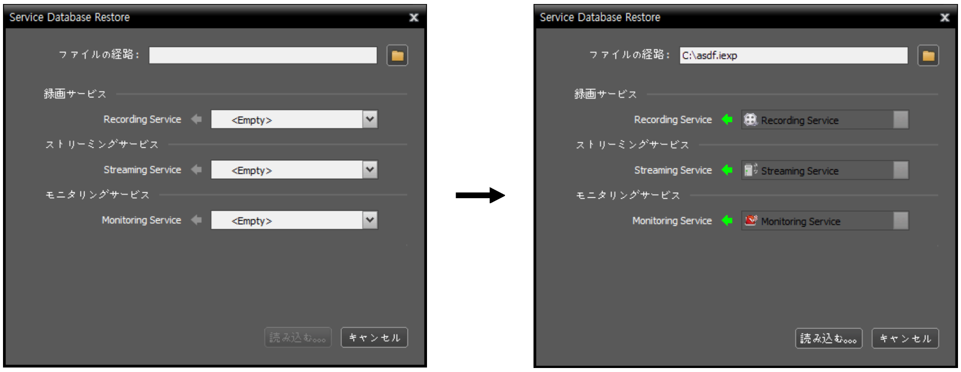


サービスデータベースのバックアップ

(サービスデータベースのバックアップ)ボタンをクリックします → 設定ファイル名を入力してから現在の設定値を保存します → 保存が終わったらそのサービスのリストが表示されます。

サービスデータベースの復元

(サービスデータベースの復元)ボタンをクリックします。



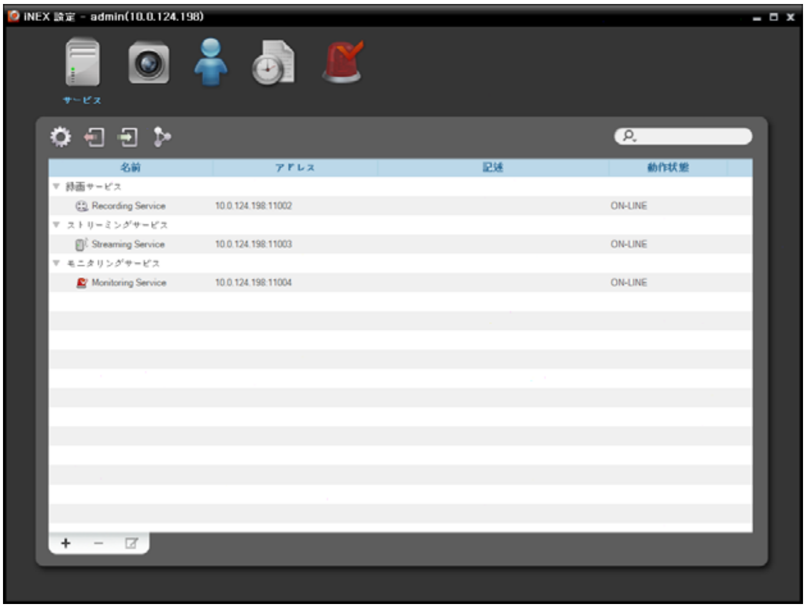
右側上段の ボタンをクリックしてから適用する設定ファイルを選択します → アイコンの左側は現在のNVRシステムのサービスを表示します。アイコンの右側は選択した設定ファイルに保存されたサービスを表示します。アイコンの右側のドロップダウンメニューで適用するサービスを選択します。アイコンの左側に同じ種類のサービスが一つである場合、又は設定ファイルで保存されたサービスが現在のNVRシステムからバックアップされたサービスの場合はサービスが自動で適用されます →下段の"復元"ボタンをクリックします → 適用が終わったら"iNEX設定"プログラムが再起動します。

✓ この機能は次の場合には支援されません。
- アイコンの右側にあるサービスのソフトウェアバージョンが アイコンの左側にあるサービスのソフトウェアバージョンより高い場合
- アイコンの左側および右側にあるサービスの種類が異なる場合

カスケード

二つ以上のNVRシステムを使用する場合、NVRシステムをマスターとスレーブで区分して使うことができます。この場合、マスターNVRシステムでは、マスター及びスレーブNVRシステムに登録されたすべてのデバイスに対して映像監視や録画映像検索ができます。

“iNEX設定”プログラムを実行します → (カスケード)ボタンをクリックします。



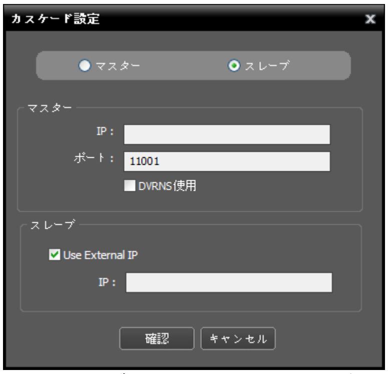
マスターNVR設定

- マスター、スレーブ: “マスター”を選択します。NVRシステム、又はNVRシステムに登録されたスレーブNVRシステム(最大7個)の映像を監視することや録画映像を検索することができます。使用者が設定を変更しない限り、NVRシステムはマスターNVRシステムで動作します。この設定はスレーブで動作したNVRシステムをマスターNVRシステムに復元する時使います。

1. 下段にある“確認”ボタンをクリックします。
2. マスターNVRシステムのIDとパスワードを入力します。
3. マスターNVRシステムに登録されていたNVRシステムの録画及びストリーミングサービスがNVRシステムに復元されます。ただ、復元される際、一部のデバイス(録画サービスに登録されていないデバイス)が削除されます。デバイスグループ、デバイス映像を監視する時、ストリーミングサービスを使用するかしないかなどデバイス関連設定がすべて初期化されるため、再設定が必要です。

スレーブNVR設定

✓ スレーブで動作したNVRシステムをマスターNVRシステムに復元させる時、一部デバイス(録画サービスに登録されていないデバイス)が削除されます。デバイスグループ、デバイス映像を監視する時、ストリーミングサービスを使用するかしないかなどのデバイス関連設定がすべて初期化されるため、再設定が必要です。必要である場合、スレーブNVRシステムを設定する前、デバイス関連現在の設定情報を記録してください。



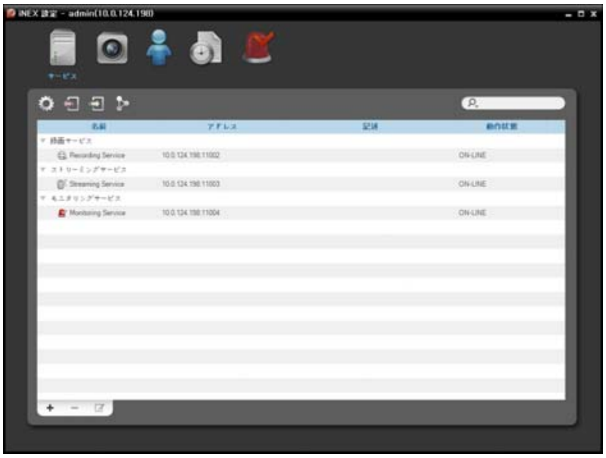
- マスター、スレーブ: “マスター”を選択します。NVRシステムをマスターNVRシステムに登録してマスターNVRシステムでNVRシステムの映像監視、または録画映像を検索することができます。
  - マスター: マスターNVRシステムのIPアドレス及びポー番号を入力します。マスターNVRシステムがDVRNS機能を使う場合“DVRNS使用”を選択してIPアドレスの代りにDVRNSサーバーに登録されたマスターNVRシステムの名前を入力します。DVRNSサーバーに登録された名前はマスターNVRシステムのDVRNS設定で確認できます(マスターNVRシステムに接続 → “iNEX設定”プログラムの“サービス”メニューで (システム設定)ボタンクリック → “DVRNS”クリック)。
  - スレーブ: 現在のNVRシステムがDVRNS機能を使う場合、別途設定は必要ありません。NVRシステムがDVRNS機能を使用しない場合、NVRシステムの外部IPアドレスを入力します。外部IPアドレスが正しくない場合、映像監視及び録画映像検索ができない可能性もあります。NVRシステムのDVRNS設定は“サービス”メニュで → (システム設定)ボタン → “DVRNS”設定で変更することができます。

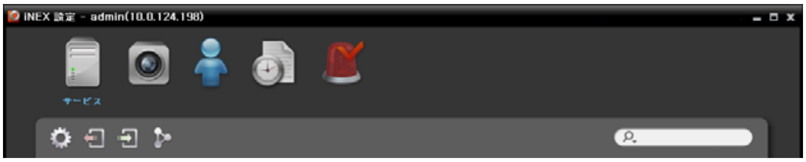
1. 下段にある“確認”ボタンをクリックします。
2. マスターNVRシステムのIDとパスワードを入力します。
3. NVRシステムの録画サービス及びストリーミングサービスがマスターNVRシステムに登録されます。この際、録画サービスに登録されていたデバイスも同時に登録されます。
4. NVRシステムが再起動します。

3.2 設定

NVRシステムにログインします。ログインに関する詳しい内容は、“2.1 システムに接続、ログイン” (p. 7)部分を参照してください。“システム”メニューの“iNEX設定”をクリックして“iNEX設定”プログラムを実行します。

→





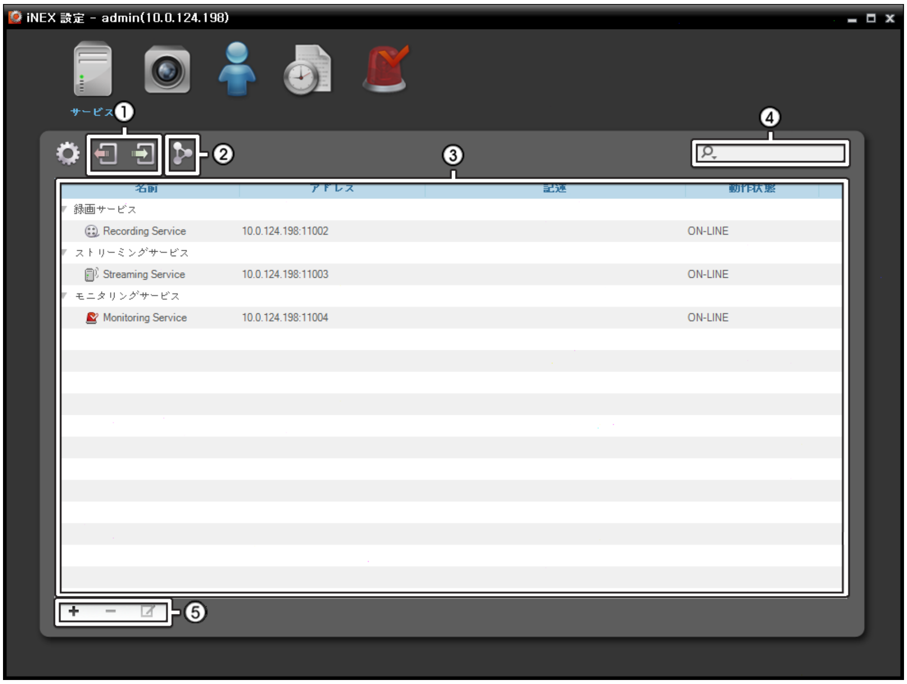
- サービス: サービス及びストレージを登録及び管理します。詳しい内容は、“サービス” (p. 22)部分を参照してください。
- デバイス: サイトを登録及び管理します。詳しい内容は、“デバイス” (p. 23)部分を参照してください。

- ユーザー(使用者): ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。詳しい内容は、"ユーザー(使用者)" (p. 24)部分を参照してください。
- 録画スケジュール: 録画スケジュールを設定します。詳しい内容は、"録画スケジュール" (p. 24)部分を参照してください。
- イベント管理: イベント管理スケジュールを設定します。詳しい内容は、"イベント管理" (p. 25)部分を参照してください。
- (システム設定): NVRシステムを設定します。詳しい内容は、"2.2 システム設定" (p. 8)部分を参照してください。

✓ 次の場合に設定画面の右下に警告メッセージが表示されます。
- 録画サービスに保存空間が割り当てされていない場合
- 録画の保存空間がない場合

サービス

サービス及びストレージを登録及び管理します。



① (サービスデータベースのバックアップ)、(サービスデータベースの復元): サービスと関わる設定値をUSB保存デバイスに".iexp"ファイルに保存することができます。また保存された設定値を読み込んで現在のNVRシステムに適用することができます。詳しい内容は、"3.1 サービス管理者、サービスデータベースのバックアップ/復元" (p. 18)部分を参照してください。

② (カスケード): 二つ以上のNVRシステムを使用する場合、NVRシステムをマスターとスレーブで区分して使うことができます。この場合、マスターNVRシステムではマスター及びスレーブNVRシステムに登録されたすべてのデバイスに対して映像監視や録画映像検索ができます。詳しい内容は、"3.1 サービス管理者、カスケード" (p. 20)部分を参照してください。

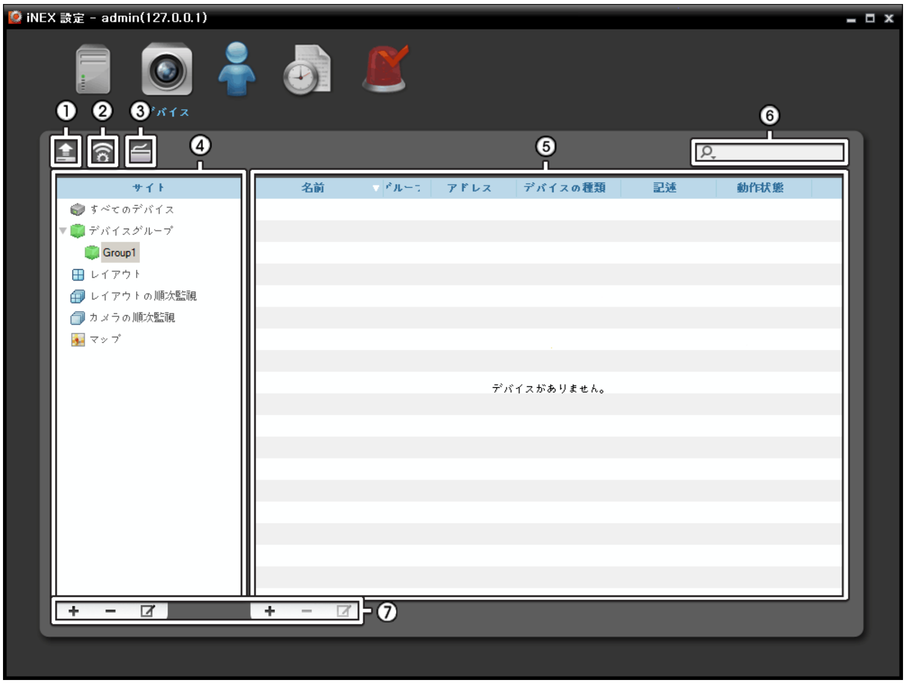
③ 名前: iNEXプログラムに対応するサービスのリストを表示します。サービスの横の矢印ボタン()をクリックすると、iNEXプログラムに登録されたサービスのリスト及び情報が表示されます。
- アドレス: IPアドレス及びポート番号を表示します。
- 動作状態: 接続状態を表示します。

④ (検索): NVRシステムに登録されたサービスを検索します。検索語を入力して入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。

⑤ ✚ (追加)、━ (削除)、☑ (変更): サービス及びストレージを登録するか、削除または変更します。録画のための保存スペース登録に関する詳しい内容は、“第 13 章 — ストレージ管理” (p. 97)部分を参照してください。

デバイス

サイトを登録及び管理します。



① (多重ファームウェアアップグレード): 複数のデバイスのソフトウェアを一括にアップグレードすることができます。詳しい内容は、“11.2 デバイスの管理、ファームウエアアップグレード” (p. 87)部分を参照してください。

② (多重遠隔設定): 設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括に変更できます。詳しい内容は、“11.2 デバイスの管理、デバイスを遠隔設定” (p. 87)部分を参照してください。

③ サイトパネル: iNEXプログラムでサポートするサイトグループのリストを表示します。

④ (ネットワークキーボード設定): ネットワークキーボードを登録、削除、修正することから ネットワークキーボードを利用してクライアントプログラムを制御することができます。詳しい内容は、“第 16 章 — ネットワークキーボードを利用した制御” (p. 113)部分を参照してください。

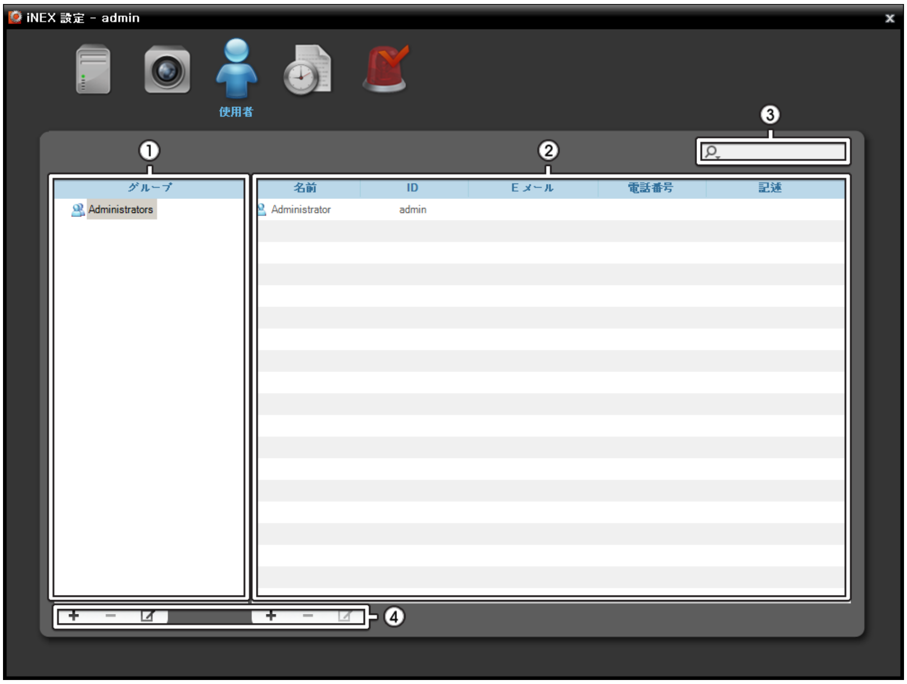
⑤ サイトリストのパネル: 各サイトグループに登録されたサイトリスト及び情報を表示します。デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。ネットワーク接続解除ログに関する詳しい内容は、“付録 — ネットワーク接続解除ログ” (p. 135)部分を参照してください。デバイス名の横の矢印ボタン(▶)をクリックすると、該当するデバイスでサポートするビデオ入力、アラーム入力/出力およびオーディオ入力/出力の状態情報を表示します(“録画”: タイムラプス録画またはイベントベース録画のうち、“緊急録画”: 緊急録画中、“待機中”: 録画待機中)。

⑥ (検索): 各グループに登録されたサイトを検索します。“サイト”ネルでサイトグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。

⑦ ✚ (追加)、━ (削除)、☑ (変更): サイトを登録するか、削除または変更します。サイトを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューを利用してサイトを該当グループから削除したり、登録情報を変更することもできます。選択したサイトがデバイスである場合、デバイスに接続してデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。"すべてのデバイス"でデバイスを削除する場合、デバイスを再登録してもNVRシステムは他のデバイスで認識します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ該当)。デバイス及びデバイスグループの登録に関する詳しい内容は、"第 11 章 — デバイス管理" (p. 81)部分を、レイアウト及び順次監視登録に関する詳しい内容は、"第 4 章 — リアルタイム映像監視" (p. 37)部分を参照してください。

ユーザー(使用者)

ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。



① グループパネル: 登録されたユーザーグループのリストを表示します。"Administrators"グループはすべての機能に対する権限を持っており、修正することはできません。

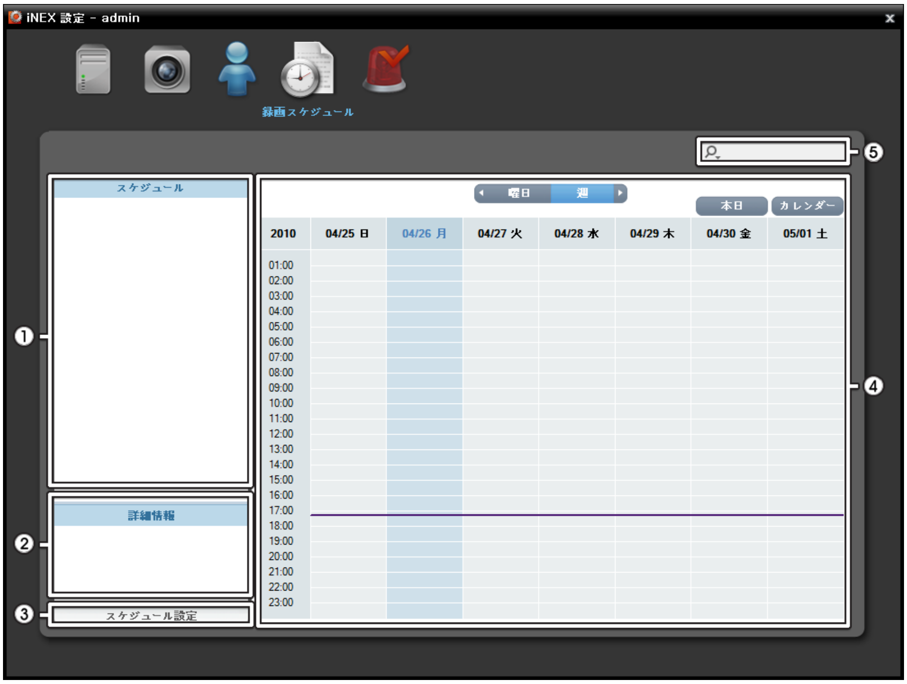
② ユーザーリストパネル: 各ユーザーグループに登録されたユーザーのリスト及び情報を表示します。

③ (検索): 各グループに登録されたユーザーを検索します。"グループ"パネルからユーザーグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されたら、その結果が表示されます。

④ ✚ (追加)、━ (削除)、☑ (変更): ユーザーグループまたはユーザーを登録するか削除または変更します。

録画スケジュール

録画のためのスケジュールを設定します。



① スケジュールパネル: 登録されたスケジュールリストを表示します。NVRシステムはスケジュールに従って録画を行います。

② 詳細情報パネル: 選択した録画スケジュールの設定値を表示します。

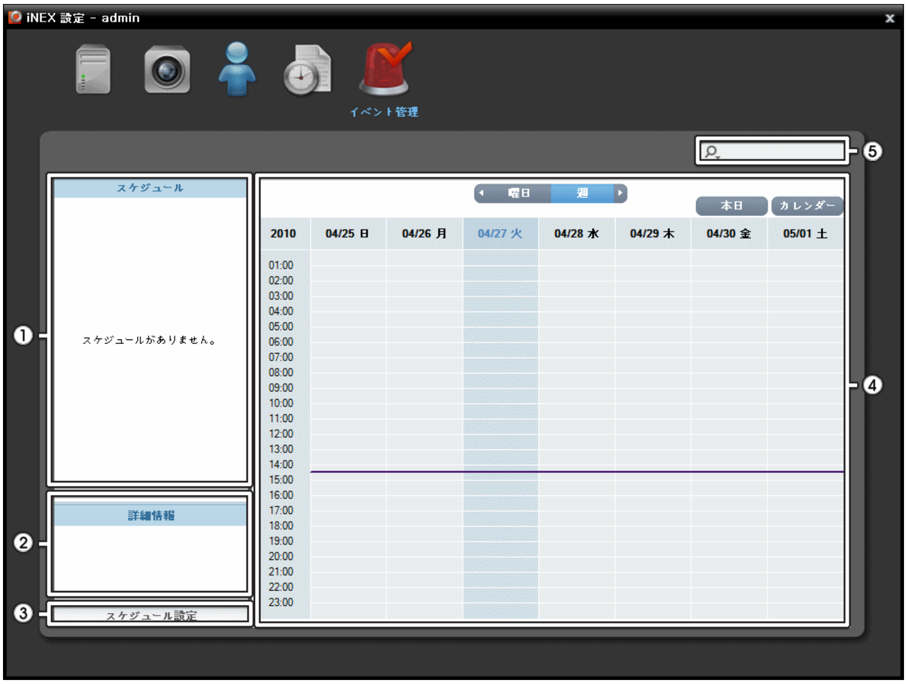
③ スケジュール設定: タイムラプス録画またはイベントベース録画のための録画スケジュールを登録したり、緊急録画のための録画設定値を設定します。詳しい内容は、“5.1 録画スケジュールの設定” (p. 51)部分を参照してください。

④ スケジュールテーブル: 現在設定された日別または週間別録画スケジュールを表示します。本日 ボタンをクリックすると本日の録画スケジュールを表示し、カレンダー ボタンをクリックするとカレンダーを表示します。

⑤ (検索): 登録されたスケジュールを検索します。検索語を入力すると、その結果を表示します。

イベント管理

イベント管理のためのスケジュールを設定します。



① スケジュールパネル: 登録されたスケジュールリストを表示します。NVRシステムはスケジュールに従ってイベントを管理します。

② 詳細情報パネル: 選択したイベント管理スケジュールの設定値を表示します。

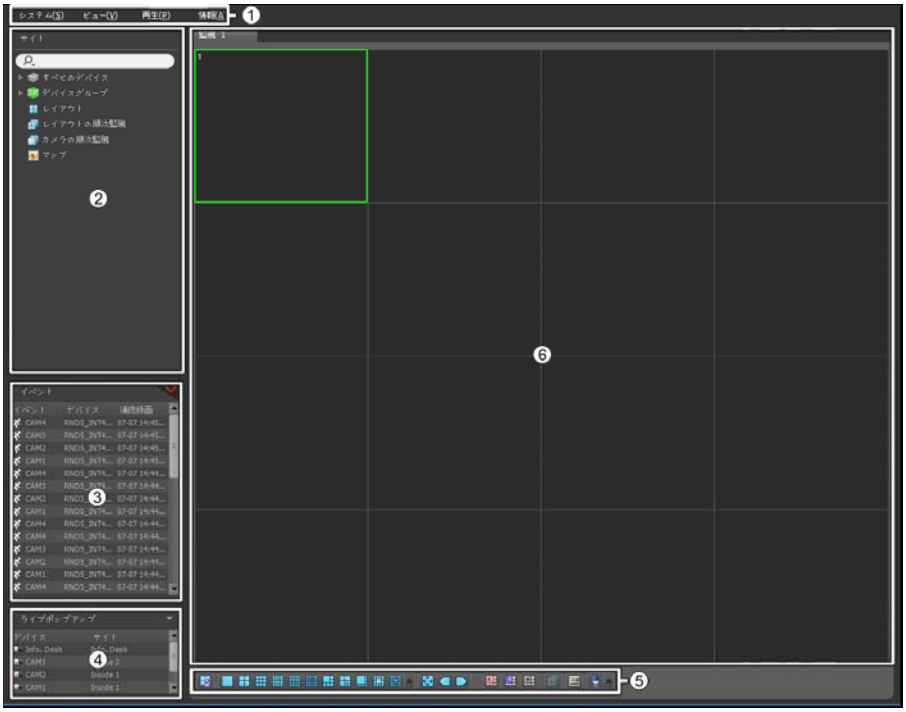
③ スケジュール設定: イベント管理スケジュールを設定します。詳しい内容は、“14.1 イベント管理スケジュール 設定” (p. 99)部分を参照してください。

④ スケジュールテーブル: 現在設定された日別または週間別イベント管理スケジュールを表示します。 本日 ボタンをクリックすると本日のイベント管理スケジュールを表示し、 カレンダー ボタンをクリックするとカレンダーを表示します。

⑤ (検索): 登録されたスケジュールを検索します。検索語を入力すると、その結果を表示します。

3.3 クライアント

システムが稼働すると“iNEXクライアント”プログラムが自動的に実行されます。ソフトウェアインストールCDのクライアントソフトのインストールファイルを実行して“iNEXクライアント” ソフトを遠隔で実行することもできます。“iNEXクライアント”ソフトの遠隔実行に関する詳しい内容は、“第 17 章 — 遠隔監視” (p. 119)部分を参照してください。



① メニュー: “iNEXクライアント”のプログラムを制御します。詳しい内容は、“メニュー” (p. 28)部分を参照してください。

② サイトリスト: マウスでドラッグ&ドロップを利用して登録されたサイトに接続します。詳しい内容は、“サイトリスト” (p. 29)部分を参照してください。

③ 最近のイベントのリスト: 登録されたデバイスのリアルタイムイベントまたはコールバックイベントを表示します。デバイスが使用するプロトコルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。詳しい内容は、“第 7 章 — イベント処理” (p. 71)部分を参照してください。ボタンをクリックすると“イベントマネージャー”パネルが表示されます。詳しい内容は、“14.1 イベント管理スケジュール 設定” (p. 99)部分を参照してください。

④ ライブポップアップリスト: 現在クライアントシステムに挙がっているポップアップ画面のリストを表示します。ライブポップアップに関する詳しい内容は、“14.2 イベント管理、ライブポップアップ” (p. 105)部分を参照してください。

⑤ パネルのツールバー/タイムテーブル: パネルによってツールバーまたはタイムテーブルを表示します。詳しい内容は、“4.3 カメラの制御” (p. 45)または、“6.1 録画映像再生” (p. 61)部分を参照してください。

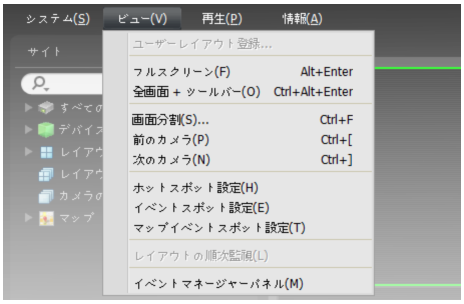
⑥ パネル: 選択したタブの映像またはリストを表示します。詳しい内容は、“パネル” (p. 29)部分を参照してください。

メニュー

システム

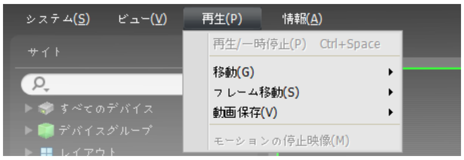
- 新しいタブ: パネルを追加します。監視、再生、バックアップ検索、DVR検索、マップパネルの場合合わせて最大12つのパネルが支援されます(マップパネルの場合、最大2つ、残りのパネルの場合、それぞれ最大4つ)。イベント、イベント履歴、レポート、動作状態、デバイス状態パネルの場合、それぞれ1つのパネルが支援されます。
- 排除: 選択したデバイス、カメラまたはすべてのカメラを監視画面または再生画面から排除します。
- 保存、プリント: 選択したタブのパネルに表示される映像またはリストを保存または印刷します(一部パネルの場合、サポートされない)。
- 環境設定: “iNEXクライアント”プログラムの基本設定を変更します。詳しい内容は、“メニュー – 環境設定” (p. 30)部分を参照してください。
- iNEX 設定: “iNEX設定”プログラムを実行します。
- iNEXサービス管理者: “iNEXサービス管理者”プログラムを実行します。
- ログイン、ログアウト: “iNEXクライアント”のプログラムにログインまたはログアウトします。
- iNEX Language Selector: iNEXプログラムを実行時、使用する言語を変更する事ができます。
- iNEX Update: NVRシステムをアップグレードすることができます。詳しい内容は、“1.5 アップグレード” (p. 3)部分を参照してください。
- 終了: NVRシステムを終了します。

ビュー



- ユーザーレイアウト登録: 現在の画面分割を保存します。
- フルスクリーン: 選択した監視または再生パネルをフルスクリーンで表示します。
- 全体画面 +ツールバー: 選択した監視または再生パネルをパネルツールバーと一緒に全体画面で表示します。
- 画面分割: 画面分割を変更することができます。
- 前のカメラ、次のカメラ: 前または次のカメラグループに移動します。ホットスポット設定: 選択したカメラ画面をホットスポット画面で設定します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、ホットスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- イベントスポット設定: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、イベントスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- マップイベントスポット設定: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、“15.1 マップの登録、マップイベントスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: レイアウトの順次監視を開始または終了します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 40)部分を参照してください。
- イベントマネージャーパネル: イベントマネージャーパネルを表示します。詳しい内容は、“第 14 章 — イベント管理” (p. 99)部分を参照してください。

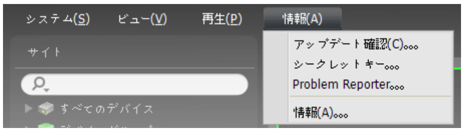
再生



- 再生/一時停止: 録画された映像を再生したり映像再生を一時停止します。
- 移動: 再生する映像の時点を選択します。詳しい内容は、“6.1 録画映像再生、パネルのツールバー” (p. 61)部分を参照してください。

- フレーム移動: フレームまたは時間単位で、前または次の映像に移動します。
- 動画保存: 録画映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。
- モーションの停止映像: イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。詳しい内容は、“6.1 録画映像再生、モーションイベントの停止映像” (p. 64)部分を参照してください。

情報



- アップデート確認: アップグレード可能なソフトウェアバージョンを表示します。
- シークレットキー、ProblemReporter: 必要な場合、製品の購入先の指示に従って使います。
- 情報: ソフトウェアのバージョンまたは著作権の情報を表示します。

サイトリスト

登録されたサイトリストを表示します。映像監視または再生中に画面で選択したカメラのデバイス名が上段に表示されます。

- (検索): 登録されたサイトを検索します。検索語を入力すればその結果を表示します。
- すべてのデバイス: NVRシステムに登録されたデバイスのリストを表示します。リストでデバイスをクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでラッグ&ドロップすれば、該当するデバイスに接続しているカメラの映像を監視したり、カメラの録画映像を再生することができます。この機能は“Administrator”グループに属するユーザーのみ設定できます。
- デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。リストでデバイスをクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでラッグ&ドロップすれば、該当するデバイスに接続しているカメラの映像を監視したり、カメラの録画映像を再生することができます。詳しい内容は、“4.1 映像監視” (p. 37)または、“6.1 録画映像再生” (p. 61)部分を参照してください。
- レイアウト: 登録されたレイアウトリストを表示します。リストでレイアウトをクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすれば、レイアウトの監視または再生を行います。詳しい内容は、“4.1 映像監視、レイアウトの監視” (p. 39)または、“6.1 録画映像再生” (p. 61)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。リストでレイアウトの順次監視をクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすると、レイアウトの順次監視を行います。詳しい内容は、“4.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 40)部分を参照してください。
- カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。リストでカメラの順次監視をクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、カメラの順次監視を行います。詳しい内容は、“4.1 映像監視、カメラの順次監視” (p. 42)部分を参照してください。
- マップ: 登録されたマップのリストを表示します。リストでマップの順次監視をクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、マップ監視を行います。詳しい内容は、“4.2 マップ監視” (p. 44)部分を参照してください。

パネル

- 監視: リアルタイム映像を表示します。詳しい内容は、“4.1 映像監視” (p. 37)部分を参照してください。
- 再生: NVRシステムに保存されていた録画映像を再生することができます(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。詳しい内容は、“第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存” (p. 61)部分を参照してください。
- バックアップ検索: バックアップサーバーに保存されたバックアップ映像が再生できます(本機能には現在対応していません)。
- DVR検索: DVRまたはiNEXプロトコルを使用するネットワークカメラのSD(SDHC)メモリーカードに保存された録画映像が再生できます。詳しい内容は、“第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存” (p. 61)部分を参照してください。

- マップ: マップを表示します。詳しい内容は、"4.2 マップ監視" (p. 44)部分を参照してください。
- イベント: イベント録画時に録画されたイベントのリストを表示します。イベントのリストでイベントをダブルクリックするか、イベントを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、該当イベントの録画映像と該当イベントと連動して録画されたカメラの映像が再生画面に表示されます。詳しい内容は、"第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存" (p. 61)部分を参照してください。
- イベント履歴: イベントマネージャーパネルに通知されたイベントのログを表示します。詳しい内容は、"第 14 章 — イベント管理" (p. 99)部分を参照してください。
- レポート: iNEXプログラムのログを表示します。詳しい内容は、"第 9 章 — ログ検索" (p. 77)部分を参照してください。
- 動作状態: デバイスグループに登録されたデバイスの動作状態を点検し、その結果を表示します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。詳しい内容は、"第 8 章 — システムの動作状態及びデバイス状態の監視" (p. 75)部分を参照してください。
- デバイス状態: 知りたいデバイスの状態をリアルタイムで表示します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。詳しい内容は、"第 8 章 — システムの動作状態及びデバイス状態の監視" (p. 75)部分を参照してください。

✓ パネルタブでマウスの右ボタンをクリックし、タブの名前を変更することができます。

パネルの追加及び削除

"システム"メニューをクリックします。→ "新しいタブ"をクリックします。→ 追加するパネルを選択します。

各タブの横の ☒ ボタンをクリックするとそのパネルが削除されます。

パネルのフローティング及び固定

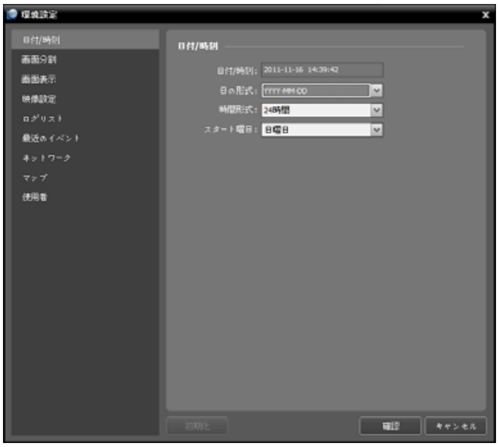
パネルタブをクリックした後、マウスでドラッグ&ドロップすると、該当するパネルが画面上にフローティング(浮上)します。フローティングされているパネルタブをクリックした後、元の位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、該当位置に固定します。マウスでドラッグ&ドロップを利用してパネルタブの順序を変更することもできます。

- フローティングされたパネル最大化: フローティングされたパネルの上右側のスクリーン最大化/以前サイズ復元ボタンをクリックするとパネルを最大化することや以前のサイズに復元することができます。
- フローティングされたパネルに地点リスト表示/非表示: フローティングされたパネルの画面でマウス右側ボタンをクリックし、画面メニューで"遠隔地点パネル"を選択するとフローティングされたパネルに地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。

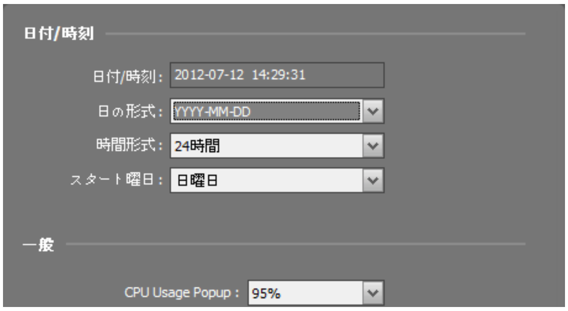
メニュー－環境設定

"iNEXクライアント"プログラムの基本設定をユーザーが希望どおりに設定することができます。"システム"メニューの"環境設定"をクリックします。環境設定画面が表示されます。

→

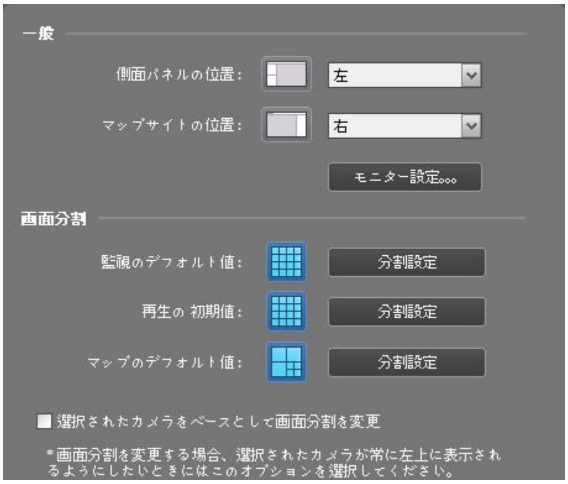


システム



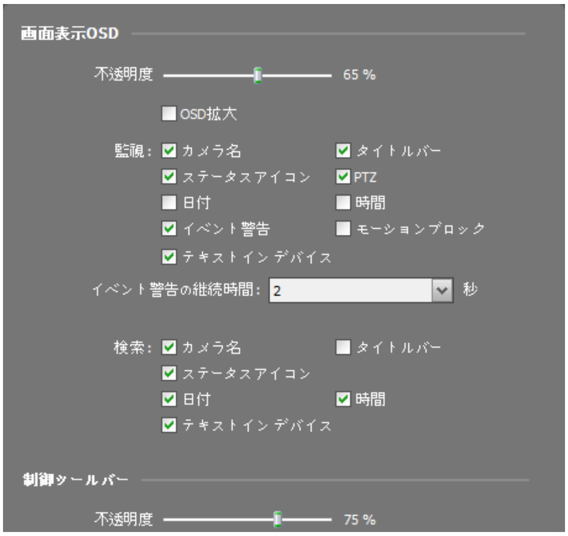
- 日付/時間: 現在の日付と時間を表示します。
- 日付形式、時間形式: システムの日付及び時刻の表示形式を設定します。
- スタート曜日: 一週間の最初の曜日を設定します。
- CPUの使用量ポップアップ: クライアントシステムのCPUの使用量が設定した値を超える場合は警告メッセージが表示されます。

画面分割



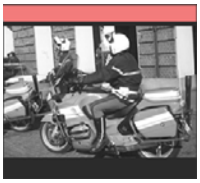
- 側面パネルの位置、マップサイドの位置: 側面パネルの位置及びマップパネルでルートマップリストの位置を設定します。
- モニター設定: NVRシステムのモニターを設定します。モニター設定時にディスプレイアダプターのデバイスドライバーをアップデートしないでください。アップデート時にシステムが正しく動作しないことがあります。
- 監視のデフォルト値、再生の初期値、マップの初期値: 監視画面、再生画面及びマップ画面の基本画面分割を表示し、"分割設定"ボタンをクリックして基本の画面分割を変更することができます。
- ☑ 選択されたカメラをベースとして画面分割を変更: 画面分割が変更される時、現在の画面で選択したカメラが変更される分割画面の最初のカメラ画面に位置します。

画面表示



- 画面表示OSD: カメラ画面でのOSD(On Screen Display)の表示方法及び表示するか否かを設定します。"不透明度"のスライドバーを用いて、OSDの不透明度を調整することができ、"OSD拡大"を選択して、画面のサイズに合わせてOSDの大きさを拡大することができます。画面に表示されるOSD情報に対しては次を参照してください。
  - ☑ カメラ名: iNEXプログラムで設定したカメラ名を表示します。
  - ☑ タイトルバー: カメラ画面の上段にタイトルを表示するエリアを区分します。
  - ☑ ステータスアイコン: ステータスOSDを表示します(● (赤色): タイムラプス録画またはイベントベース録画中、● (オレンジ色): 緊急録画中、P: PTZ、□: カメラ順次監視、⊕: 映像拡大、🔈: リスニングまたはトーク)。
  - ☑ PTZ: PTZカメラ制御時、画面にPTZ制御ボタンを表示します。
  - ☑ 日付、☑ 連続録画: NVRシステムの日付および時間を表示します。
  - ☑ イベント警告: デバイスでイベントが発生すると、該当するカメラのタイトルバーを赤色で表示します。イベント警告の表示は、イベント発生後に設定された"イベント警告の持続時間"が過ぎると解除され、"手動で解除"に設定すると、該当するカメラ画面選択時に解除されます。
  - ☑ モーションブロック: デバイスで、モーション感知イベントが発生すると、モーションが感知されるエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(iNEXプロトコルを使用するネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。
  - ☑ テキスト-イン: デバイスにテキスト-インイベントが発生した場合、テキスト-イン情報を画面上に表示します(1x1分割画面にのみ対応) (iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- 制御ツールバー: "不透明度"スライドバーを利用して、カメラ画面の制御ツールバーの不透明度を調整します。

カメラ名、ステータスアイコン、日付/連続録画

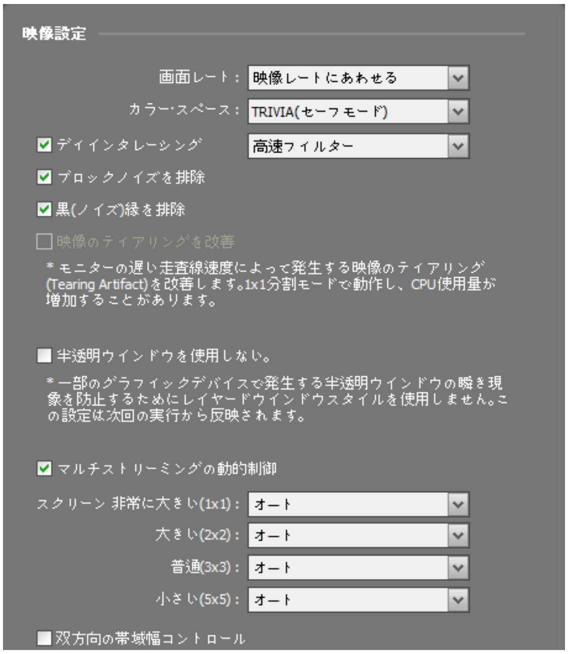


イベント警告

モーションブロック

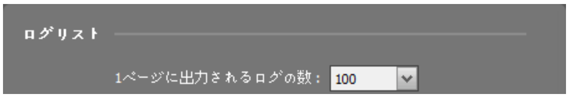
制御ツールバー

映像設定



- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
  - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートで、カメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
  - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
  - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
  - 実際サイズ(×1): 映像の実際のサイズに出力します。
- カラー･スペース: 画面で映像をディスプレイするためのカラー･スペースを選択します。カラー･スペースの設定に従って、映像の色感やディスプレイ性能に差が出ることがあります。
- ☑ ディインタレーシング: インタレーシングモードでエンコードされている映像の場合、モーションのある部分に発生する横線やノイズを排除し、映像出力の品質を向上させます。希望するディインタレーシングフィルターを選択します。
- ☑ ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の出力品質を向上させます。
- 黒(ノイズ)縁を排除: 映像の端に出力される黒い縁(ノイズ)を排除します。
- ☑ 映像のティアリングを改善: モニターの遅い走査線速度によって発生する映像のティアリングを改善します(1×1画面分割モードでのみ)。この場合、CPU使用量が増加することがあります。
- ☑ 半透明ウインドウを使用しない: ウインドウ画面の透明な部分で瞬き現象が発生した場合、これを防止するために、半透明ウインドウスタイルを使用しないように設定します。半透明のウィンドウスタイルを使わなければ制御ツールバーをはじめとするウインドウ画面が不透明に表示されます。変更された設定は次の実行の時から適用されます。
- ☑ マルチストリーミングの動的制御: 画面分割モードによって違うストリームを使用するように設定できます(ひとつ以上のストリームが使っているデバイスのみ支援)。“自動”を選択するとiNEXプログラムがその画面の分割モードに適当なストリームを自動に設定します。
- ☑ 双方向の帯域幅コントロール: 画面分割によってデバイスの解像度とフレーム速度を流動的に変更し、ネットワークの帯域幅をコントロールします(1×1分割: 該当デバイスでサポートする最大解像度および転送速度、多分割: 各画面の分割に適切なレベルに低くした解像度およびフレーム速度)。これにより、ネットワーク帯域幅を効率的に使うことによってネットワークの負荷によって起こるクライアントシステムの性能低下を減らすことができます。本機能が動作するためにはデバイスにも該当機能が設定されていなければなりません。本機能は監視映像に対してのみ動作します。

ログリスト



1ページに出力されるログの数を設定します(“デバイスログ”の場合、設定に関係なく100個)。

最近のイベント

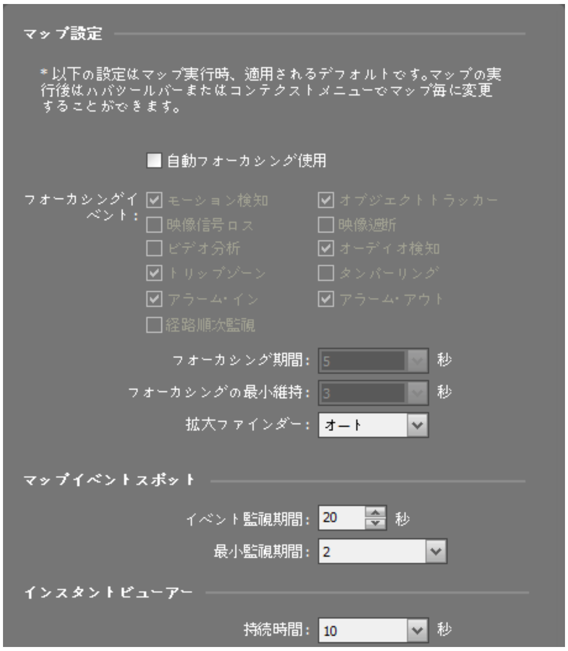
- 時間範囲: 最近のイベントのリストに表示される各イベント通知の表示期間を設定します(イベントのリストが100個以上である場合にのみ該当)。
- コラム: 最近のイベントのリストに表示しようとする情報を選択します。
- コールバックのポート: デバイスからコールバックメッセージを受信するためのポート番号を設定します。但し、本設定はモニタリングサービスが動作しない場合にのみ使用し、モニタリングサービスが動作する場合にはサービス管理者で設定したモニタリングサービスのコールバックポートを使用します。ポート番号は該当デバイスで遠隔コールバックのために設定したポート番号と同一でなければなりません。
- イベントのサウンド: イベント発生時、オーディオを再生してサウンドを出力するように設定します。希望するイベントを選択した後、... ボタンをクリックして出力するオーディオファイル(.wav)を設定します。▶ ボタンをクリックすると該当オーディオファイルを再生して、サウンドを確認することができます。
- イベントスポット: イベントスポット画面に表示される映像の持続時間を設定します。現在イベントが表示される間に他のイベントが検知される場合現在表示されるイベントは最小監視期間のみ表示され、以後には他のイベントが表示されます。

ネットワーク

- ☑ メガピクセル映像監視用バッファリング使用: メガピクセル映像を監視する際にバッファリングを使用して画面に映像をより柔らかく出力することができます(iNEXプロトコルを使用するデバイスのみ支援)。ネットワーク環境により、バッファリングが遅延されたりリアルタイム感が落ちたりする場合があります。この機能はデュアルコアCPU以上のPCで動作し、各監視パネルで最大4個のカメラに対して支援します。
- RTP受信ポート範囲: RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイヤーウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。NVRシステムのRTPポート番号または一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、映像監視ができない場合があります。
- 損傷したレームは出力しない: RTPプロトコル使用時、ネットワーク環境によってフレームが損傷したり消失することがあります。この場合、損傷したフレームを監視または再生パネルに表示するかどうかを設定します。
- バッファリングのフレーム数: RTPプロトコルで使用するバッファリングのフレーム数を設定します。数字が大きくなれば映像が切れる現象は減りますがリアルタイム感は落ちます。

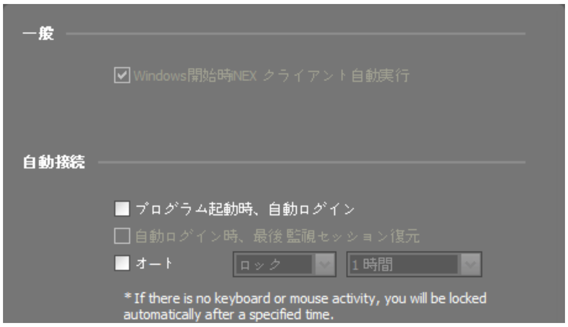
- ☑ ネットワークキーボード使用: ネットワークキーボードを使用してクライアントプログラムを制御することができます。この時クライアントプログラムが使うポート番号を設定します。“マウスカーソル拡大”を選択すると、マウスカーソルのサイズが大きくなります。

マップ



- ☑自動フォーカシング使用: 指定したイベント発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。
  - フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行うイベントを指定します。
  - フォーカシング期間: 自動フォーカシングの持続時間を設定します。
  - フォーカシングの最小維持: 互いに違うデバイスでイベントが連続して感知される場合先に感知されたイベントに対して自動フォーカシングの持続時間を設定します。設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。
- 拡大ファインダー: PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“自動”に設定するとカンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
- マップイベントスポット: イベント発生時そのイベントが発生したカメラ映像をマップイベントスポット画面に表示します。
  - イベント監視期間: マップイベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
  - 最小監視期間: 現在イベントが表示されている間に他のイベントが感知される場合、現在のイベントに対するイベント監視期間を設定します。設定された時間が経ってから後で感知されたイベントのカメラの映像を表示します。
- インスタントビューアー: インスタントビューアーの持続時間を設定します。インスタントビューアーはマップでカメラをクリックすると現れます。

使用者



- Windows開始時iNEXクライアント自動実行: Windows開始時にクライアントプログラムを自動的に実行します。本機能はクライアントシステムにのみ対応します。
- プログラム起動時、自動ログイン: 以前接続した時のログイン情報を用いてクライアントソフト起動時、自動にログインします。“自動ログイン時、最後監視セッション復元”を選択すると現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元します。
- 自動: ログインの状態で設定した時間でマウスまたはキーボードの入力がない場合、設定によりクライアントプログラムが自動でログアウトされるか、クライアントシステムがロックされます。

第 4 章 — リアルタイム映像監視

登録されたサイトのリアルタイム映像を監視することができます。クライアントシステムはデバイスでの設定に従って映像を受信し、監視画面に表示します。

まず、次の内容を確認します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81)部分を参照してください。

4.1 映像監視

リアルタイム映像監視は監視パネル(最大4つ)でサポートされます。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。

パネルタブで監視タブをクリックします。→ “サイト”リストでカメラ、デバイスまたはデバイスグループを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。各カメラのリアルタイム映像が画面に表示されます。現在監視しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当カメラ画面を監視画面の希望する位置に移動することができます。

✓ 1280×720以上の解像度の映像を2つ以上のカメラ画面で同時に監視または再生する場合、システムの性能が大きく低下することがあります。

パネルのツールバー

下段にあるパネルのツールバーを利用して監視パネルを制御することができます。

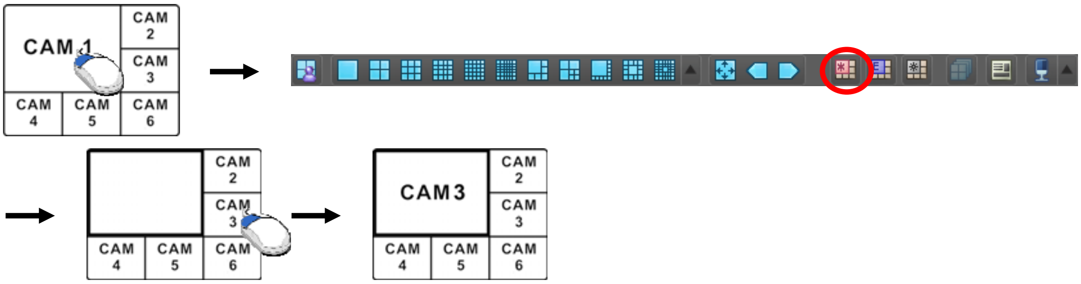
- (ユーザーのレイアウト登録): 現在の画面の分割を保存します。
- (画面分割): 画面分割を変更します。ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。またはボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。
- (レイアウトの順次監視): レイアウトの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、“レイアウトの順次監視” (p. 40)部分を参照してください。
- (ホットスポット): 選択した画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、“ホットスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。

- (イベントスポット): 選択した画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“イベントスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- (マップイベントスポット): 選択した画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“マップイベントスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- (イメージの保存・プリント): 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
- (オーディオブロードキャスト): 現在の監視タブにある全てのデバイスにオーディをオブロードキャストします。矢印ボタンをクリックするとNVRシステムのオーディオボリュームが調節できます。

<u>ホットスポット設定</u>

✓ iNEXプログラムで“ホットスポット”とは現在の画面に表示されたカメラの映像の中で任意のカメラの映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。

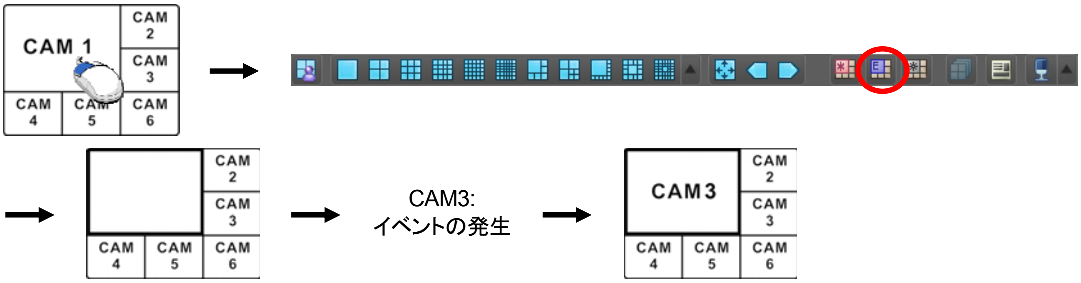
1. 現在監視している画面でホットスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
2. 監視パネルの下段にあるツールバーで (ホットスポット)ボタンをクリックすると選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。
3. 画面で任意のカメラを選択すると、選択したカメラの映像がホットスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



<u>イベントスポット設定</u>

✓ iNEXプログラムで“イベントスポット”とは、現在の画面に表示されたカメラ映像のうち、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。

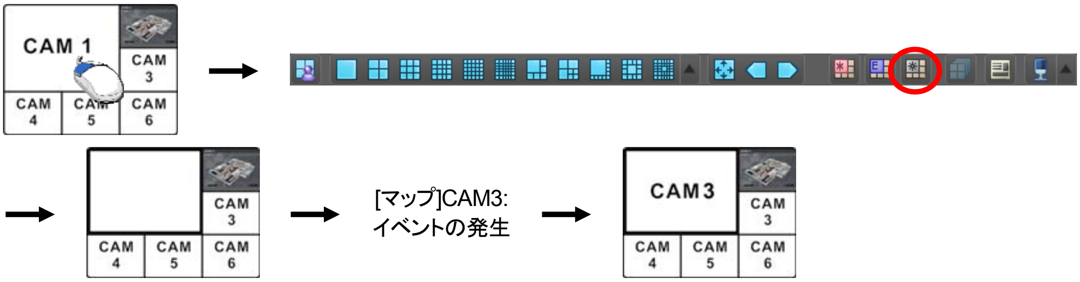
1. 現在監視している画面でイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
2. 監視パネルの下段にあるツールバーで (イベントスポット)ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。
3. 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



<u>マップイベントスポット設定</u>

✓ iNEXプログラムで“マップイベントスポット”とは、現在の画面に表示されたマップで、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。

1. 現在監視している画面でマップイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
2. 監視パネルの下段にあるツールバーで (マップイベントスポット)ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。
3. 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がマップイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



レイアウトの監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視することができます。レイアウトの監視をするためには、NVRシステムにレイアウトが登録されていなければなりません。レイアウトの登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

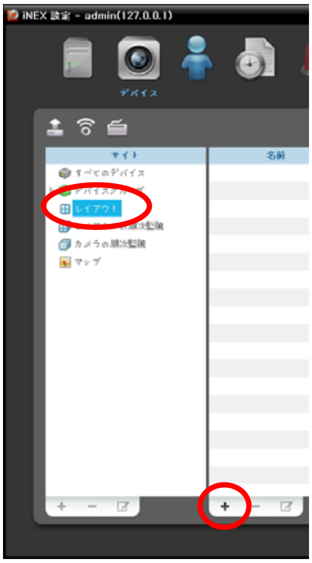
✓ 本ユーザーマニュアルで、"レイアウト"とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

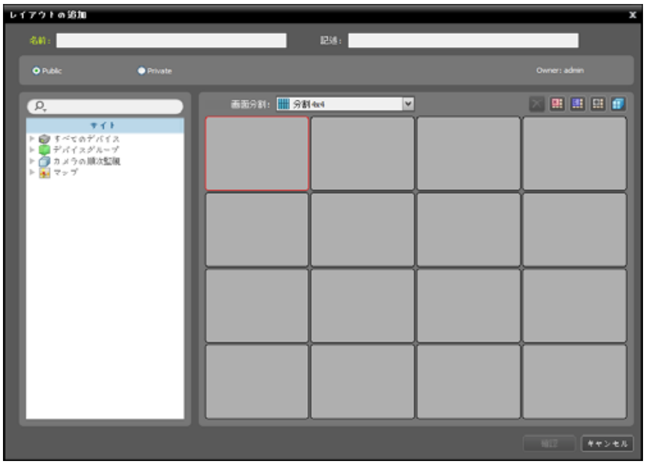
レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当するレイアウトに追加されたカメラの映像があらかじめ設定された分割画面で表示されます。

レイアウトの登録

1. "システム"メニューで"iNEX設定"を選択した後、"デバイス"メニューを選択します。

2. "サイト"パネルで"レイアウト"をクリックし、右側のサイトリストのパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。"レイアウトの追加"画面が表示されます。





- 名前: レイアウト名を入力します。
- サイト: 登録されたデバイス、カメラまたはカメラの順次監視及びマップリストを表示します。 ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイスまたはカメラの順次監視を検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 公開/非公開: そのレイアウトを全てのユーザーに表示するか(公開)、現在のユーザーだけに表示します(非公開)。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウトを見ることができます。
- 所有者: そのレイアウトを作った人のユーザーIDを表示します。
- 画面分割: 該当するレイアウトの画面分割を選択します。“サイト”リストでレイアウトに割り当てるデバイス、カメラまたはカメラの順次監視を選択した後、レイアウト画面の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップします。
- (削除): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面に割り当てられたカメラをレイアウト画面から削除します。
- (ホットスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をホットスポット画面として設定します。
- (イベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をイベントスポット画面として設定します。
- (マップイベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をマップイベントスポット画面として設定します。
- (カメラの順次監視): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、カメラの順次監視を開始することができ、該当する順次監視を選択した画面に割り当てます。

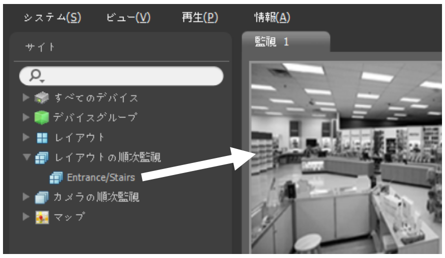
“確認”ボタンをクリックしてレイアウトの追加を終了します。

レイアウトの順次監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。レイアウトの順次監視を行うためには、NVRシステムにレイアウトの順次監視が登録されていなければなりません。順次監視レイアウトの追加に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

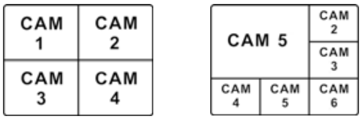
✓ 本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

1. レイアウトの順次監視リストで希望するレイアウトの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当するレイアウトの順次監視に登録したカメラ映像が順次各レイアウトの分割画面に表示されます。

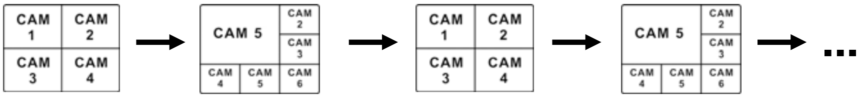


2. パネルの下段にあるツールバーの (レイアウトの順次監視)ボタンをクリックして、レイアウトの順次監視を停止したり再開できます。

__例__



レイアウト1　　レイアウト2



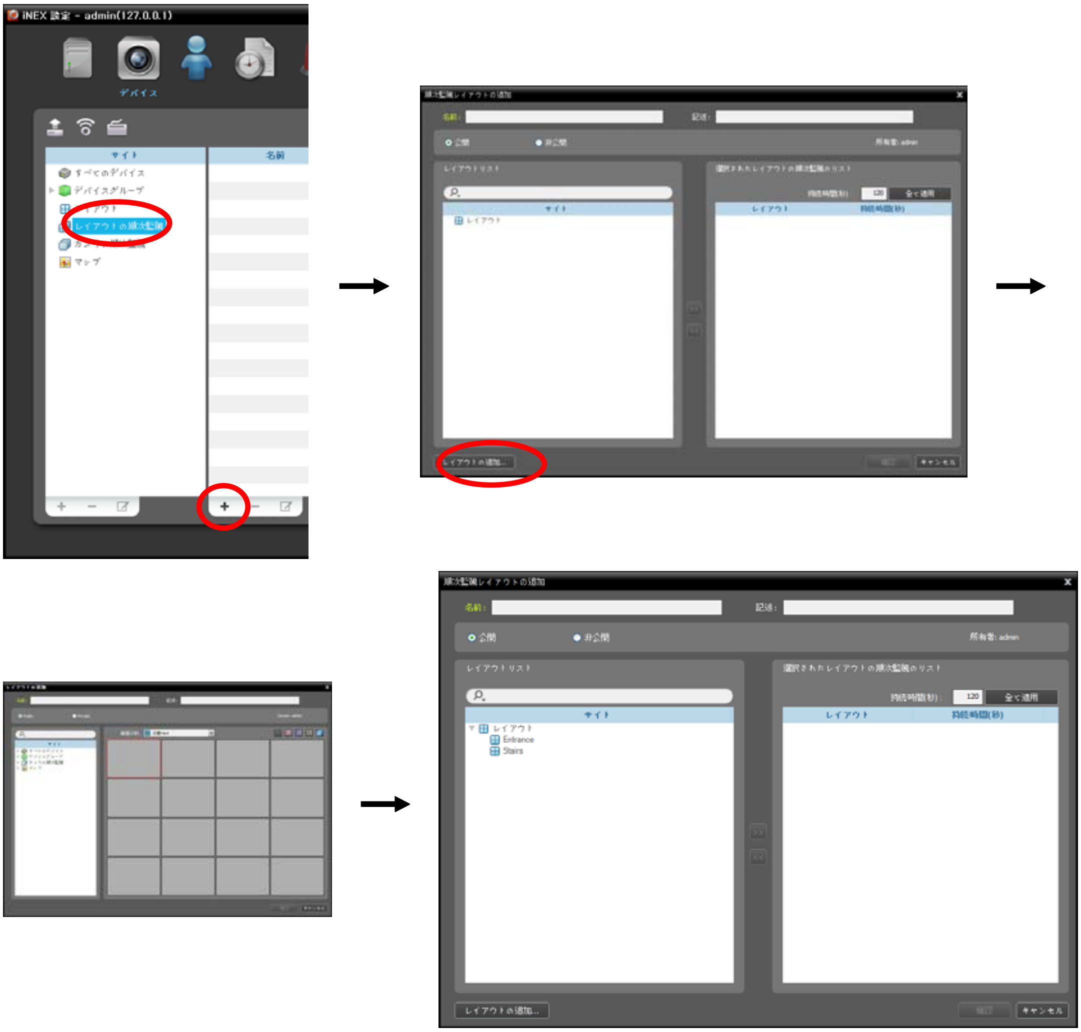
レイアウトの順次監視

__順次監視レイアウトの登録__

1. “システム”メニューで“iNEX設定”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。

2. “サイト”パネルで“レイアウトの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“順次監視レイアウトの追加”画面が表示されます。

3. 順次監視するレイアウトが登録されていない場合、“レイアウトの追加”ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されたら“レイアウトの監視” (p. 39)部分を参照して順次監視するレイアウトを登録します。順次監視をするためには2つ以上のレイアウトが登録されていなければなりません。



- 名前: レイアウトの順次監視の名前を入力します。
- 公開/非公開: そのレイアウト順次監視を全てのユーザーに表示するか(公開)、現在のユーザーだけに表示します(非公開)。"admin"ユーザーの場合、全てのレイアウト順次監視を見ることができます。
- 所有者: そのレイアウト順次監視を作った人のユーザーIDを表示します。
- レイアウトリスト: 登録されたレイアウトリストを表示します。 ボタンの横に検索語を入力して登録されたレイアウトを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 選択されたレイアウトの順次監視のリスト: レイアウトの順次監視のために登録されたレイアウトリストを表示します。"持続時間(秒)"は各レイアウトが画面に表示される時間を示します。"全て適用"ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのレイアウトに等しく適用します。

"レイアウトリスト"でレイアウトを選択した後、>> ボタンをクリックすると選択されたレイアウトが"選択されたレイアウトの順次監視リスト"に追加されます。"確認"ボタンをクリックすると順次監視レイアウトの追加を終了します。

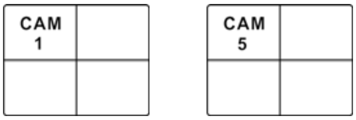
カメラの順次監視

多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。カメラの順次監視のためには、NVRシステムにカメラの順次監視が登録されていなければなりません。カメラの順次監視の登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

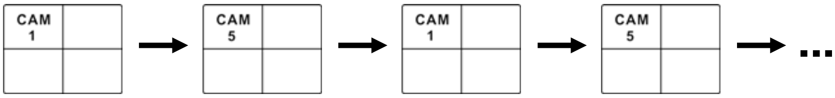
1. カメラの順次監視リストで、希望するカメラの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当カメラの順次監視に登録したカメラ映像が画面に順次表示されます。

2. カメラ画面の下段にあるコントロールツールバーの (カメラの順次監視)ボタンをクリックして、カメラの順次監視を中止したり再開することができます。

__カメラの順次監視の登録__



カメラ1　　カメラ5

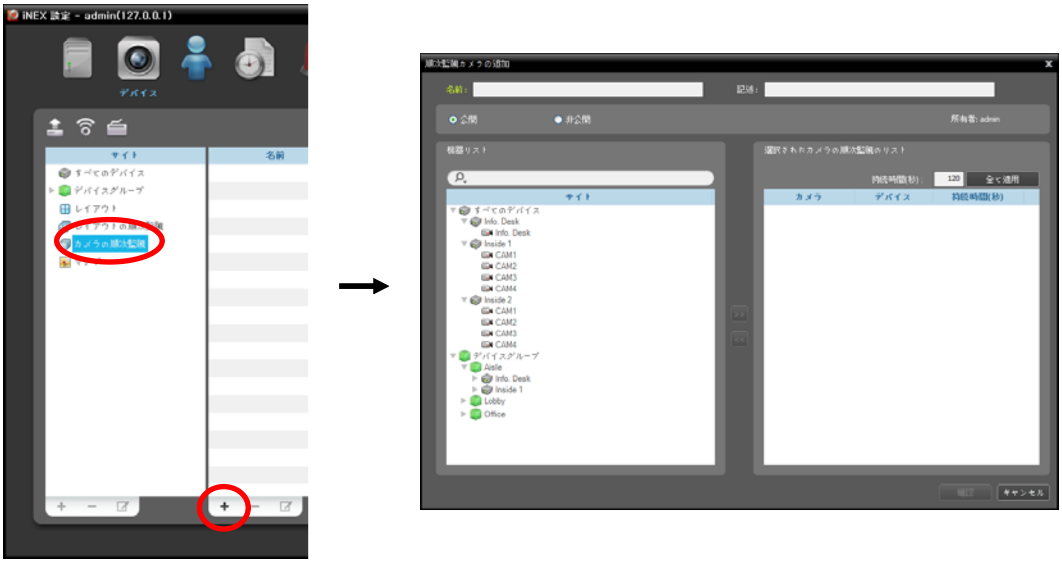


カメラの順次監視

__カメラの順次監視の登録__

1. “システム”メニューで“iNEX設定”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。

2. “サイト”パネルで“カメラの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“順次監視カメラの追加”画面が表示されます。



- 名前: カメラの順次監視の名前を入力します。
- 公開/非公開: そのカメラ順次監視を全てのユーザーに表示するか(公開)、現在のユーザーだけに表示します(非公開)。“admin”ユーザーの場合、全てのカメラ順次監視を見ることができます。
- 所有者: そのカメラ順次監視を作った人のユーザーIDを表示します。
- 機器リスト: 登録されたデバイスリストを表示します。 ボタンの横に検索語を入力して、登録されたデバイスを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 選択されたカメラの順次監視のリスト: カメラの順次監視のために登録されたカメラリストを表示します。“持続時間(秒)”は各カメラの映像が画面に表示される時間を表示します。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのカメラに等しく適用します。

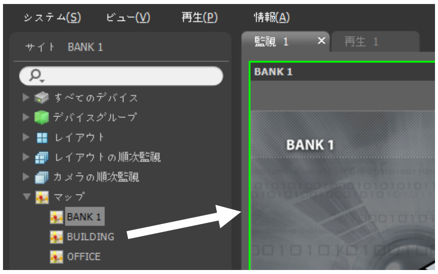
“デバイスリスト”でカメラを選択した後、>> ボタンをクリックすると選択されたカメラが“選択されたカメラの順次監視のリスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視カメラの追加を終了します。

4.2 マップ監視

登録されたデバイスのカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。マップの順次監視のためには、NVRシステムにマップが登録されていなければなりません。マップの登録に関する詳しい内容は、“第 15 章 — マップエディター” (p. 109)部分を参照してください。

マップ監視は監視パネル(最大4つ)及びマップパネルでサポートされます。パネルタブに監視またはマップタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”または“マップ”をクリックしてタブを追加します。

マップリストで、希望するマップを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当マップが画面に表示されます。現在監視しているマップを選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当マップを監視画面の希望する位置に移動することができます。マップで入/出力デバイスを選択し、監視画面、再生パネルまたはデバイス状態パネルにマウスのドラック&ドロップするとそのデバイスの映像を監視または再生したりデバイス状態を監視したりすることができます。



マウスカーソルをマップの入/出力のデバイス上に位置させるとその入/出力デバイスのイベント感知および状態を表示します。その入/出力デバイスでイベントが感知されたりデバイスが正しく動作しなかったりすると次のようなアイコンが出て、順番に最高4つまで表示されます(ネットワークビデオデバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

アクセス失敗	イベント･オフ	異常作動	モーション感知
映像遮断	ビデオロス	テロ感知	トリップ ゾ―ン
タンパ―リング	オーディオ感知	アラーム入力	アラーム出力

イベント感知の場合その入/出力デバイスが接続されたデバイスでのイベント感知設定によって表示されます。また“異常作動”の場合その入/出力が接続されたデバイスで設定したシステム検査設定によって表示されます。

マップ登録時、状態のカラーを設定した場合、イベント感知および状態が固有の色で表示されます。同時に2つ以上のイベントまたは状態が感知された場合、各イベントまたは状態のカラーが順次に表示されます。

経路順次監視

マップを監視する時、マップに登録された多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、順次監視経路が設定されてある必要があります。順次監視経路設定に関する詳しい内容は、“15.2 マップ設定、経路順次監視” (p. 112)部分を参照してください。

マップで、順次監視経路を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。経路順次監視に連動されたカメラの映像が設定された持続時間間画面に順次表示されます。

4.3 カメラの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してカメラを制御することができます。

制御ツールバー

カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当するカメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したカメラを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。

- (PTZ制御): カメラがPTZ制御機能をサポートしている場合、PTZを制御します。詳しい内容は、“PTZ制御” (p. 47)部分を参照してください。
- (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。 ボタンをクリックすると変更内容を全てキャンセルして元のイメージに戻ります。
- (映像拡大): 映像を拡大します。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 48)部分を参照してください。
- (カメラの順次監視): カメラの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、カメラの順次監視” (p. 42)部分を参照してください。
- / (リスニング/トーク): デバイスのオーディオを受信するかデバイスにオーディオを送信します。
- (緊急録画): 緊急録画を開始または停止します(録画サービスに登録されたデバイスの場合にのみ対応)。緊急録画中にはカメラ画面の右側上段に緊急録画OSDが表示され、タイムラプス録画またはイベントベース録画が停止します。システムの負荷により、録画が遅くなることがあり、このため録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅くれて、または長く表示されることがあります。詳しい内容は、“5.1 録画スケジュールの設定、緊急録画設定” (p. 58)部分を参照してください。

  ✓ “緊急録画”とは、現在監視中の映像を手動で録画できるようにする機能です。緊急録画のための圧縮コーデック、解像度、録画速度及び画質をより高く設定し、希望する映像のみをより優れた性能で録画することができます。

監視画面のメニュー

カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したカメラを制御することができます。

- PTZ制御、色調整、映像拡大、リスニング、トーク、緊急録画: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックするのと同じように動作します。詳しい内容は、“制御ツールバー” (p. 46)部分を参照してください。
- オーディオブロードキャスト: 現在の監視タブにある全てのデバイスにオーディを伝送したり伝送を解除します。
- アラーム・アウト: アラーム出力を作動と解除します。
- マルチストリーム: 該当するデバイスでリアルタイム監視映像に対してマルチストリームモードが設定されている場合、希望するストリームを選択することができます(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- ホットスポット: 選択したカメラ画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、ホットスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- イベントスポット: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、イベントスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- マップイベントスポット: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“4.1 映像監視、マップイベントスポット設定” (p. 38)部分を参照してください。
- モーション感知エリア出力: 選択したカメラでモーション感知イベントが発生する場合、モーションが感知されるエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(iNEXプロトコルを使用するネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。
- 映像分析表示: 支援されない機能であります。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
  - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。

- 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに"映像比率に合わせる"が適用されます。
- 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
- 半分サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズにカメラ画面に映像を出力します。例えば、"実際のサイズ(×1)"を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。

• 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
• 削除: 現在の接続を解除します。

PTZ制御

制御ツールバーで (PTZ制御)ボタンをクリックすると、PTZ制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてPTZを制御することができます。PTZカメラのモデルによっては一部の機能は動作しないことがあります。

• (PTZ制御): (PTZ制御パネル)を表示したり非表示にします。PTZ制御パネルの矢印ボタンをクリックするか、カメラ画面上でマウスをドラッグしてPTZカメラの方向を調整します。
• (映像拡大/縮小): 現在の映像を拡大または縮小します。
• (焦点を遠/近): 遠くまたは近くにある映像にカメラの焦点をあわせます。
• (しぼりを開く/閉じる): カメラレンズのしぼりを開いたり閉じます。
• (プリセット設定/表示): 該当機能に対する内容は"PTZプリセット制御" (p. 47)部分を参照してください。
• (詳細メニュー): 詳細メニュー画面が表示され、該当カメラがサポートする拡張機能を制御することができます。各拡張機能に関する詳しい内容は、該当PTZカメラのユーザーマニュアルを参照してください。
• (閉じる): PTZモードを終了して制御ツールバーに移動します。

PTZプリセット制御

カメラの位置を"プリセット"で保存し、カメラを保存された位置にすぐ移動することができます。

1. カメラ画面でPTZカメラの方向を希望する位置に移動させます。

2. PTZ制御ツールバーで (プリセット設定)ボタンをクリックすると、"プリセット設定"画面が表示されます。プリセットタイトルを入力した後"確認"ボタンをクリックすると現在位置が、入力されたプリセットタイトルで保存されます。

3. PTZ制御ツールバーで (プリセット表示)ボタンをクリックすると"プリセット表示"画面が表示されます。希望するプリセットを選択すると、PTZカメラの方向が該当プリセットの位置に移動します。

映像拡大

制御ツールバーで (映像拡大)ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

✓ “PIP”とは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さい画面を言います。

- (スライドバー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて拡大倍率を調整することもできます。
- (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードでは、カメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
- (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。

4.4 マップの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してマップを制御することができます。

制御ツールバー

マップを選択した後、マウスのカーソルを該当するマップに動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したマップを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。

- (以前のマップ、次のマップ): 現在マップにリンクされているマップに移動したかマップリストでマップを選択して現在のマップの画面にドラック&ドロップして他のマップへの接続が行われた場合、以前または次に接続されたマップに移動します。
- (自動フォーカシング): 指定したイベント発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。異なるデバイスでイベントが同時に発生する場合、そのデバイスがすべて見える範囲内でカンバスを拡大します。異なるデバイスでイベントが連続して感知される場合、設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。自動フォーカシングの設定に関する詳しい内容は、“3.3 クライアント、メニュー – 環境設定、マップ” (p. 35)部分を参照してください。
- (フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行うイベントを指定します。
- (実際のサイズ): カンバスの実際の大きさでマップを見せます。
- (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“自動”に設定するとカンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
- (拡大スライダー): カンバスの拡大倍率をを設定します。

例

- 拡大ファインダー: “オフ”に設定された場合

マップ監視

イベントの発生

自動フォーカシング

- 拡大ファインダー: “自動” または “オン”に設定された場合

マップ監視　　イベントの発生　　自動フォーカシング

マップ画面のメニュー

マップ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したマップを制御することができます。

- 以前へ、次へ、自動フォーカシング、1倍サイズ (x1)、拡大ファインダー、ズームイン: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックするのと同じように動作します。詳しい内容は、“制御ツールバー” (p. 48)部分を参照してください。
- マップリスト: 以前または以後に接続されたマップのリストを表示します。リストでマップを選択するとそのマップに移動します。
- リロード: 現在のマップの接続を更新します。
- フォーカシングイベント、フォーカシング期間: 自動フォーカシングのフォーカシングイベントおよびフォーカシング期間を設定します。“3.3 クライアント、メニュー – 環境設定、マップ” (p. 35)部分を参照してください。
- 削除: 現在の接続を解除します。

第 5 章 — 録画

NVRシステムに登録されたデバイスのカメラ映像をタイムラプス録画、イベントベース録画(イベント及びプリイベント)及び緊急録画の3種類の方法で録画することができます。タイムラプス録画及びイベントベース録画中にはスケジュールが設定された時間の間、スケジュールプリセットの設定に従って録画を行い、緊急録画中はユーザーが映像監視中に手動で録画を開始または停止します。

同じ期間に2つ以上の録画モードが設定されている場合、優先順位が最も高い録画モードで録画を行います。プリイベント録画 → タイムラプス録画またはイベント録画 → 緊急録画の順で優先順位が高くなります。同じ録画モードまたはタイムラプス録画とイベント録画が重複する場合、"スケジュール設定"画面の上位にあるスケジュールが優先され、ユーザーがスケジュールの位置を調整して優先順位を変更することができます。

先ず次の内容を確認した後、"iNEX設定"プログラムを実行します。

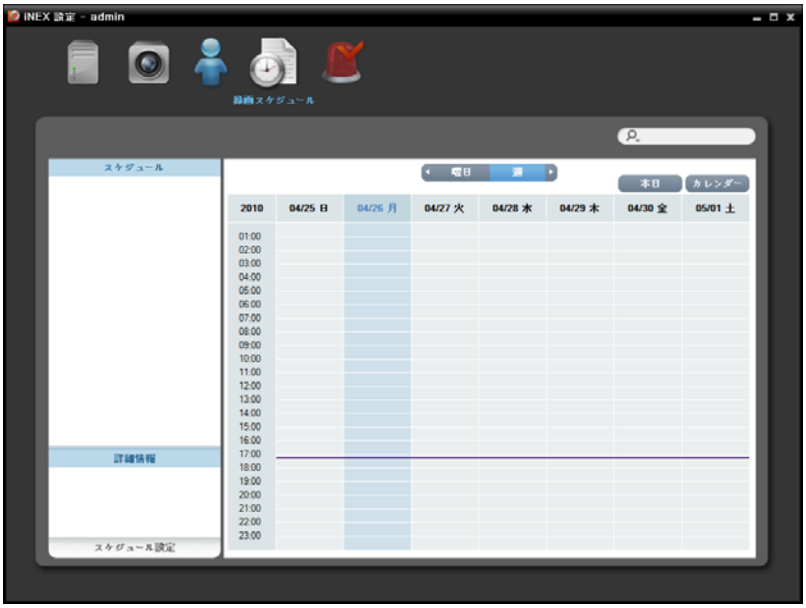
- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、"第 11 章 — デバイス管理" (p. 81)部分を参照してください。

✓ デバイスがDVRの場合、録画には対応しません。

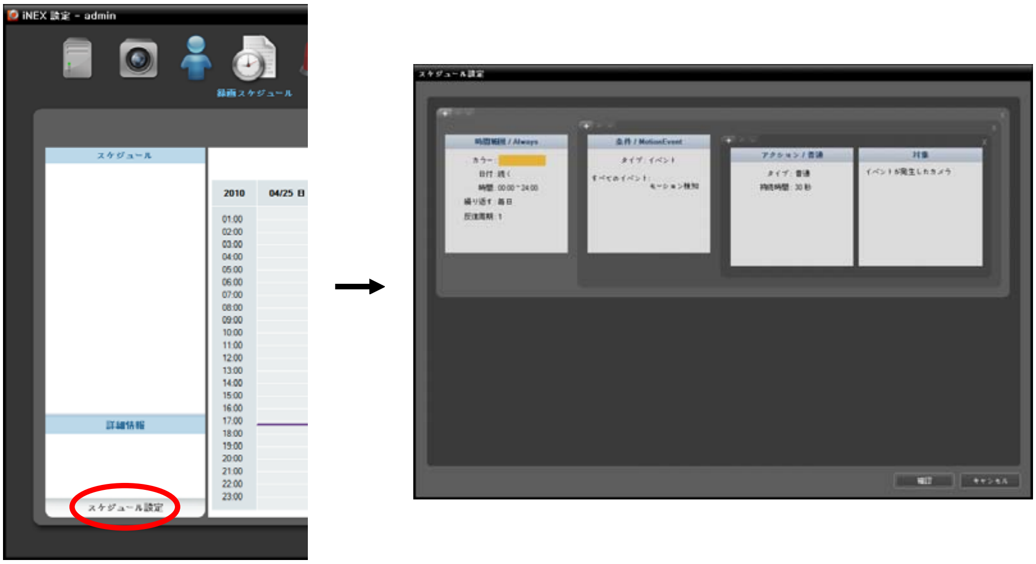
5.1 録画スケジュールの設定

"iNEX設定"プログラムを実行します。→ "スケジュール"メニューを選択した後、次の説明を参照して録画スケジュールを設定します。

✓ "admin"ユーザーに登録されたデバイスに対してのみ録画機能がサポートされます。
✓ 一つのデバイスが他のNVRシステムまたはiNEXシステムの管理サービスに登録された録画サービスにも登録されている場合、先に接続された一つのNVRシステムまたは録画サーバーでのみ録画が行われます。まず接続が行われると最初の接続が解除されない限り他のNVRシステムまたは録画サーバーではそのデバイスの映像を録画しません。
✓ iNEX及びONVIF™ Conformanceプロトコール以外のプロトコールを使用するデバイスの場合、録画時のコーデック、解像度、録画速度及び画質は該当デバイスでの設定に従います。
✓ ONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、設定されたプロファイルのうちiNEXプログラムで指定したプロファイルの値によって映像を録画します。録画時に適用するプロファイルはデバイスの修正で指定できます。詳しい内容は、"11.2 デバイスの管理、デバイス修正" (p. 85)及び"11.3 ONVIF™ Conformanceプロトコルデバイスの遠隔設定、プロファイル" (p. 92)部分を参照してください。
✓ iNEXプログラムで設定した録画速度及び解像度がデバイスで設定された"転送速度"及び"最大解像度"より大きいと、デバイスで設定された"転送速度"及び"最大解像度"で映像を録画します(iNEXプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ該当)。
✓ ネットワークの問題またはNVRシステムの再起動などによってデバイスとのネットワーク接続が一時的に中断された場合、デバイスが該当期間の映像を臨時に保管し、ネットワークが接続された時に保管していた映像を一度に転送します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。ただし、該当期間の映像は録画スケジュールの設定とは異なって録画されることがあります。
✓ ネットワーク状況によって録画速度が落ちることがあります。
✓ システムの負荷によって録画が遅れることがあり、このため録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅くれて、または長く表示されることがあります。



下段にある"センサー設定"ボタンをクリックします。"センサー設定"画面が表示され、各スケジュール画面に該当プリセットの現在設定値が表示されます。



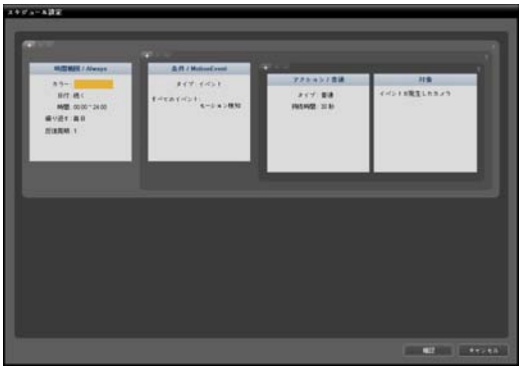
- 時間範囲: スケジュールの時間を設定します。二つ以上の時間範囲を設定することができ、上位にあるスケジュールが優先的に適用されます。
- 条件: 録画の種類を設定します。同一の時間範囲に対して二つ以上の録画の種類を設定することができ、上位にあるスケジュールが優先的に適用されます。デバイスが使用するプロトコールの種類によって一部録画種類が支援されないことがあります(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)。
- アクション: 録画する時使うストリーム(デバイスがネットワークカメラである場合)または録画設定値(デバイスがネットワークビデオエンコーダーである場合にのみ該当)を設定します。同一の録画条件に対して一以上のアクションを設定することができます。iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ該当機能が支援されます。
- 対象: 録画するカメラを選択します。

✓ スケジュールの設定で"プリセット"とは時間範囲、条件またはアクションの設定値を1つの設定値にしたものを言います。

タイムラプス録画の設定

タイムラプス録画の時には、スケジュールが設定された時間の間、スケジュール設定によって引き続き録画を行います(録画サービスに登録されたデバイスの場合のみ対応)。

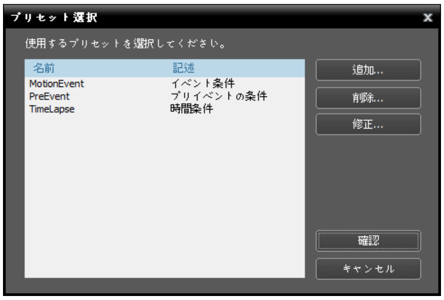
1. “時間範囲”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択してスケジュールの時間を設定します。



“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり保存されたプリセットを修正することができます。スケジュールの設定に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

- 名前: プリセットの名前を入力します。
- 色彩: ボタンをクリックして希望する色を選択します。スケジュールテーブルでスケジュールが設定された時間区間が該当する色で表示されます。
- 期限: スケジュールの時間を設定します。“続く”を選択すると期間制限なく“条件”、“アクション”、“対象”のプリセット設定によって録画を続けます。
- 連続録画: スケジュール時間を設定します。
- 繰り返す、反復周期: 録画の間隔及び該当間隔が適用される期間を設定します。設定された反復周期の間、設定した間隔で映像を録画します。

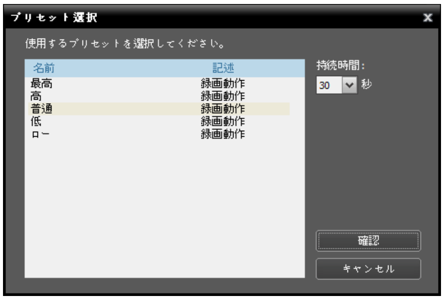
2. “条件”スケジュール画面をダブルクリックした後、時間条件のプリセットを選択して、タイムラプス録画を設定します。



“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり、保存されたプリセットを修正することができます。“追加”または“修正”ボタンをクリックすると、次の設定画面が表示されます。

プリセットの名前を入力した後、“条件の種類”リストから“時間条件”を選択します。

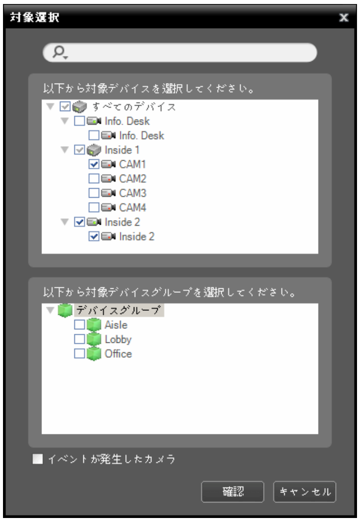
3. “アクション”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。



それぞれのプリセットには録画する時使うストリーム(デバイスがネットワークカメラである場合)録画のためのコーデック、解像度、録画速度および録画画質設定値(デバイスがネットワークビデオエンコーダーである場合)が割り当てられています。各プリセットに割り当てられたストリームまたは設定値はデバイス毎に違います。詳しい内容は、“11.2 デバイスの管理、デバイス修正” (p. 85)部分を参照してください。

- 持続時間: タイムラプス録画時にはサポートしません。

4. “対象”スケジュール画面をダブルクリックした後、録画するカメラを選択します。



デバイスリストで映像を録画するカメラを選択するか、デバイスグループのリストからデバイスグループを選択します。“イベントが発生したカメラ”オプションはタイムラプス録画の時にはサポートしせん。

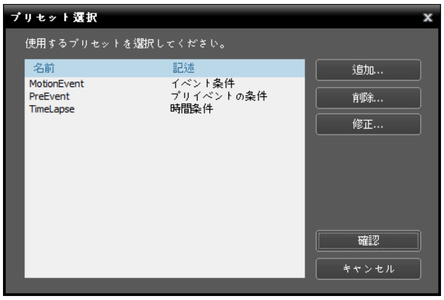
5. “デバイス”メニューで録画状態を確認することができます。“サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックすると登録されたすべてのデバイスがサイトリストのパネルに表示されます。デバイス名の横の矢印ボタン(▼)をクリックして状態を確認します(“録画”: タイムラプス録画またはイベントベース録画中、“緊急録画”: 緊急録画中、“待機中”: 録画待機中)。“iNEXクライアント”プログラムでは監視画面の該当カメラ画面の右上段にタイムラプス録画またはイベントベース録画OSD(赤色)が表示されます。

イベントベース録画の設定

イベント録画またはプリイベント録画が設定された場合、スケジュールが設定された時間の間、イベント感知に基づいて録画を行います(録画サービスに登録されたデバイスの場合にのみ対応)。デバイスが使用するプロトコルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)。

1. “時間範囲”スケジュールをダブルクリックした後、希望するプリセットを選択してスケジュールの時間を設定します。設定方法は、タイムラプス録画時のスケジュールの時間の設定方法と同じです。詳しい内容は、“タイムラプス録画の設定” (p. 53)部分を参照してください。

2. “条件”スケジュール画面をダブルクリックした後、イベント条件またはプリイベント条件のプリセットを選択してイベント録画またはプリイベント録画を設定します。



“追加”または“修正”ボタンをクリックして、新しいプリセットを追加したり、保存されたプリセットを修正することができます。“追加”または“修正”ボタンをクリックすると次の設定画面が表示されます。

イベント録画の条件の設定

あらかじめ設定されたイベントが感知されると映像を録画します。デバイスが使用するプロトコールの種類によって該当機能を支援しないことがあります(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)。

- 名前: プリセットの名前を入力します。
- 条件の種類: “イベント条件”を選択します。
- イベント発生デバイスと種類を選択してください: 録画を行うイベントの種類を選択します。

– すべてのイベント: 指定したイベントが感知されると映像を録画します。

“すべてのイベント”をクリックすると、下段にイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると右側にある“すべてのイベント”リストの下に選択したイベントが追加されます。

– すべてのデバイス: 指定したデバイスまたはカメラで指定したイベントが感知されると映像を録画します。

“すべてのデバイス”をダブルクリックすると、登録されたデバイスまたはカメラのリストが表示されます。→ “すべてのデバイス”でイベントを感知するデバイスまたはカメラをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストに該当するデバイスまたはカメラでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“すべてのデバイス”リストの下に選択したデバイスまたはカメラと選択したイベントが追加されます。

– デバイスグループ: 指定したデバイスグループで指定したイベントが感知されると映像を録画します。

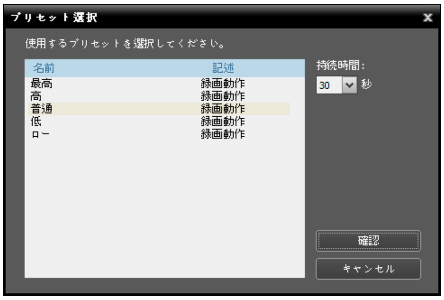
“デバイスグループ” をダブルクリックすると、登録されたデバイスグループが表示されます。→ “デバイスグループ”でイベントを感知するデバイスグループをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストで該当するデバイスグループでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“デバイスグループ”リストの下に選択したデバイスグループと選択したイベントが追加されます。

プリイベント録画の条件の設定

あらかじめ設定されたイベントが感知されると、イベント感知前の映像を録画します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

プリセットの名前を入力した後、“条件の種類”リストで“プリイベントの条件”を選択します。

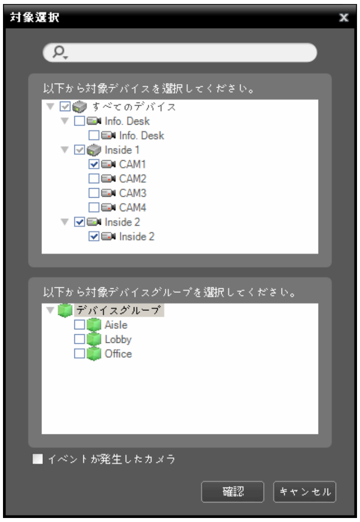
3. “アクション”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。



それぞれのプリセットには録画する時使うストリーム(デバイスがネットワークカメラである場合)録画のためのコーデック、解像度、録画速度および録画画質設定値(デバイスがネットワークビデオエンコーダーである場合)が割り当てられています。各プリセットに割り当てられたストリームまたは設定値はデバイス毎に違います。詳しい内容は、“11.2 デバイスの管理、デバイス修正” (p. 85)部分を参照してください。

• 持続時間: あらかじめ設定されたイベントが感知されると、録画を持続する時間を設定します(最大60秒)。イベント録画時には、イベントが感知された後に設定された持続時間の間、録画を続けます。プリイベント録画時には、設定された持続時間の分、イベント感知前の映像を録画します。

4. “対象”スケジュール画面をダブルクリックした後、録画するカメラを設定します。



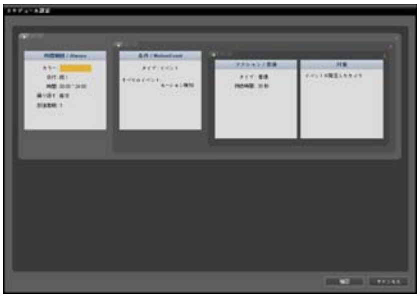
指定したイベント発生時に、映像を録画するカメラまたはデバイスグループをデバイスリストまたはデバイスグループのリストで選択します。“イベントが発生したカメラ”オプションを選択すると、イベント(アラームインイベント及びオーディオ感知イベント除外)が感知されたカメラの映像のみ録画します。“イベントが発生したカメラ”オプションは、プリイベント録画時にはサポートしません。

5. “デバイス”メニューで録画状態を確認することができます。“サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックすると登録されたすべてのデバイスがサイトリストのパネルに表示されます。デバイス名の横の矢印ボタン( )をクリックして状態を確認します(“録画”: タイムラプス録画またはイベントベース録画中、“緊急録画”: 緊急録画中、“待機中”: 録画待機中)。“iNEXクライアント”プログラムでは監視画面の該当カメラ画面の右上段にタイムラプス録画またはイベントベース録画OSD(赤色)が表示されます。

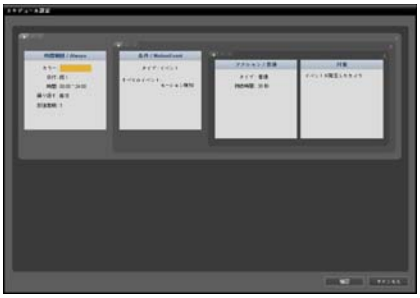
スケジュールの管理

新しいスケジュールの追加

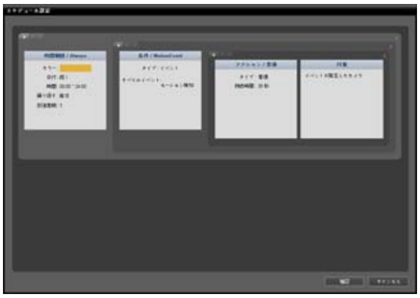
- 時間範囲が異なる新しいスケジュールを追加する場合: “時間範囲”スケジュール画面の左上段にある ボタンをクリックして完全に新しいスケジュールを追加することができます。



- 同じ時間範囲の新しいスケジュールを追加する場合: “条件”スケジュール画面の左上段にある ボタンをクリックして同じ時間範囲に新しいスケジュールを追加することができます。



- 同じ時間範囲および条件の新しいスケジュールを追加する場合: “アクション”スケジュール画面の左上段にある ボタンをクリックして同じ時間範囲および条件に新しいスケジュールを追加することができます。



<u>スケジュールの削除</u>

各スケジュール画面の右上段にある ボタンをクリックすると、該当スケジュールを削除します。

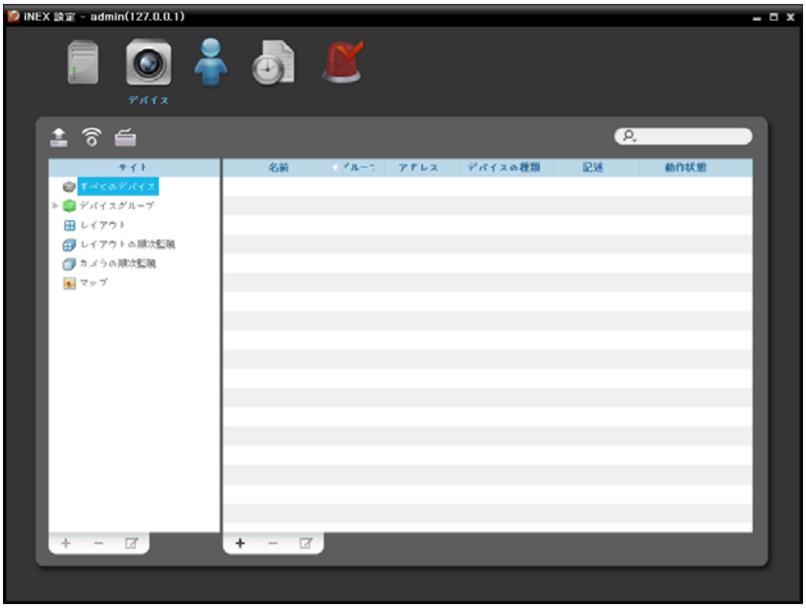
<u>スケジュールの優先順位の変更</u>

各スケジュール画面の左上段にある または ボタンをクリックしてスケジュールの優先順位を変更することができます。“スケジュールの設定”画面の上位にあるスケジュールが優先的に適用されます。ただ、プリイベント録画スケジュールはタイムラプス録画及びイベント録画スケジュールに優先しません。

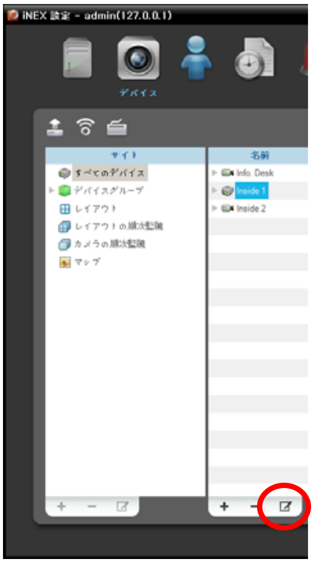
緊急録画設定

緊急録画の時には、ユーザーが映像監視中に手動で録画を開始または停止します(録画サービスに登録されたデバイスの場合のみ対応)。

1. “デバイス”メニューを選択します。

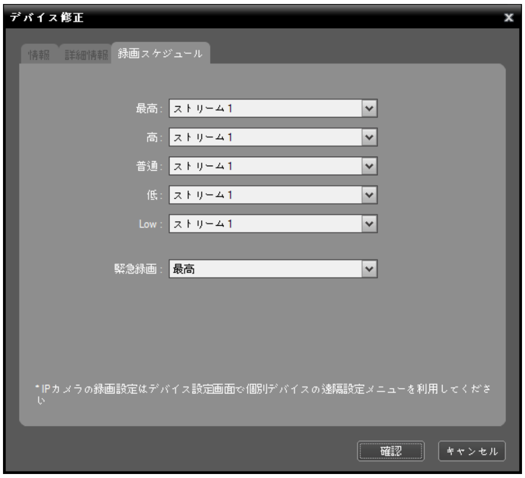


2. “サイト”パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックすると、デバイスメニューが表示されます。



または

3. デバイスメニューで“デバイス修正”を選択します。“録画スケジュール”タブを選択します。



- 緊急録画: 緊急録画する時、使うプリセットを選択します。プリセット設定に関する詳しい内容は、“11.2 デバイスの管理、デバイス修正” (p. 85)部分を参照してください。

4. “iNEXクライアント”プログラムを実行します。監視画面で録画する映像が表示されたカメラ画面を選択した後、カメラ画面の制御ツールバーで (緊急録画)ボタンをクリックします。該当カメラ画面の右上段に緊急録画OSD(オレンジ色)が表示され、上の“録画スケジュール”タブで選択したプリセットで録画を開始します。 (緊急録画)ボタンを再びクリックすると録画が停止します。システムの負荷によって録画が遅くなることがあり、このため録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅くれて、または長く表示されることがあります。

第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存

録画映像を検索して再生したり動画ファイルで保存することができます。

先ず次の内容を確認します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81)部分を参照してください。
- 割り当てられたストレージに録画データがいなければなりません。詳しい内容は、“第 13 章 — ストレージ管理” (p. 97)部分を参照してください。

6.1 録画映像再生

1. NVRシステムに録画された映像再生及び動画で保存は再生パネル(最大4つ)で、DVRまたはiNEXプロトコルを使用するネットワークカメラに搭載されたSD(SDHC)メモリーカードの保存された録画映像の再生及び動画で保存はDVR検索パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブに再生またはDVR検索タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”または“DVR検索”をクリックしてタブを追加します。

2. パネルタブで再生またはDVR検索タブをクリックします。→ “サイト”リストでカメラ、デバイスまたはデバイスグループを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップします。各カメラの録画映像が画面に表示されます。現在再生しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、再生を停止せず該当カメラ画面を再生画面の希望する位置に移動することができます。

   レイアウトがNVRシステムに登録されている場合、レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、再生画面にドラッグ&ドロップして該当するレイアウトに映像を再生することができます。レイアウトの登録に関する詳しい内容は、“4.1 映像監視、レイアウトの監視、レイアウトの登録” (p. 39)部分を参照してください。

✓ 1280×720以上の解像度の映像を2つ以上のカメラ画面で同時に監視または再生する場合、システムの性能が大きく低下することがあります。
✓ 本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

3. パネルのツールバー、タイムテーブル、制御ツールバー及び画面のメニューを用いて録画映像を再生します。

<u>**パネルのツールバー**</u>

パネルの下段にあるツールバーを用いて録画映像を検索して該当する映像を再生することができます。

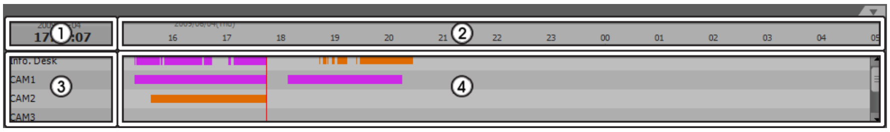
再生パネル

DVR検索パネル

- / (イベント検索/タイムラプス検索): イベント検索とタイムラプス検索の検索モードを変更します。詳しい内容は、"タイムテーブル/イベントリスト" (p. 63)部分を参照してください。
- (検索条件): イベント検索のための検索条件を設定します。検索条件に関する詳しい内容は、DVRの使用マニュアルを参照してください。
- (カレンダー): 特定日の映像を検索します。日付を選択すると、タイムテーブルに該当日の録画データが表示されます。カレンダーに録画映像がある日は活性化されて表示されます。
- (時間移動): 特定時点の映像を検索します。
  - 時間移動: 時間設定画面が表示されると、録画映像の時間を入力し、該当する時間の映像に移動します。
  - 最初に移動: タイムテーブルに表示された録画データの中で最初に録画された映像に移動します。
  - 最後に移動: タイムテーブルに表示された録画データの中で最後に録画された映像に移動します。
- (その他メニュー): メニューが表示されます。
  - イメージを保存/イメージ出力: 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
  - 除去された録画デバイス: NVRシステムにデバイスの録画映像が保存されていたが該当デバイスがNVRシステムより削除された場合にも削除されたデバイスを検索してデバイスが削除される前の録画映像を検索することができます(再生パネルの場合にのみ対応)。
  - セグメント選択: DVRの時間が過去に変更され、時間重複現象により、同一時間帯に一つ以上の映像が存在する場合、望みの区間を選択します(時間単位のタイムテーブルを提供するDVRの場合にのみ対応)。
  - データソース: 検索する録画画像の位置を選択します(DVR検索パネルの場合にのみ対応)。
    ローカル検索: DVRのメイン保存装置の録画画像を検索します。
    アーカイブ検索: DVRのアーカイブ保存装置の録画画像を検索します。
    外付け検索: DVRにつながっている他のシステムで録画された保存デバイスの録画映像を検索します。仕様及び、バージョンにより、使用できない場合があります。
- (動画の保存): 録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。詳しい内容は、"6.2 録画映像を動画で保存" (p. 66)部分を参照してください。
- (モーションの停止映像–再生パネル): イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。詳しい内容は、"モーションイベントの停止映像" (p. 64)部分を参照してください。
- (ステップ再生): フレームまたは時間単位で前または次の映像に移動します。 および ボタンの間にある矢印をクリックして映像の移動間隔を設定することができます。
- / (高速逆再生/高速再生): 録画映像を高速で逆再生または再生します。
- / (停止/再生): 現在の画面に表示された録画映像再生を中止または開始します。
- (ジョグシャトル–再生パネル): 再生方法および速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生方向及び速度を示します。縦線が中央から左にあると、映像を逆再生し、右側にあると正再生します。中央から遠いほど再生速度が速くなります。縦線をクリックしてジョグシャトルの希望する位置にマウスでドラッグした後、マウスのボタンをそのまま押していると、該当する速度で映像を再生します。マウスボタンから手を離すと、縦線が中央に戻り、 (再生)ボタンをクリックすると一倍速で映像を再生します。 (ロック)ボタンをクリックした後、縦線をドラッグ＆ドロップすると、移動した位置に縦線を固定させます。
- x 1.0 (ジョグシャトル–DVR検索パネル): 再生速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生速度を示します。
- (ユーザーのレイアウト登録): 現在の画面の分割を保存します。
- (画面分割): 画面分割を変更します。 ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。 または ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。

タイムテーブル/イベントリスト

- タイムラプス検索モード: タイムラプス検索モードの場合、画面の下段にあるタイムテーブルはカメラ別の録画情報を表示します。タイムテーブルの右上段にある ▲ ボタンをクリックすると、画面にあるすべてのカメラの録画情報を表示し、▼ ボタンをクリックすると再生画面から選択したカメラの録画情報のみを表示します。



✓ 接続されたデバイスのモデルによって、タイムテーブルが異なることがあります。

① 現在の再生日 / 時間: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示しします。

② 録画期間: 録画映像の日付及び時間区間を表示します。任意の位置をクリックした後、左側または右側にドラッグすると、以前または以後の日付及び時間に移動します。キーボードのCtrlキーを押したまま、マウスホイールを動かすと時間区間を拡大して表示することができます。

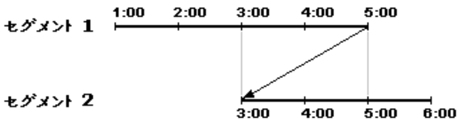
③ カメラ名: カメラの名前を表示します。

④ 録画データ: 録画情報を分単位または 時間単位で表示します(デバイスによって異なる)。

- 分単位タイムテーブル(一部のDVRモデルを除いた全てのデバイス)
  - 赤色の縦線: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。マウスで望みの時間をクリックすると、該当時間帯の最初の録画映像が表示されます。
  - 黄色の区分線: 時間重複現象が発生した場合、セグメントを区分します。その場合、タイムテーブルで右側に表示されるほど最新のデータです。“再生”パネルの (カレンダー)ボタンをクリックすると、望みのセグメントにすぐ移動できます((カレンダー) → 日付選択 → 望みのセグメント選択: 該当セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。
  - バーの色: 録画モードを表示します(タイムラプス録画 – 藍色、イベント録画 – ピンク色、プリイベント録画 – 紫色、緊急録画 – 空色、デバイス接続の一時中断による非正常録画 – オレンジ色)。
- 時間単位タイムテーブル(一部のDVRモデル)
  - 黄色のバー: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示しします。
  - ピンク色のバー / 灰色のバー: 時間重複現象が発生した場合、現在の画面に出力された映像のセグメントはピンク色のバーで、現在の画面に出力されていない映像のセグメントは灰色のバーで表示されます。灰色のバーで表示されたセグメントの映像は再生できません。“DVR検索”パネルの (その他メニュー)ボタンをクリックして画面に出力するセグメントを変更できます((その他メニュー) → “セグメント選択”メニュー → 望みのセグメント選択: 選択セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。

✓ NVRシステムまたはDVRの時間が過去に変更されて録画された場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります(時間重複現象)。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して再生する必要があります。

例えば、1時より5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時より3時に変更してから6時まで録画を行うと3時より5時までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に3時より5時までの時間帯には二つのセグメントは発生します。



- イベント検索モード: イベント検索モードの場合、画面下段にイベントリストが表示されます(DVR検索パネルの場合にのみ対応)。リストでイベントをクリックすると、画面に感知した該当イベントの映像が表示されます。イベントリスト右上の ボタンをクリックすると次の結果が表示されます。

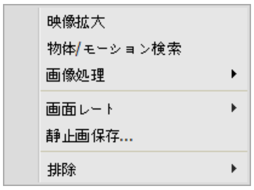
制御ツールバー

カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当カメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと、該当するボタンのツールチップが表示されます。

- (オブジェクト/モーション 検索): NVRシステムに保存された録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。詳しい内容は、“オブジェクト/モーション 検索” (p. 65)部分を参照してください。
- (映像拡大): 現在の映像を拡大します。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 65)部分を参照してください。
- (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。 ボタンをクリックすると、変更内容をすべてキャンセルして元のイメージに復戻ります。
- (イメージ効果): イメージに効果を与えます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 55)部分を参照してください。
- (オーディオ再生): オーディオが録音された場合、映像再生時に録音されたオーディオが一緒に再生されます(1×1分割画面でのみ支援)。

再生画面のメニュー

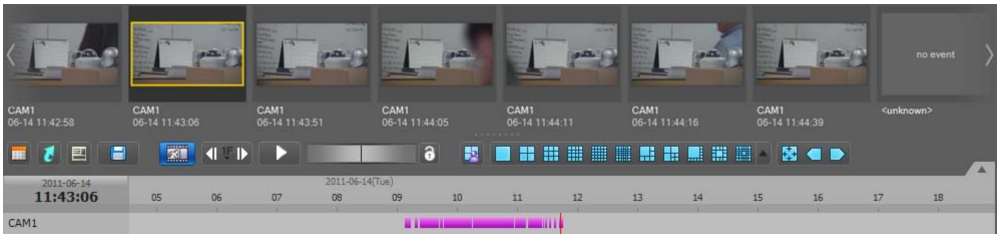
カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。



- 映像拡大: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックするのと同じように動作します。“オブジェクト/モーション 検索” (p. 65)部分を参照してください。
- オブジェクト/モーション 検索: NVRシステムに保存された録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 65)部分を参照してください。
- 画像処理: 再生映像を補正します。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 66)部分を参照してください。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
  - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
  - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
  - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
  - 半分サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズでカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ(×1)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。
- 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
- 排除: 接続を解除します。

モーションイベントの停止映像

パネルツールバーで (モーションイベントの停止映像)ボタンをクリックすると、イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。



選択した停止映像の録画情報がタイムテーブルに表示されます。タイムテーブルの録画データで任意の位置をクリックすると、選択した時間の停止映像が表示されます。マウスのカーソルを停止映像上に置くと、ポップアップビューア画面が該当停止映像の上段に表示されます。

- ポップアップビューア使用: ポップアップビューア画面に対応します。

オブジェクト/モーション 検索

制御ツールバーで (オブジェクト/モーション検索)ボタンをクリックすると、下段にオブジェクト/モーション検索パネルが表示され、NVRシステムに保存された録画映像でオブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。

- (検索領域指定): マウスドラッグを利用して、カメラ画面にオブジェクトまたはモーションの変化を検索する領域を設定します。
- (検索領域削除): マウスドラッグを利用して、カメラ画面に設定された検索領域を削除します。
- (参照イメージ設定): カメラ画面に現在表示されたイメージを、オブジェクトの変化を感知するための参照イメージに設定します(モーション検索のみ)。
- (参照イメージ表示): 参照イメージをPIP画面に表示したり隠します(モーション検索のみ)。

- クエリ— 方法: クエリ— 方法を選択します。
  - モーション検索: 連続された2つの録画映像を比較して検索領域で変化が発生した場合その映像を探し当てます(例: モージョンがあった場合)。
  - オブジェクト検索: 参照イメージと比較して検索領域で変化が発生し活性化時間間変化が持続される場合その映像を探し当てます(例: 物体がなくなった場合)。
- 敏感度: 変化感知の敏感度を設定します。値が大きければより敏感に感知します。
- 検索ブロック数: 変化感知最小ブロックを選択します(モーション検索のみ)。設定されたブロック数より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 参照映像対変化率: 変化感知の最小比率を選択します(オブジェクト検索のみ)。設定された比率より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 活性化時間: 変化感知時、変化が発生したと感知するために変化が持続される時間を設定します。変化が感知されてから指定された時間間持続しないと変化がないことに見なします。

映像拡大

制御ツールバーで (映像拡大)ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

✓ “PIP”とは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さな画面を言います。

- (スライドバー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて、拡大倍率を調整することもできます。
- (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードではカメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
- (拡大ファインダ): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。

イメージ効果

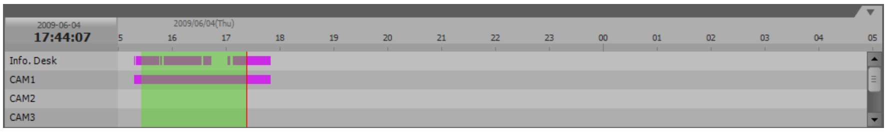
制御ツールバーで (イメージ効果)ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。

- (ソフト): 映像をソフトにします。
- (鮮明): 映像を鮮明にします。
- (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。
- (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
- (境界線の検出): 映像の輪郭を抽出します。
- (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します

6.2 録画映像を動画で保存

録画映像を内蔵DVD RWまたはUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。再生パネルの下段にあるツールバーで (動画保存)ボタンをクリックすると動画保存メニューが表示されます。

- A-B動画を保存: 動画で保存する映像の区間をタイムテーブルを用いて設定します。動画保存メニューで、“A-Bの動画を保存”を選択した後、タイムテーブルで保存する映像の開始サイトをクリックし、映像の最後のサイトまでドラッグします。“動画保存”画面が表示されたら、該当区間の映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 66)及び“AVIファイルで保存” (p. 70)部分を参照してください。



- 動画保存: 動画で保存する映像の区間を直接入力して設定します。動画保存メニューで、“動画を保存”を選択します。“動画を保存”画面が表示されたら、該当する区間の映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 66)及び、“AVIファイルで保存” (p. 68)部分を参照してください。

専用のビューアーファイルで保存

録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)で保存します。

- スタート時刻、終了時刻: 動画で保存する映像の日付及び時間を入力します。"最初の映像"オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間に設定し、"最後の映像"オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間に設定します。"±1分"、"±3分"、"±10分"、"±30分"または"±60分"ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する間隔の分、時間を加えるか引きます。
- 専用ビューアー、AVI: "専用ビューアー"を選択します。本設定はクライアントシステムにのみ対応します。NVRシステムではAVIファイル(.avi)で、保存機能には対応しません。
- メディア: 保存デバイスを選択します。
- ☑ パスワード保存: 動画を再生するためのパスワードを設定します。パスワードを設定すると再生プログラムを実行する時、パスワード入力を要求します。
- ☑ テキストインデータ含む: 該当録画映像にテキスト入力情報がある場合、テキスト入力情報を映像と共に保存します(DVR検索パネルの場合のみ対応)。
- ☑ プレーヤー未包含: セルフプレーヤープログラムを包含しなくて録画映像のみ保存します(DVR検索パネルの場合にのみ対応)。この場合、ファイルサイズ及び保存時間が減少しますが保存されたファイルを再生するためにはiNEX Clientプログラムが設置されたフォルダ(\Client\selfplayer)で提供されるセルフプレーヤープログラム(ClipPlayer.exe)を実行する必要があります。デバイスの仕様及びバージョンによっては該当機能は支援されない場合があります。

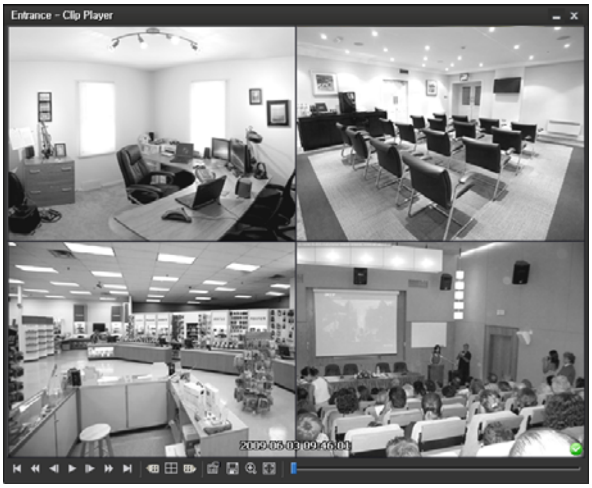
専用ビューアーファイルの再生

専用ビューアーファイルは、ファイル自体が再生プログラム(クリッププレーヤー)を含んでいるため、再生のための別途のソフトウェアをインストールする必要がありません。該当ファイルをダブルクリックすると、再生プログラムがすぐ実行され、画面に映像が表示されます。再生プログラムの右下段のスクロールバーを動かして希望する時刻の映像にすぐ移動することができます。 ☒ ボタンをクリックすると再生プログラムを終了します。

✓ 再生プログラムを稼働させるためのPCのCPUの最低仕様は、800MHz Pentium III (Intel Pentium Dual Core 2.2GHz推奨)です。CPUの仕様が低い場合、高画質と最高速度で録画された映像は、多少ゆっくり再生されます。また、プログラムを正常に実行させるためには9.0バージョン以上のDirectXをインストールする必要があり、16MB以上のビデオラムを備えたVGAカードの使用を推奨します。

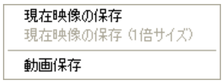
✓ 使用PCのディスプレイ設定によって映像が正常に見えないことがあります。その場合、デスクトップ画面でマウスの右ボタンをクリックして、ディスプレイの登録情報 → 設定タブに移動して"色の品質"を"32ビット"に設定した後、"詳細" → トラブルシューティングを選択して、"ハードウェアアクセラレータ"を"最大"に設定してください。引き続き、問題が発生したらスタート → ファイル名を指定して実行…を選択して、"dxdiag"を入力してエンターボタンを押して出るDirectX診断ツール画面で、DirectXバージョンが9.0以上なのかを確認してください。ディスプレイのタブに移動して"DirectDrawアクセラレータ"が使用可能になっているかを確認してください。Microsoft® Windows® XPのOSで"DirectのDrawテスト"ボタンを押してテストしてください。VGAカードのドライバーバージョンを確認して最新バージョンではない場合は最新バージョンにアップデートしてください。すべての事項が確認された後も映像が正常に見えない場合は、ビデオカードを変更してください。ATIチップセットを使用したビデオカードを推奨します。

✓ 録画映像を保存するの際"プレーヤー未包含"オプションを選択した場合保存されているファイルを再生するためにはiNEX Clientプログラムが設置されたフォルダ(\Client\selfplayer)で提供されるセルフプレーヤープログラム(ClipPlayer.exe)を実行する必要があります。



- : 最初に移動　　: 最後に移動　　: 高速巻き戻し　　: 高速再生
  : 一画面ずつ逆再生　　: 一画面ずつ再生　　: 一倍速再生
- : 現在の分割画面を基準にして以前のカメラグループに保存された映像がある場合、以前のカメラグループに移動します。
- : 画面分割が 4 → 8 → 9 → 16 → 20 → 25 → 1+32分割に順に変更されます。
- : 現在の分割画面を基準にして次のカメラグループに保存された映像がある場合、次のカメラグループに移動します。
- : 再生プログラムの属性を設定することができます。

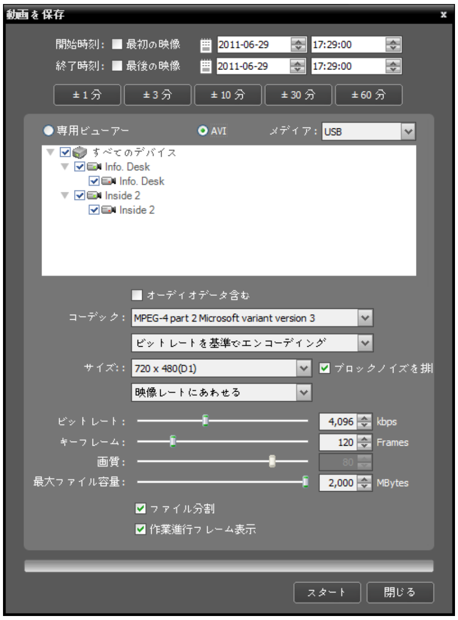
  - 印刷: 現在の映像を印刷します。
  - 情報: 現在の映像画面の番号、カメラ名、録画時間、録画モード、ファイルのサイズ、解像度などの情報を表示します。
  - 画像処理: 映像の明るさを調整したり、“ソフト”または“鮮明”のようなイメージフィルターを適用します(1×1分割画面でのみ支援)。
  - プレイスピードコントロール: “再生”及び“FF/RW”(高速再生/逆再生)速度を変更します。
  - ディスプレイモード: ディスプレイモードを選択します。画面が表示されなかったり、異常に表示される場合、ディスプレイモードを変更して問題を解決する時に使用します。
  - 画面サイズ: 再生プログラムの画面サイズを選択します。
  - 画面レート: 画面に表示される映像の出力レートを変更します。
  - OSD設定…: 画面に表示されるOSD項目を設定します。
  - オーディオオン: 該当映像が録画される時、オーディオも一緒に録音されると、再生時にオーディオが出力されます(1×1分割画面再生時にのみ支援)。
  - ブロック現象改善: 拡大映像の階段(ブロック)現象を改善して出力します。使用するPCのCPUの仕様が低くて再生が遅い場合、ブロック現象改善機能オプションを解除すると、遅くなる現象を少し改善することができます。
- : 現在の映像を保存することができます。



  - 現在映像の保存: 現在画面をイメージファイルで保存します。
  - 現在映像の保存(1倍サイズ): 現在画面を1倍サイズのイメージファイルで保存します(1×1分割画面でのみ支援)。
  - 動画保存: 映像の特定区間をAVIファイル(.avi)で保存します。
- : 画面を拡大して見るか、1倍サイズで見ることができます(1×1分割画面でのみ支援)。画面を拡大した場合、拡大された画面でマウスで画面をクリックした後、カーソルを動かして拡大された画面の位置を変更することができます。
- : 画面を全体画面で見ることができます。
- 、: 再生プログラムの右下段に表示されます。映像が改竄されなかったことが確認されたら アイコンが出力され、映像が改竄されると アイコンが出力されて再生を停止します。

AVIファイルで保存

録画映像をAVIファイル(.avi)で保存します。



- スタート時刻、終了時刻: 動画で保存する映像の日付及び時刻を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間に設定し、“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間に設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±60分”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する間隔の分、時間を加えるか引きます。
- 専用ビューアー、AVI: “AVI”を選択します。
- メディア: 保存デバイスを選択します。
- ☑ オーディオデータ含む: オーディオが一緒に保存された映像の場合、一つのチャンネルのみサポートします。映像が1 ipsより少なく設定されて録画した場合はオーディオデータが正常に保存できない恐れがあります。映像が1ipsより少なく録画された場合オーディオ保存が正常に行われない恐れがあります。
- コーデック、ビットレート、画質: 映像を圧縮するために適切な値を設定します。
  - ビットレートを基準でエンコーディング: ビットレートを基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビットレートの設定ができます。
  - ビデオの品質を基準でエンコーディング: ビデオの品質を基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビデオ品質の設定ができます。
- サイズ: 映像を圧縮するためのファイルの大きさを設定してから圧縮映像の出力比率を選択します。
  - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートで、カメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
  - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
  - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
- ☑ ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の画質を向上させることができます。
- キーフレーム: 映像を圧縮するためにキーフレームを設定します。
- 最大ファイル容量: ファイルの最大サイズを設定します。
- ☑ ファイル分割: 保存中の録画映像のサイズが上で設定した“最大ファイルサイズ”になると、保存中の録画映像を最大ファイル容量に分割して保存します。本オプションが選択されていない場合、最大ファイルサイズ分だけ保存します。
- ☑ 作業進行フレーム表示: 保存時、現在保存中の映像をポップアップ画面に表示します。

<u>AVIファイルの再生</u>

動画の再生プログラムを実行した後、AVIファイルを読み込みます。AVIファイル保存時に選択した圧縮方式のコーデックがインストールされていない場合、該当するコーデックを手動でインストールしなければなりません。

第 7 章 — イベント処理

イベントが感知されたカメラの映像を監視したり、イベント録画映像を再生することができます。デバイスが使用するプロトコールの種類によってイベント関連機能に対応しないことがあります(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)。

まず、次の内容を確認します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81)部分を参照してください。
- 割り当てられたストレージに録画データがいなければなりません。詳しい内容は、“第 13 章 — ストレージ管理” (p. 97)部分を参照してください。
- デバイスにイベントの感知機能が設定されていなければなりません。

7.1 リアルタイムイベント

イベントが感知されたカメラの映像をリアルタイムで監視することができ、該当するイベント感知映像が録画されていれば映像を再生することができます。

管理サービスに登録されたデバイスで感知されたリアルタイムイベント及びコールバックイベントがイベントのリストに表示されます。コールバックイベントはデバイスでコールバック機能が設定されている時のみ表示されます。“3.3 クライアント、メニュー – 環境設定”で、イベントのリストの表示オプションを変更することができます。詳しい内容は、“メニュー – 環境設定” (p. 30)部分を参照してください。

イベントのリストに表示される各イベントのアイコンの意味は次のとおりです(ネットワークビデオデバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

モーション感知	映像信号非表示	映像信号なし
テロ感知	オーディオ検出	トリップ ゾーン
タンパーリング	テキスト入力	/ アラームイン感知/解除
/ アラーム入力異常あり/なし	/ 外部保存デバイス挿入/取り外し	/ デバイス接続/解除
システムスタート	システム動作	システム再起動
システム終了	録画機能異常あり	ディスクフル
ディスクフル	ディスクBad Sector	ディスク設定変更
S.M.A.R.T.感知結果ディスク異常あり	S.M.A.R.T.感知結果ディスクが高温	/ 緊急録画開始/終了
/ ファン異常あり/解除		

映像監視

イベント感知カメラの映像監視は、監視パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。

パネルタブで監視タブをクリックします。→ 最近のイベントのリストで希望するイベントを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が画面に表示されます。

映像再生

イベント録画映像の再生は、再生パネルでサポートします。パネルタブに再生タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”をクリックしてタブを追加します。

パネルタブで再生タブをクリックします。→ 最近のイベントのリストで希望するイベントを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したイベントの録画映像が画面に表示されます。

7.2 イベント録画映像

イベント録画時に録画されたイベント録画映像を再生することができます。

イベント録画映像の再生は、イベントパネルでサポートします。パネルタブにイベントタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“イベント”をクリックしてタブを追加します。

1. パネルタブでイベントタブをクリックします。→ “サイト”リストで希望するデバイスまたはカメラを選択した後、イベントパネルにマウスでドラッグ&ドロップします。該当するデバイスまたはカメラに対してイベント録画時に録画されたイベントのリストがイベントのパネルに表示されます。コラムタイトルでマウスの右クリックをすると現れるメニューを用いてデータを希望通りで分類することができます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。

2. イベントのパネルで希望するイベントをダブルクリックすると、再生パネルが表示され、該当するイベント映像が再生画面に表示されます。イベントを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、希望する再生パネルを選択することができます。該当するイベント録画に他のカメラが連動し、映像が録画されると連動録画された映像が一緒に表示されます。

イベントのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて、イベント録画時に録画されたイベントを検索することができます。

- スタート時、終了時刻: 検索するイベントの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“スタート時”と“終了時刻”の時間間隔を該当する間隔の分調整します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると最初に録画されたイベントから最後に録画されたイベントまで検索します。

- (条件): 検索するイベントの種類を選択します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (全体画面): イベントパネルを全体画面で表示します。
- (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)またはCSVファイル(.csv)で保存します。
- (プリント): 検索結果をプリントします。
- もっと見る: 次の結果を表示します。

第 8 章 — システムの動作状態及びデバイス状態の監視

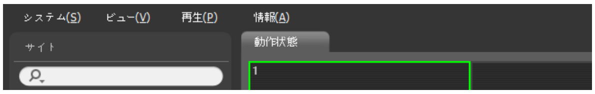
登録されたデバイスシステムの動作状態及びデバイス状態をリアルタイムで確認することができます。

まず、次の内容を確認します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81) 部分を参照してください。

8.1 システムの動作状態の監視

システムの動作状態の監視は、動作状態のパネルでサポートします(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。パネルタブに動作状態のタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“動作状態”をクリックしてタブを追加します。



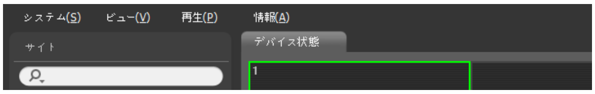
動作状態のタブが追加されると、自動的に動作状態の監視結果を表示します。

① 要約リスト: デバイスグループに追加されたすべてのデバイスに対する動作状態を要約して表示します。
- トータル: すべてのデバイスグループに追加されたデバイスの個数を表示します。
- 問題発生: 問題が発生したデバイスの個数を表示します。
- 接続されていない: 接続されていないデバイスの個数を表示します。
- 正常に動作: 問題発生が感知されず正常に動作しているデバイスの個数を表示します。

② 詳細リスト: 各デバイスの状態情報を詳しく表示します。
- 動作状態: 動作状態を表示します(正常に動作: 問題発生が感知されない、問題発生: 映像信号がない、イベント感知または接続可能な画面がなかったり、サポートできないソフトウェアのバージョンのため、ログインに失敗、接続されていない: ネットワークに接続されていない)。
- デバイス: デバイスの名前を表示します。
- モデル: デバイスのモデル名を表示します。
- カメラ: デバイスでサポートするカメラの個数を表示します。
- 問題発生: 問題発生の原因を詳しく表示します。

8.2 動作状態の監視

デバイス状態の監視はデバイス状態パネルで対応します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。パネルタブにデバイス状態タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“デバイス状態”をクリックしてタブを追加します。



動作状態のタブが追加されると、自動的に動作状態の監視結果を表示します。

① 状態表示画面: 状態をアイコンで表示します。
- カメラ: カメラ番号を表示します。
- バージョン: システムのバージョン情報を表示します。
- イベント: イベント感知状態を表示し、イベント感知時にイベントアイコンにカラー表示されます。マウスカーソルをアイコン上にあてると該当イベントの種類がツールチップで表示されます。
- アラーム出力: アラーム出力状態を表示します。
- システムチェック: デバイス及び録画機能の動作状態を表示します。

② 機能ボタン
- (接続解除): デバイス状態パネルの現在の接続を解除します。
- (緊急録画): デバイスの緊急録画を遠隔で開始または中止します(緊急録画機能に対応するDVRの場合にのみ対応)。
- 録画開始/終了: 録画期間を表示します。
- 動作状態: デバイスの録画、再生、アーカイブ、クリップコピーの状態を表示します。
- (全体画面): デバイス状態パネルを全体画面で表示します。

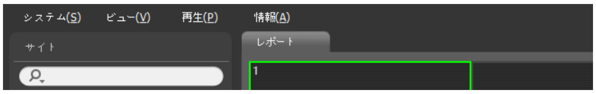
第 9 章 — ログ検索

iNEXプログラム及びデバイスのログを検索することができます。

まず、次の内容を確認します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81) 部分を参照してください。

ログ検索は、レポートのパネルでサポートします。パネルタブにレポートタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“レポート”をクリックしてタブを追加します。



様々な種類のログリストが表示されます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。

ログの種類のリストで検索するログの種類を選択します。コラムタイトルでマウス右クリックすると現れるメニューを用いてデータを希望通りで分類することができます。

- ユーザーログ: “iNEXクライアント”プログラムのログを表示します。
- 動作状態ログ: 登録されたデバイスのシステムの動作状態のログを表示します。
- 管理サービスログ: 管理サービスのログを表示します。
- 録画サービスログ: 登録された全ての録画サービスに対して、録画サービスのログをそれぞれ表示します。
- ストリーミングサービスログ: 登録された全てのストリーミングサービスに対して、ストリーミングサービスのログをそれぞれ表示します。
- モニタリングサービスログ: モニタリングサービスのログれ表示します。
- デバイスシステムログ: デバイスのシステムログを表示します。
- デバイスイベントログ: デバイスのイベントログを表示します。

デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。ネットワーク接続解除ログに関する詳しい内容は、“付録 — ネットワーク接続解除ログ” (p. 135)部分を参照してください。

レポートのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のログを検索することができます。

- スタート時、終了時刻: 検索するログの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり"最初の映像"または"最後の映像"のオプションを選択して設定することができます。"1時間"、"6時間"、"本日"、"3日"または"1週間"ボタンをクリックすると、"スタート時"と"終了時刻"の時間間隔を該当する間隔の分調整します。"最初の映像"または"最後の映像"のオプションを選択すると一番最初に発生したログからまたは一番最後に発生したログまで検索します。
- (条件): 検索するログの種類を選択します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (全体画面): レポートパネルを全体画面で表示します。
- (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)またはCSVファイル(.csv)で保存します。システム及びサービスログの場合、暗号化されたHTMLファイル(.html)で保存することができます。HTMLファイルを確認するためには暗号入力が要求されます。
- (プリント): 検索結果をプリントします。
- もっと見る: 次の結果を表示します。

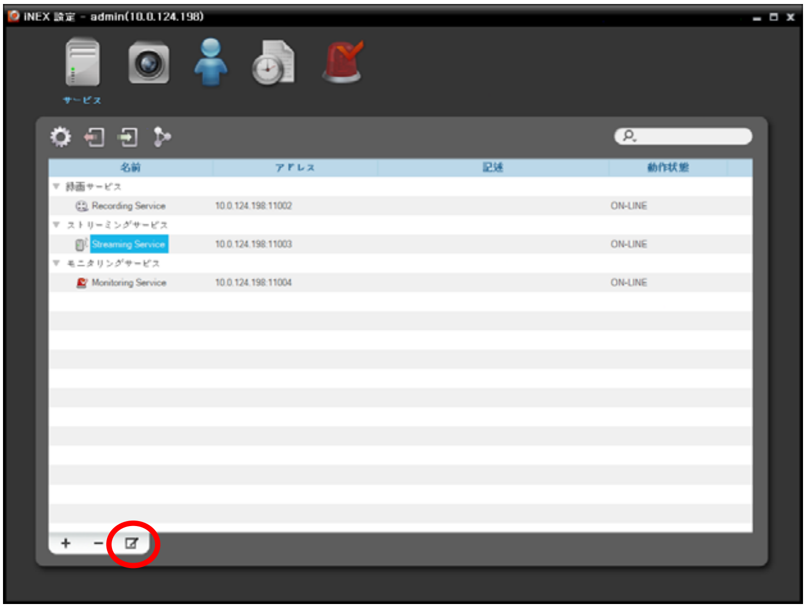
第 10 章 — ストリーミング

ストリーミングサービスを用いてより多いユーザーがデバイスの映像を監視することができます。ストリーミングサービスが動作しない場合も映像を監視することはできますが、この場合、デバイスで支援する最大同時接続のユーザー数によって監視可能なユーザー数が制限されます。

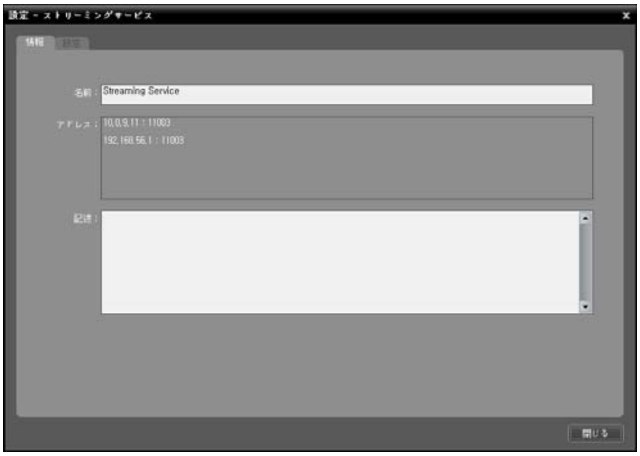
✓ デバイスがDVRの場合、ストリーミングサービスが対応しません。

ストリーミングサービスが動作するかどうかと関係なく映像監視の方法は同じです。映像監視に対する詳しい内容は、“第 4 章 — リアルタイム映像監視” (p. 37)部分を参照してください。

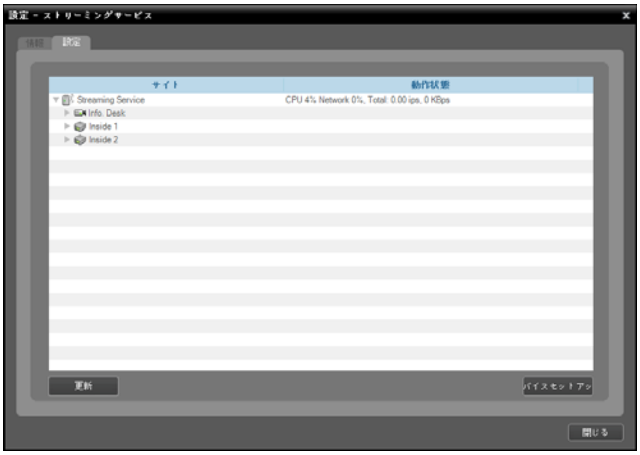
“サービス”メニューを選択します。



1. ストリーミングサービスを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。“設定 – ストリーミングサービス”画面が表示されたら“情報”タブを選択します。



2. バックアップサービスの名前を入力した後、“設定”タブを選択します。

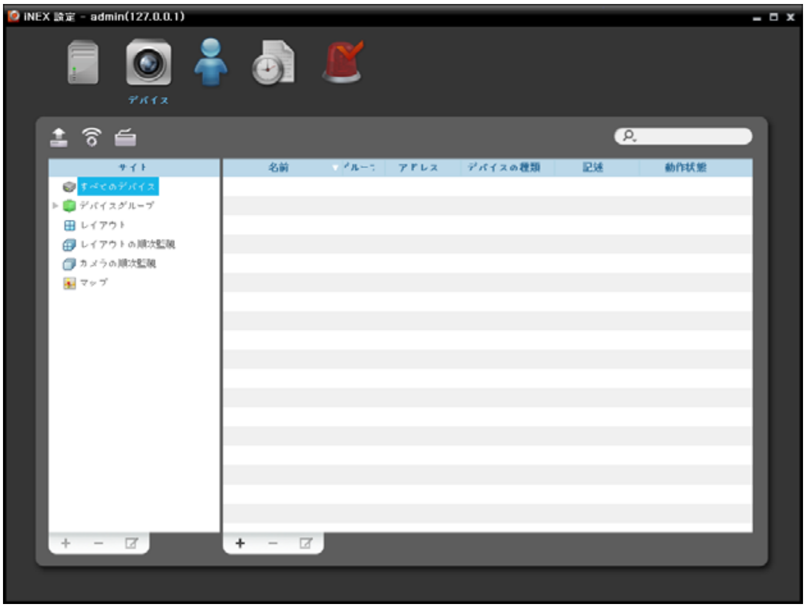


現在のストリーミングサービスに登録されているカメラのリストが表示されます。下段の“デバイス設定”ボタンをクリックすると、現在の録画サービスに別のカメラを登録あるいは除去することができます。

3. 現在のストリーミングサービスに登録されているカメラの映像がクライアントシステムにストリーミングされます。

第 11 章 — デバイス管理

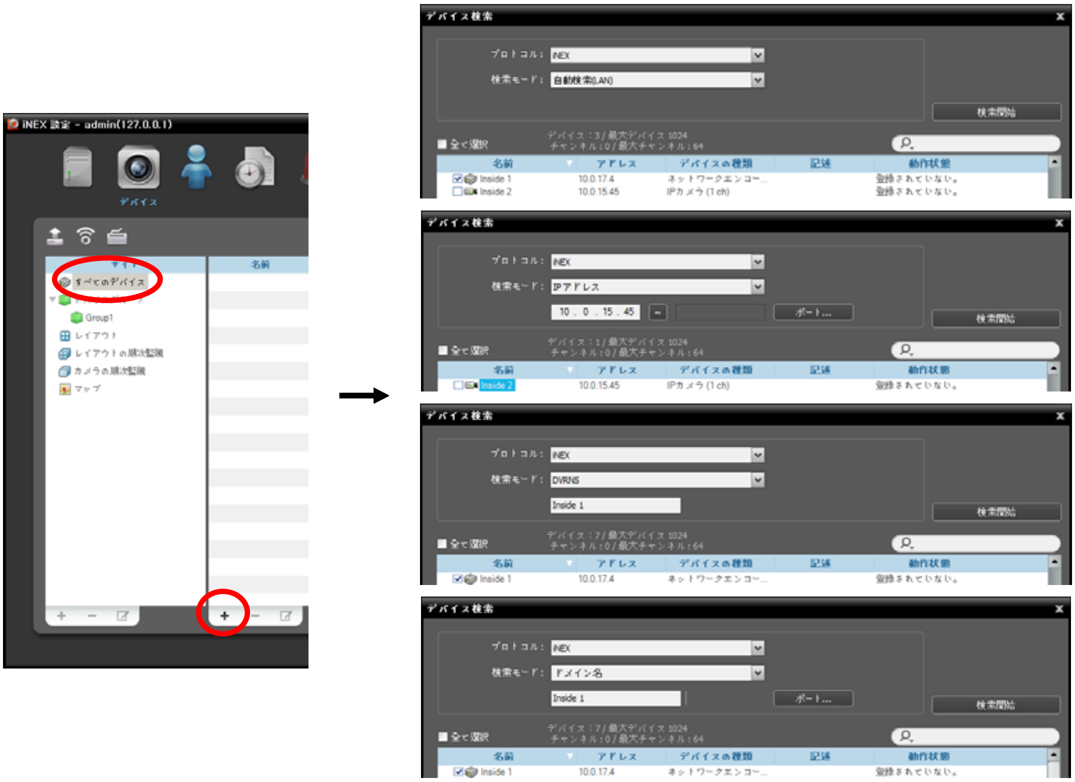
デバイス情報を修正したり、デバイスをリストから削除することができます。また遠隔でデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードできます。“iNEX設定”プログラムを実行します。→ “デバイス”メニューを選択します。



- すべてのデバイス: サイトリストのパネルに、NVRシステムに登録されたすべてのデバイスリストを表示します。“すべてのデバイス”でデバイスを削除する場合、デバイスを再登録しても該当デバイスの以前の録画データに関する検索及び再生はできません(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ該当)。デバイスの登録に関する詳しい内容は、“11.1 デバイスの登録” (p. 81)部分を参照してください。
- デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。希望するカメラの映像を監視したり、再生することができます。iNEXプログラムを用いて機能を実行するためには、NVRシステムにデバイスが登録されていなければならず、デバイスグループに該当するデバイスを追加しなければなりません。デバイスグループの登録に関する詳しい内容は、“11.1 デバイスの登録” (p. 81)部分を参照してください。
- レイアウト: 登録されたレイアウトのリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視したり再生することができます。詳しい内容は、“4.1 映像監視、レイアウトの監視” (p. 39)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。詳しい内容は、“4.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 40)部分を参照してください。
- カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像を同じカメラ画面で順次監視することができます。詳しい内容は、“4.1 映像監視、カメラの順次監視” (p. 42)部分を参照してください。
- マップ: 登録されたマップのリストを表示します。カメラ映像、イベント感知、入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。詳しい内容は、“4.2 マップ監視” (p. 44)部分を参照してください。

11.1 デバイスの登録

1. “サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“デバイス検索”画面が表示されます。

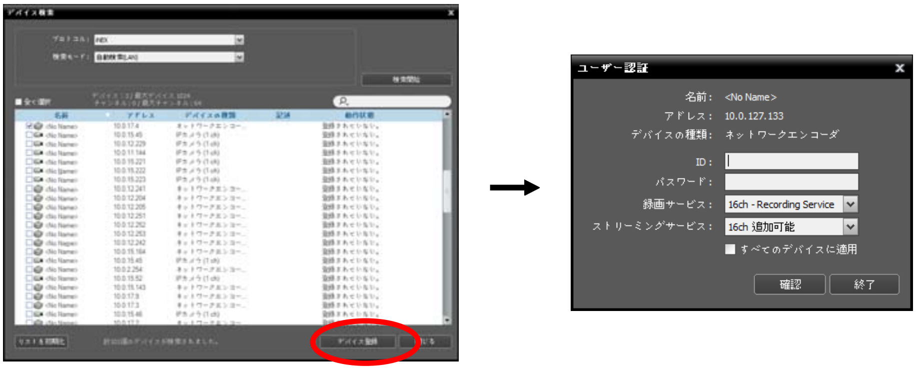


- プロトコル: 検索するデバイスのプロトコルまたはメーカーを選択します。デバイスが使用するプロトコルによってイベント関連機能に対応できないこともあり(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)、その他にも該当デバイスの設定によって一部機能に対応しないことがあります。
- 検索モード: 検索モードを選択した後、"検索開始"ボタンをクリックすると、検索結果をリストで表示します。デバイスのIPアドレス帯域がNVRシステムのIPアドレス帯域と異なる場合、iNEXプログラムは該当デバイスのIPアドレスを有効にしないものと見なします。この場合、デバイスのIPアドレスを変更すれば、デバイスの登録ができます。
  - 自動検索(LAN): LAN環境にあるデバイスをリストに表示します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。ONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、Microsoft® Windows® Vistaまたはその上のOSではソフトウェアのインストール時に"Disable WS-Discovery Windows Service (fdPHost, FDResPub)"項目を選択した場合にのみ自動検索に対応します。またはONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス連結が正しく動作しない可能性があります。
  - IPアドレス: デバイスのIPアドレスを入力します。二つ以上のデバイスを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス連結が正しく動作しない可能性があります。
  - DVRNS: デバイスがDVRネームサービス(DVRNS)機能を使用する場合、DVRNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。デバイスが登録されているDVRNSサーバーの情報が正しく設定されているか確認してください("サービス"メニュー – (システム設定)ボタン)。デバイスが登録されているDVRNSサーバーの情報が正しくない場合はデバイスが検索できません。
  - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合、DNSサーバーに登録されたデバイスのドメイン名を入力します。
- ☑: リストで各デバイスの名前の横にあるチェックボックスを選択して、登録するデバイスを選択します。"全て選択"を選択するとリストにあるすべてのデバイスを選択します。

✓ iNEXで支援するプロトコルであってもモデルによっては支援されない場合があります。支援されるモデルに対する詳しい内容は、NVRの購入先にお問い合わせください。

✓ デバイスがONVIF™ Conformanceプロトコルを支援する場合、プロトコル 選択時、そのデバイスのメーカ(またはiNEXプロトコル)を選択したりONVIF™ Conformanceプロトコルを選択することができます。ただし、デバイスがONVIF™ Conformanceプロトコルを支援してもモデルによってはどちらかが支援されなかったり両方とも支援されない場合があります。詳しい内容は、NVR購入先にお問い合わせください。デバイスがONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するように設定する方法はデバイス毎に異なりますのでそのデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

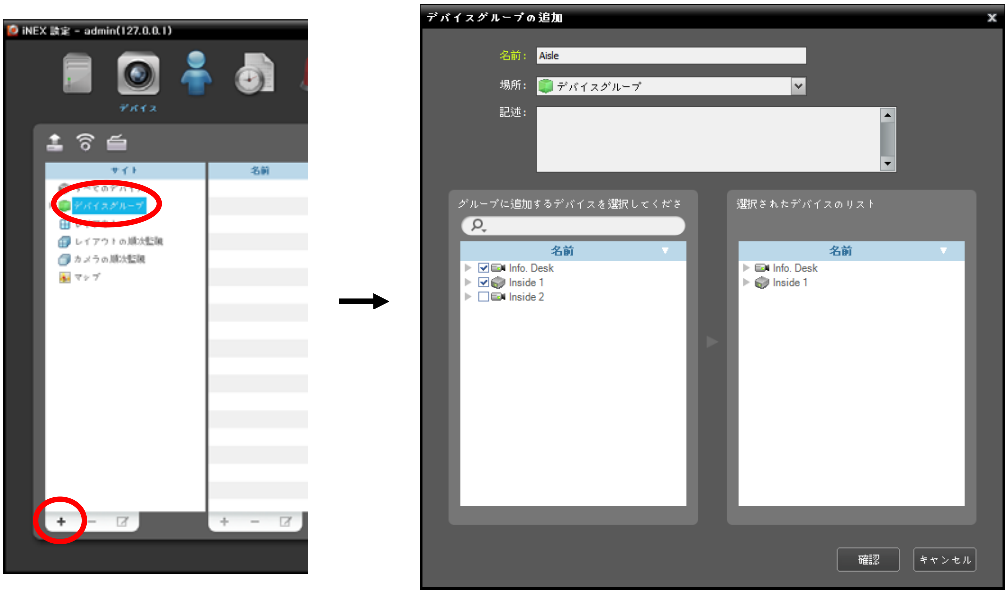
2. “デバイス検索”画面の下段の“デバイス登録”ボタンをクリックします。



- 名前、アドレス、デバイスの種類: 選択したデバイスの名前、IPアドレス及び種類を表示します。デバイスの名前はデバイスでの設定によって自動的にアップデートされます。
- ID、パスワード: 遠隔接続のために各デバイスで設定したユーザーID及びパスワードを入力します。接続はデバイスの“Administrator”グループ内のユーザーのみ許可され、録画はデバイスの“Administrator”グループ内の“admin”ユーザーのみ許可されます。
- 録画サービス: 録画サービスを選択します(ネットワークビデオデバイスの場合にのみ対応)。録画サービスにデバイスが登録され、録画スケジュールによって録画が行われます。録画サービスのチャンネル番号は登録可能なカメラ数を表し、名前はサービスメニューで設定した録画サービスの名前を表します。“録画しない”項目を選択した場合、“録画スケジュール”設定時に該当デバイスが登録されていないものと判断し、該当デバイス関連スケジュールは実行されません。録画が行われた後、録画サービスで該当デバイスを削除すると、該当デバイスを再度登録しても以前の録画映像は検索または再生できません。録画サービスに登録されたデバイスのリストは“サービス”メニューで録画サービス設定時に“デバイス設定”タブで確認できます。詳しい内容は、“第 13 章 — ストレージ管理”(p. 97)部分を参照してください。
- ストリーミングサービス: 選択したデバイスの映像監視する時、ストリーミングサービスを使用するかどうか選択します。ストリーミングサービスを使用する場合、ストリーミング サーバーを通じてクライアントシステムに映像を伝送し、従って多数のユーザーが同時に 映像を監視することができます。ストリーミングが可能なチャンネル数は録画可能なチャンネル数とおなじです。詳しい内容は、“第 10 章 — ストリーミング” (p. 79)部分を参照してください。
- すべてのデバイスに適用: 1つ以上のデバイスを選択した場合、選択したデバイスのユーザーID及びパスワードが全て同じであれば入力したユーザーID及びパスワードを全てに適用することができます。

✓ デバイスがDVRの場合、DVRの仕様及びバージョンによってポート番号の入力が追加要求されることがあります。
✓ デバイスがiNEXプロトコルを使用する4チャンネルネットワークビデオエンコーダーである場合、カメラ使用と関係なく、自動で4つのカメラが全て登録されます。

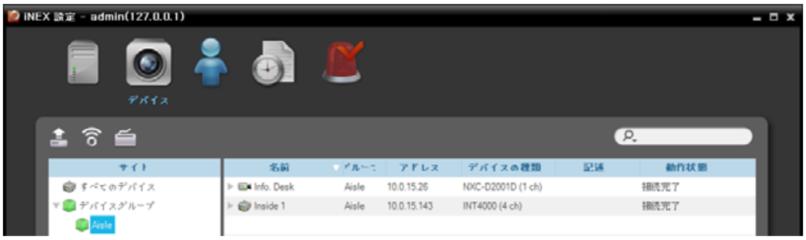
3. “サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、右側の“サイト”パネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“デバイスグループの追加”画面が表示されます。



- 名前: デバイスグループの名前を入力します。
- 場所: 該当するデバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。
- グループに追加するデバイスを選択してください、選択されたデバイスのリスト: 左側のカメラの横にあるチェックボックスを選択すると、選択したカメラが右側に追加されます。

“確認”ボタンをクリックすると、該当するデバイスグループが登録されます。

4. デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。“サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“デバイスグループ”の左側の矢印ボタン( )をクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示され、接続状態が表示されます。デバイスの接続が正しく行われていない場合、ネットワーク接続解除ログが表示されます(録画サービスに登録されたデバイスのみ対応)。ネットワーク接続解除ログに関する詳しい内容は、“付録 — ネットワーク接続解除ログ” (p. 135)部分を参照してください。



登録されたデバイスグループを選択した後、“サイト”パネルの下段にある ボタンをクリックすると“デバイスグループ修正”画面が表示され、該当デバイスグループを修正することができます。

11.2 デバイスの管理

“サイト”パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックすると、デバイスメニューが表示されます。

または

- デバイス修正: デバイスの接続情報および録画スケジュールの"動作"プリセット値を設定します。詳しい内容は、"デバイス修正" (p. 85)部分を参照してください。
- デバイスを遠隔設定: 遠隔でデバイスの設定が変更できます。詳しい内容は、"デバイスを遠隔設定" (p. 87)部分を参照してください。
- ファームウエアアップグレード: 遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。詳しい内容は、"ファームウエアアップグレード" (p. 87)部分を参照してください。
- 多重録画設定: 2つ以上のデバイスに対して録画スケジュールの"動作"プリセット値を同じく設定することができます。この機能は同じ種類(ネットワークカメラ/ネットワークビデオサーバー)のデバイスである場合のみ支援されます。
- デバイス情報アップデート: 登録されているデバイス情報をアップデートします。連結されている入/出力デバイスがリスト上に表示されない場合はデバイス情報をアップデートしてください。

デバイス修正

デバイスメニューで"デバイス修正"を選択します。

情報

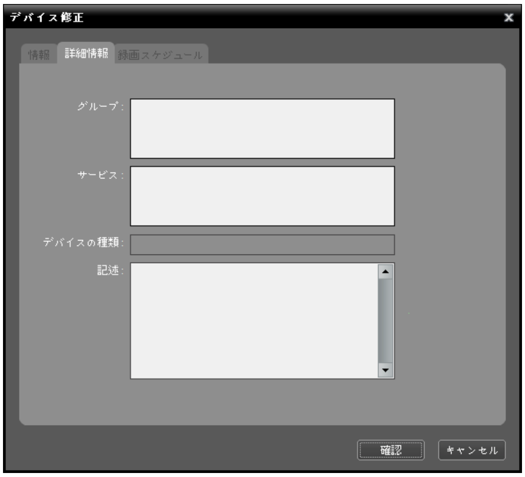
デバイス接続のための基本情報を変更することができます。

- 名前: デバイスの名前を修正します。他のデバイスと重複する名前が使えます。"デバイスを使用しない"オプションを選択すると、該当するデバイスは登録されていないものと見なされます。デバイスリストでマウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューで、"デバイス名同期化"を選択すると、デバイスの設定に従ってデバイス名を自動に更新します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- アドレスタイプ: デバイスのアドレスタイプを選択します。
  - 自動検索(LAN): デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのmDNS番号を入力します。
  - IPアドレス: デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのIPアドレスを入力します。

- DVRNS: デバイスがDVRネームサービス(DVRNS)機能を使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時DVRNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力しることができます。入力した名前は該当するデバイスのDVRNS設定で設定した名前と同じでなければなりません。
- ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時DNSサーバーに登録されたデバイスのドメイン名を入力しることができます。

- アドレス: アドレスタイプで選択したアドレスのタイプによりデバイスのアドレスを修正します。
- ポート: ポート番号を修正します。入力したポート番号は該当するデバイスで遠隔接続(Admin)、遠隔監視(Watch)、録画(Record)及び双方向オーディオ(Audio)のために設定したポート番号と同じでなければなりません。
- ID、パスワード: 該当するデバイスに接続するためのユーザーID及びパスワードを修正します。
- 接続テスト: ボタンをクリックすると、上で入力した情報で該当デバイスへの接続が行われるかテストすることができます。
- ストリームプロトコル: ストリーミングのためのプロトコルを選択します(ONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- 録画プロトコル: 録画のためのプロトコルを選択します(ONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。
- ONVIFプロファイル: すでに設定されたONVIF™ プロファイルを選択します。ONVIF™ プロファイルに関する詳しい内容は、“11.3 ONVIF™ Conformanceプロトコルデバイスの遠隔設定、プロファイル” (p.92) 部分を参照してください(ONVIF™ Conformance プロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

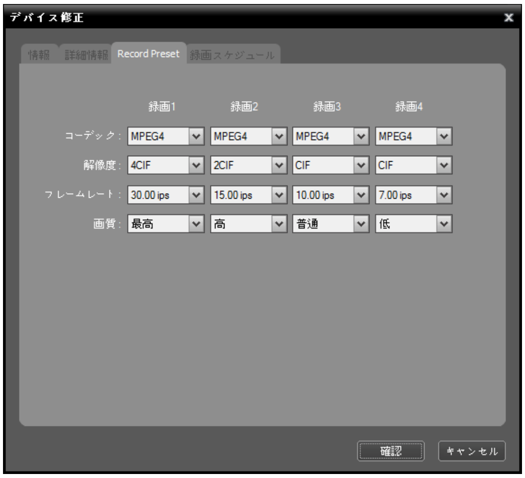
詳細情報



デバイスの登録情報を表示します。

- グループ、サービス: デバイスが登録されたデバイスの映像を録画する録画サービスリストを表示します。
- デバイスの種類: デバイスの種類を表示します。

録画プリセット

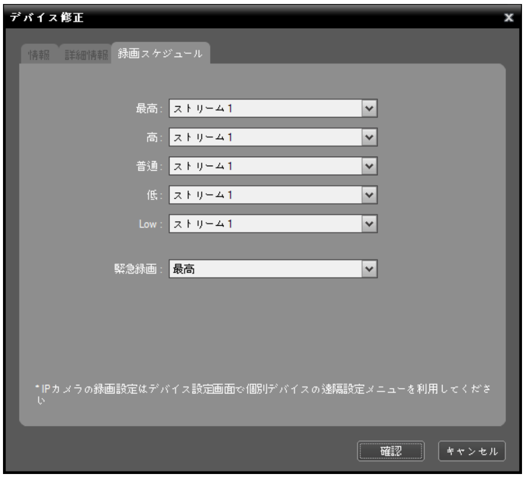


デバイスがネットワークビデオサーバーである場合のみ支援されます。

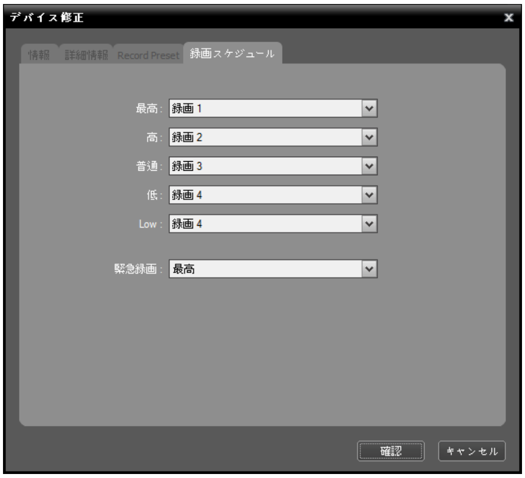
- コーデック、解像度、フレームレート、画質: 録画のための映像のコーデック、解像度、フレームレート及び画質を選択します。H.264コーデック設定時に4CIF解像度で映像を録画する場合、フレームレートが15ipsを超過することができません。

録画スケジュール

録画スケジュールの“動作”プリセット値を設定します(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。



デバイスがネットワークカメラである場合



デバイスがネットワークビデオエンコーダーである場合

- デバイスがネットワークカメラである場合: 各プリセットに録画する時使うストリームを割り当てます。
- デバイスがネットワークビデオエンコーダーである場合: 各プリセットに録画する時使う値を割り当てます。
- 緊急録画: 緊急録画する時使うプリセットを選択します。

デバイスを遠隔設定

デバイスメニューで“デバイスを遠隔設定”を選択して、遠隔でデバイスの設定が変更できます。一部の設定の場合、遠隔設定に対応しないこともあります。デバイスが一つ以上のプロトコルに対応する場合、使用中のプロトコルによってiNEXプログラムでの遠隔設定項目が異なることもあります。デバイス設定に関する詳しい内容は、該当デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。ONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの遠隔設定に関する詳しい内容は、本ユーザーマニュアルの“11.3 ONVIF™ Conformanceプロトコルデバイスの遠隔設定” (p. 89)部分を参照してください。

設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括に変更できます。支点パネル上段の (多重遠隔設定)ボタンをクリックすると以下のような設定窓が 現れます。

右側上段の ボタンをクリックしてから設定ファイルを選択します。選択した設定ファイルが適用可能なデバイスのリストが表れます。この機能はデバイスのモデルによって支援されない可能性があり、設定ファイルが適用可能なデバイスが登録されていても支援されないデバイスである場合、リストに表示されません。デバイスを選択してから下段の“適用”ボタンをクリックするとそのデバイスの設定を変更します。

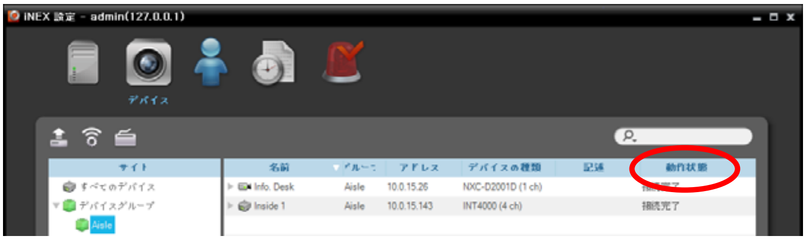
ファームウエアアップグレード

アップグレードファイルが準備された場合、デバイスメニューで“ファームウエアアップグレード”を選択し、遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

複数のデバイスのソフトウェアを一括にアップグレードすることができます。支点パネル上段の (多重ファームウェアアップグレード)ボタンをクリックすると以下のような設定窓が現れます(INEXプロトコルを使用するデバイスのみ支援)。

右側上段の ボタンをクリックしてからアップグレードファイルを選択します。デバイスがPC基板DVRである場合、"PC基板DVR"を選択してから ボタンをクリックします。選択したファイルでアップデートが可能なデバイスのリストが表示されます。"全てのデバイスを表示"を選択すると登録された全てのデバイスのリストが表示されます。デバイスを選択してから下段の"アップグレード"ボタンをクリックするとそのデバイスをアップグレード します。

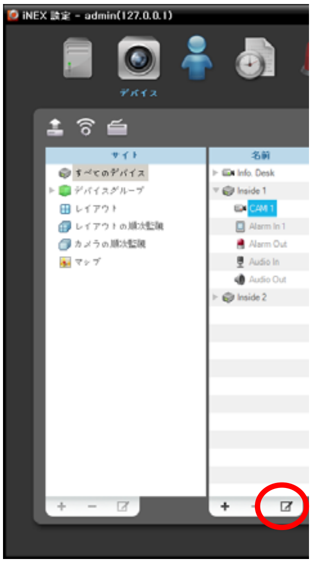
デバイスの状態確認



"サイト"パネルで"すべてのデバイス"を選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。"録画状態"項目に各デバイスの状態が表示されます("接続完了": 録画可能、"接続解除": 録画不可能)。デバイスの名前の横の矢印ボタン( )をクリックすると該当するデバイスでサポートする入力および出力のリストが表示され、各デバイスの状態を確認することができます("録画": タイムラプス録画またはイベントベース録画中、"緊急録画": 緊急録画中、"待機中": 録画待機中)。

入力 / 出力デバイス情報の修正

"サイト"パネルで"すべてのデバイス"を選択した後、サイトリストのパネルでデバイスの名前の横にある矢印ボタン( )をクリックします。該当するデバイスでサポートするビデオの入力、アラームの入力/出力及びオーディオの入力/出力のリストで、入力/出力デバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックして"デバイス修正"を選択します。"デバイス修正"画面が表示されます。



または

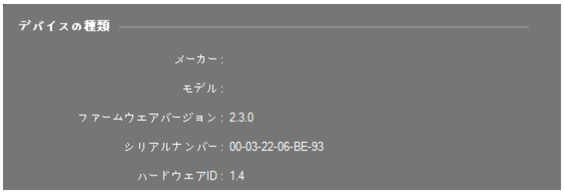
- デバイス名: 該当する入力/出力デバイスの名前を修正します。他の入力/出力デバイスと重複する名前が使えます。該当する入/出力デバイスが接続されたデバイス名が更新される時、自動的に更新されます。
- 連動されているオーディオチャンネル: 該当カメラと連動してオーディオを録音するには、オーディオチャンネルを選択します(入/出力デバイスがカメラである場合のみ支援)。そのカメラの映像が録画される場合選択されたオーディオチャンネルのオーディオが一緒に録音されます。
- 連動デバイス: 入/出力デバイスと連動してカメラ映像をイベントスポット画面に出力するためにはそのカメラチャネルを選択します(その入/出力デバイスがアラーム入力またはオーディオ入力デバイスの場合のみ支援)。アラームインまたはオーディオイベント感知時、選択したチャンネルの映像がイベントスポット画面に表示されます。

11.3 ONVIF™ Conformance プロトコルデバイスの遠隔設定

ONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、デバイスの遠隔設定での設定によってリアルタイム監視映像を表示したり映像を録画します。“サイト”パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックするとデバイスメニューが表示されます。“デバイスを遠隔設定”を選択すると、次のような設定画面が表示され、デバイスの設定を変更することができます。設定メニューと設定項目は、デバイスのモデルによって異なることがあります。

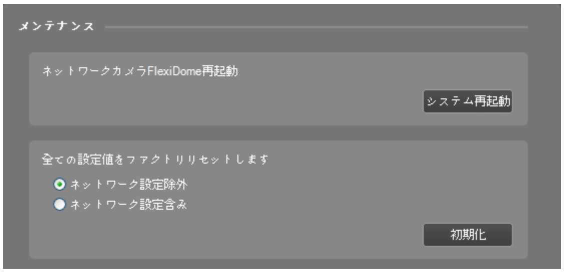
設定変更時に設定画面下段の“適用”ボタンをクリックすると、変更時項が適用されます。

情報



デバイス情報を表示します。

メンテナンス

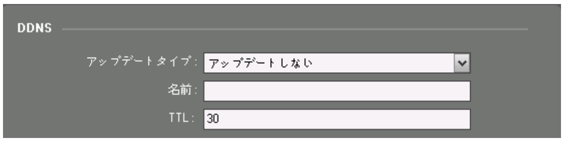


- システム再起動: ボタンをクリックすると、システムを再起動します。デバイスシステムの再起動時、iNEX遠隔設定が終了します。
- 初期化: システムの全ての設定値を工場出荷時の初期設定にリセットします。
  - ネットワーク設定除外: ネットワーク設定を除いた全ての設定値を初期化します。
  - ネットワーク設定含み: ネットワーク設定を含む全ての設定値を初期化します。ネットワーク設定を含む場合、iNEX遠隔設定が終了します。

TCP/IP

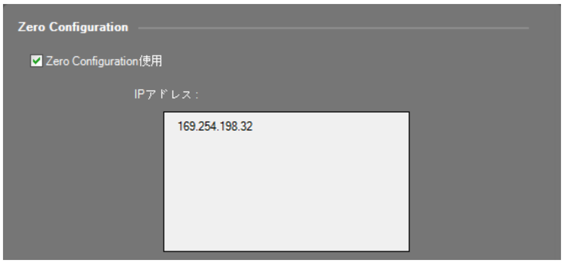
- IPアドレス設定: デバイスのIPアドレスを設定します。デバイスのネットワークの種類を選択します。
  - 手動: 固定IPを使って接続する場合に選択し、関連項目を手動で設定できます。
  - DHCP: “適用”ボタンをクリックすると、DHCPサーバから ネットワーク情報を自動で取得します。
- DNS設定 – 種類: DNSサーバーのネットワークの情報を設定します。
  - 手動: 関連項目を手動で設定できます。
  - DHCP: DHCPサーバからネットワーク情報を自動で取得します。“適用”ボタンをクリックすると、情報が更新され、更新された情報は次の接続時に表示されます。デバイスのIPアドレスを手動で設定する場合、この設定が支援されません。

DDNS



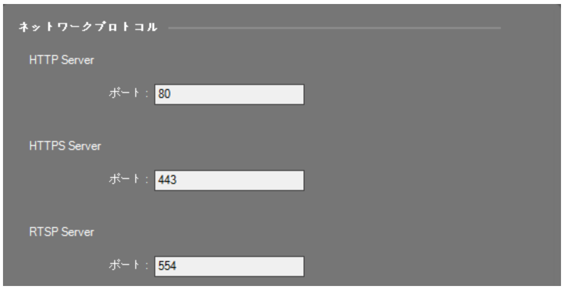
- アップデートタイプ: デバイスのIPアドレスが変更される場合、デバイスが登録されたNVRシステムのデバイスIPアドレス情報を自動的にアップデートします。
  - アップデートしない: デバイスのIPアドレス情報を自動的にアップデートしません。
  - デバイスアップデート、DHCPサーバーアップデート: デバイスまたはDHCPサーバーに登録されたデバイスIPアドレス情報をアップデートします。
- 名前: DNSの名前を設定します。
- TTL(Time to Live): DHCPサーバーをアップデートする周期を設定します。

Zero Configuration



- Zero Configuration使用: 現在のネットワークの状況に合ったIPアドレスをデバイスに自動的に割り当てます(該当機能に対応するデバイスにのみ該当)。

ネットワークプロトコル



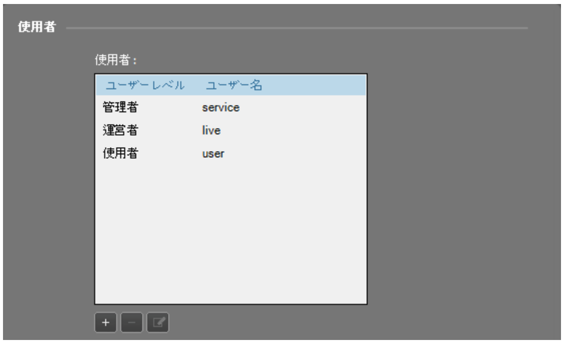
- ネットワークプロトコル: デバイスで使用するネットワークプロトコルのポート番号を変更します(デバイスに対応するプロトコルにのみ該当)。

✓ HTTPサーバー活性化のポートを変更する場合、設定画面が終了します。デバイスに再接続するためにはiNEXの“iNEX設定”プログラムでデバイスのHTTPポート番号を同じく修正しなければなりません。詳しい内容は、“11.2 デバイスの管理、デバイス修正、情報”(p. 85)部分を参照してください。

WS-Discovery

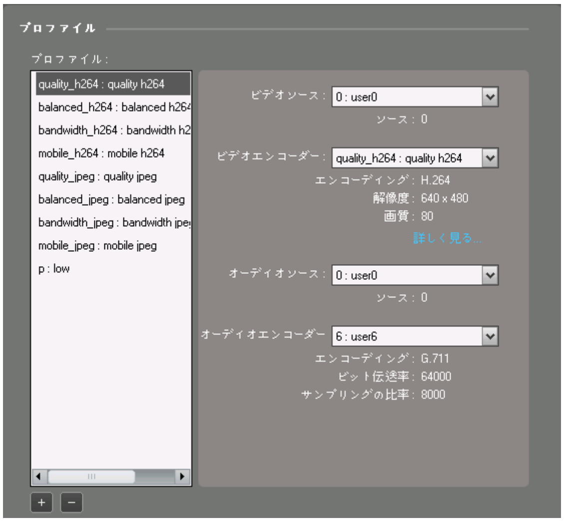
- 範囲の媒介変数: + ボタンをクリックしてWS-Discoveryの範囲の媒介変数を追加します。
- 探索モード: デバイスの探索が可能かどうかを設定します。"探索不可能"を選択すると、デバイス登録時にONVIF^{TM} Conformanceプロトコルを使用するデバイスに対して自動検索機能が対応しません。

ユーザー



ユーザーを追加したり修正または削除します。+ ボタンをクリックすると、ユーザーが追加できます。

プロファイル



次の順序に従ってプロファイルを設定します。

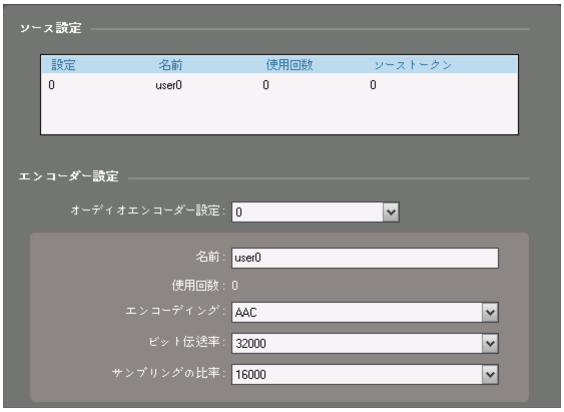
プロファイルリストでプロファイルを選択します。+ ボタンをクリックすると、新しいプロファイルを追加できます。→ メディアを設定します。メディアの設定に関する詳しい内容は、以下の説明を参照してください。→ 設定画面下段の"適用"ボタンをクリックします。→ プロファイル設定が適用され、NVRシステムは選択したプロファイルの設定によって、リアルタイム監視映像を表示したり映像を録画します。

- ビデオソース: デバイスに対応するビデオソースリストで好きなビデオソースを選択します。
- ビデオエンコーダー: ビデオエンコーダーの設定を選択します。"詳しく見る"ボタンをクリックすると、選択したビデオエンコーダー設定の設定値が確認できます。ビデオエンコーダーの設定に関する詳しい内容は、"ビデオ"(p. 93)部分を参照してください。
- オーディオソース: デバイスに対応するオーディオソースリストで好きなオーディオソースを選択します。"無し"を選択すると、該当デバイスのオーディオ監視及び録画に対応しません。
- オーディオエンコーダー: オーディオエンコーダーの設定を選択します。"詳しく見る"ボタンをクリックすると、選択したオーディオエンコーダー設定の設定値が確認できます。オーディオエンコーダーの設定に関する詳しい内容は、"オーディオ"(p. 93)部分を参照してください。
- PTZ: PTZ設定を選択します。"無し"を選択すると、該当デバイスのPTZ制御に対応しません。

ビデオ

- ソース設定: ソース設定情報を表示します(設定: ビデオソース、名前: ソース名、使用回数: 該当ソースを使用するプロファイルの個数、ソーストークン: ソーストークンの個数)。
- エンコーダー設定: エンコーダーを設定します。
  - ビデオエンコーダー設定: デバイスに対応するビデオエンコーダーのうち設定するエンコーダーを選択します。
  - 名前: 選択したビデオエンコーダーの名前を指定します。
  - 使用回数: 選択したビデオエンコーダーを使用するプロファイルの個数を表示します。
  - エンコーディング、解像度、画質: 映像の圧縮コデック、解像度及び画質を設定します。デバイスがネットワークビデオエンコーダーである場合、H.264コデック設定時に録画速度が15 ipsを超えることはできません。
  - フレーム伝送率制限: 最大伝送速度を設定します。
  - エンコーディング周期: エンコーディングの周期を設定します。値が大きいほどビット伝送率及び画質が低下します。
  - ビット伝送率制限: 最大ビット伝送率を設定します。ビット伝送率を制限することにより、ネットワークトラフィックの状況によってネットワーク帯域幅を制御できます。

オーディオ



- ソース設定: ソースの設定情報を表示します(設定: オーディオソース、名前: ソース名、使用回数: 該当ソースを使用するプロファイルの個数、ソーストークン: ソーストークンの個数)。
- エンコーダー設定: エンコーダーを設定します。
  - オーディオエンコーダー設定: デバイスに対応するオーディオエンコーダーのうち設定するエンコーダーを選択します。
  - 名前: 選択したオーディオエンコーダーの名前を指定します。
  - 使用回数: 選択したオーディオエンコーダーを使用するプロファイルの個数を表示します。
  - エンコーディング: オーディオの圧縮コデックを設定します。
  - ビット伝送率: ビット伝送率を設定します。
  - サンプリングの比率: サンプリングの比率を設定します。値が大きいほど音質はよくなりますが、データ量が大きくなります。

I/O

- モード: 入/出力デバイスのリレーモードを設定します。
  - Monostable: 遊休状態を設定した後、遅延時間が過ぎるとリレーが元の遊休状態にリセットされます。
  - Bistable: 遊休状態を設定すると、その状態を維持します。
- 遅延時間: Monostableモードでリレーが遊休状態にリセットされるまで遅延する時間を設定します。
- 遊休状態: リレー出力の物理的遊休状態が設定できます。
  - オープン: リレー状態が“InActive”に設定されるとリレーが開き、“Active”に設定されると閉まることを意味します。

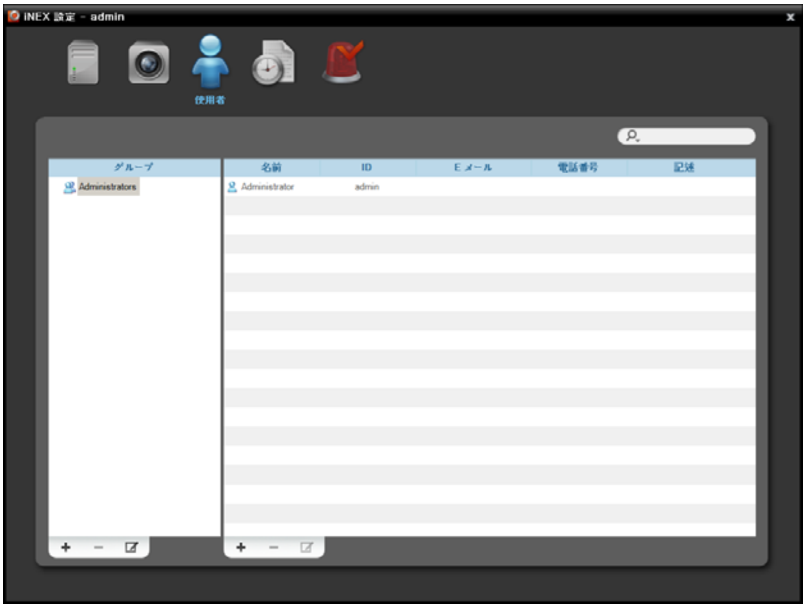
- クローズ: リレー状態が“InActive”に設定されるとリレーが閉まり、“Active”に設定されると開くことを意味します。
- アクション: リレー状態を制御します。
  - Active: ボタンをクリックすると、リレーが“Active”状態になります。
  - InActive: ボタンをクリックすると、リレーが“InActive”状態になります。

PTZ

- PTZノード: ノード設定情報を表示します(ノード: PTZノード、名前: ソース名、最大プリセット: プリセットの最大個数、Home対応: Home機能対応の有無)。
- PTZ設定: PTZを設定します。
  - PTZ設定: デバイスに対応するPTZのうち設定するPTZを選択します。
  - 名前: 選択したPTZの名前を指定します。
  - 使用回数: 選択したPTZを使用するプロファイルの個数を表示します。
  - ノード: PTZノードを設定します。PTZノードとは、機械的なPTZドライバー、アップロードされたPTZドライバー、デジタルPTZドライバーを全て含みます。
  - 絶対的なファン/チルトの位置: 特定位置に移動する際の移動方法を設定します。該当位置に移動できない場合、動作しません。
  - 絶対的なズームの位置: 特定位置を拡大する際の拡大方法を設定します。該当位置を拡大できない場合、動作しません。
  - 相対的なファン/チルトの変換: 現在の位置を基準として、特定方向に移動する際の移動方法を設定します。
  - 相対的なズーム変換: 現在の位置を基準として、特定方向を拡大する際の拡大方法を設定します。
  - 持続的なファン/チルトの速力: 特定方向に移動しますが、指定された速度で移動を続ける際の移動方法を設定します。
  - 持続的なズームの速力: 特定方向を拡大しますが、指定された速度で拡大を続ける際の拡大方法を設定します。
  - ファン/チルトの速度: 特定位置または方向に移動する際の速度を設定します。
  - ズームの速度: 特定位置または方向を拡大する際の速度を設定します。
  - PTZタイムアウト: PTZ動作が続く場合、PTZ動作の持続時間を設定します。動作が始まった後設定した時間が過ぎると動作が自動的に中止されます。

第 12 章 — ユーザー管理

iNEXプログラムの各機能に対する権限をユーザーによって互いに異なるように設定することができます。ただし、“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を有しており、修正することができません。“iNEX設定”プログラムを実行します。→ “ユーザー(使用者)”メニューを選択します。



1. ユーザーグループパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“ユーザーグループの追加”画面が表示されます。

- 情報のタブ: ユーザーグループの名前を入力します。
- デバイスへのアクセス権現タブ: 各デバイスに対するアクセス権限を付与したり制限します。
- 権限のタブ: 各機能に対する権限を与えたり、制限します。

- IP接近制限タブ: 特定IPアドレスの使用者に接続権限を付与、または制限することができます。

"確認"ボタンをクリックすると、該当するユーザーグループが追加されます。

2. ユーザーグループパネルで追加されたユーザーグループをクリックした後、ユーザーパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。"新しいユーザー"画面が表示されます。

- 名前: ユーザーの名前を入力します。
- ID、パスワード、パスワードの確認: iNEXプログラムを実行するための固有のユーザーID及びパスワード(空白なしで8桁~16桁)を入力します。
- ☑ パスワード使用しない: iNEXプログラムを実行する時、パスワードなしでログインできます。
- ☑ パスワード有効期間設定: パスワードの有効期間を設定します。有効期間が過ぎるとログインする時これをお知らせします。
- モニターリンググループ: イベント通報時、通報されたイベントを受けたユーザーを表示します。"修正" ボタンをクリックするとユーザーを修正することができます。イベント伝送に関する詳しい内容は、"14.2 イベント管理、イベント確認" (p. 106)部分を参照してください。
- Eメール: イベント感知をEメールで通知するには、Eメールアドレス入力します。Eメールアドレスには、"@"が必ず含まれていなければなりません。イベント感知のEメール通知に関する詳しい内容は、"第 14 章 — イベント管理" (p. 99)部分を参照してください。
- 電話番号、記述: 電話番号及び記述を入力します。電話番号には数字と"-"のみ入力できます。

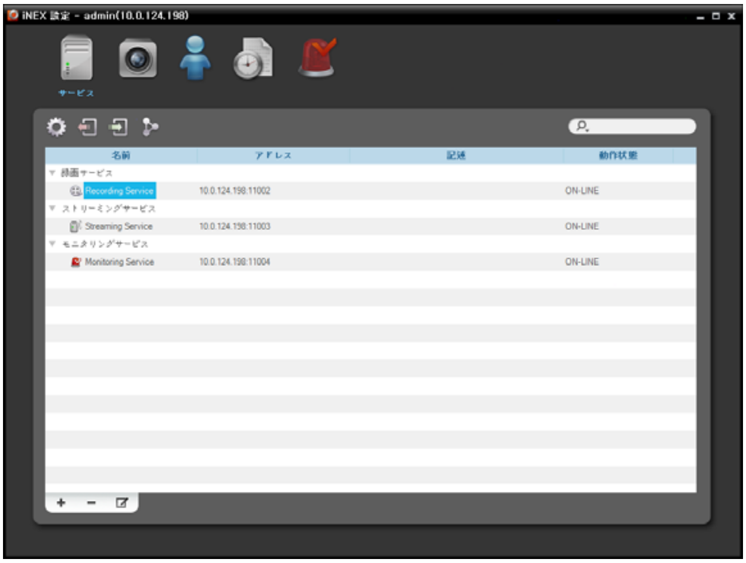
"確認"ボタンをクリックします。

3. 登録されたユーザーグループまたはユーザーを選択した後、☑ ボタンをクリックしてユーザーグループまたはユーザー情報を変更することができます。

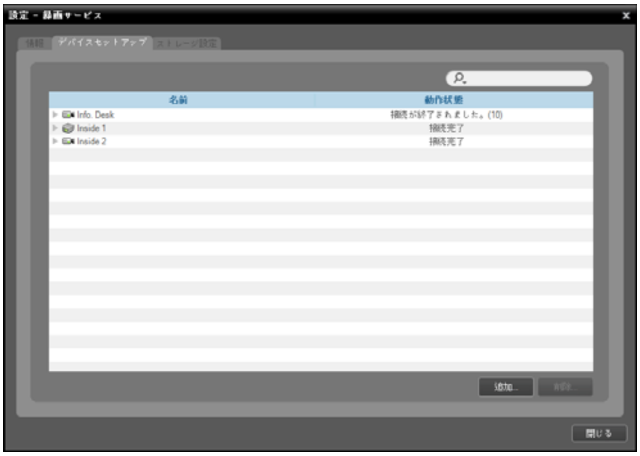
第 13 章 — ストレージ管理

録画のためのストレージを管理することができます。"iNEX設定"プログラムを実行します。

- ✓ USBハードディスクドライブ、ネットワークハードディスクドライブ及び"動的"に設定されたハードディスクドライブは保存空間として使用することができません。
- ✓ 録画映像があるハードディスクドライブを他のNVRシステムまたはiNEXシステムに設置する場合、該当する録画映像の検索及び再生はサポートしません。
- ✓ 1つのNVRシステムで最大50,000GBのストレージを使用すてることができます。
- ✓ C:\ ドライブは保存空間で使用されません。
- ✓ システム起動時C:\ドライブを除いた全てのHDDに保存空間が自動で割り当てられます。



1. 録画サーバーを選択した後、下段にある ボタンをクリックします。"設定 – 録画サービス"画面が表示されたら"デバイスセットアップ"タブを選択します。



現在の録画サービスに登録されているカメラのリストが表示されます。下段の"追加"ボタンをクリックすると、現在の録画サービスに別のカメラが登録できます。デバイスを選択した後"削除"ボタンをクリックすると、現在の録画サービスから該当デバイスが削除されます。

- ✓ 登録されたデバイスに対して録画が行われた後、録画サービスから該当デバイスを削除すると、該当デバイスを再度登録しても以前の録画映像は検索または再生できません。
- ✓ デバイスがDVRの場合、録画には対応しません。

2. "ストレージ設定"タブを選択した後、下段にある"設定"ボタンをクリックします。

- すべての録画データを削除: 現在NVRシステムで使用しているすべてのハードディスクドライブの録画データをすべて削除します。
- 録画データ部分削除: 各デバイスで特定区間の録画映像を削除することができます。削除が進行する間は録画が中止されます。
- 異常な録画のタイムテーブルを復元: NVRシステムとデバイスのネットワーク接続が遅過ぎたり、NVRシステムのハードディスクドライブが傷ついている場合、録画データと録画データのタイムテーブル情報が一致しないことがあり、このため"iNEXクライアント"プログラムのタイムテーブルが誤った情報を表示することがあります。この場合、ボタンをクリックすると、タイムテーブル情報を復元し、正しい録画データを表示することができます。
- ディスクの容量が一杯になった場合、録画されているデータの上書きを使用: 割り当てられたストレージが一杯になった場合、古いデータから削除され、新しいデータが録画されます。

⚠ **削除されたデータは復元することができません。**

第 14 章 — イベント管理

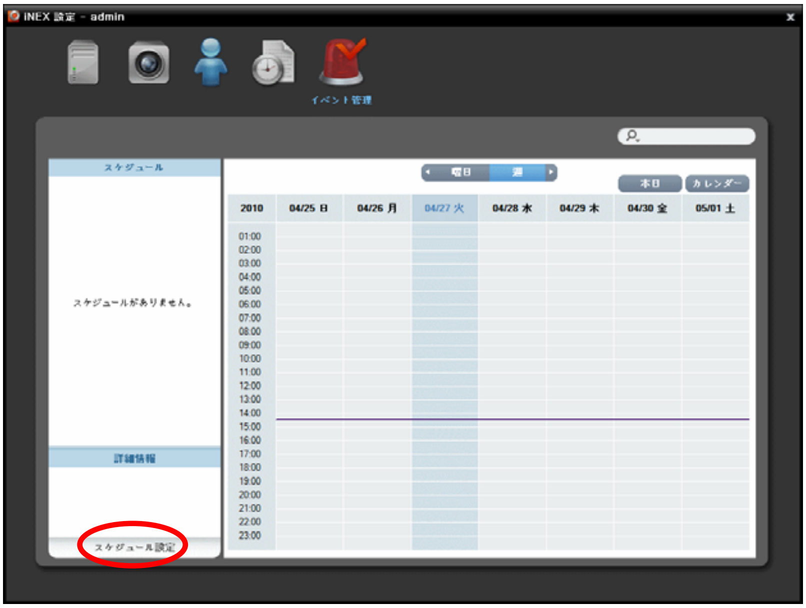
設定されたイベント管理スケジュールによって、クライアントシステムに通知されたイベント感知を管理することができ、クライアントシステムでイベント感知映像を監視または再生することができます。デバイスが使用するプロトコルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)。

14.1 イベント管理スケジュール 設定

先ず次の内容を確認した後、"iNEX設定"プログラムを実行します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、"第 11 章 — デバイス管理" (p. 81) 部分を参照してください。

"iNEX設定"プログラムを実行します。→ "イベント管理"メニューを選択した後、次の説明を参照してイベント管理スケジュールを設定します。



下段にある"センサー設定"ボタンをクリックします。"センサー設定"画面が表示され、各スケジュール画面に該当プリセットの現在設定値が表示されます。

→

- 時間範囲: スケジュールの時間を設定します。二つ以上の時間範囲を設定することがきます。
- 条件: イベント条件を設定します。同一の時間範囲に対して二つ以上のイベント条件を設定することがきます。
- アクション: イベントアクションを設定します。同一のイベント条件に対して一以上のアクションを設定することができます。
- 対象: イベントを管理する使用者を選択します。
- Eメール設定: Eメール転送のためのSMTPサーバーの情報を設定します。本設定は"動作"プリセット設定時に"Eメール通知"動作を設定した場合にのみ動作します。

✓ スケジュールの設定で"プリセット"とは時間範囲、条件またはアクションの設定値を1つの設定値にしたものを言います。

タイムラプス録画の時には、スケジュールが設定された時間の間、スケジュール設定によって引き続き録画を行います。

1. "時間範囲"スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するプリセットを選択してスケジュールの時間を設定します。

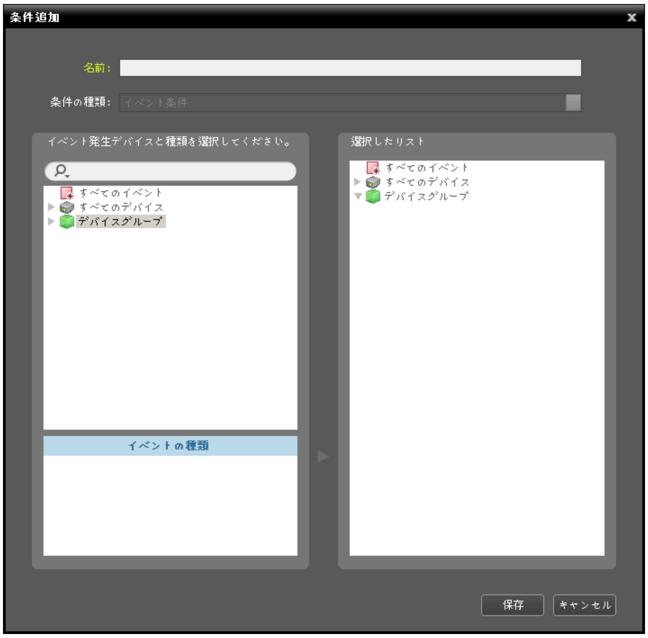
→

"追加"または"修正"ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり保存されたプリセットを修正することができます。スケジュールの設定に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

- 名前: プリセットの名前を入力します。
- 色彩: ボタンをクリックして希望する色を選択します。スケジュールテーブルでスケジュールが設定された時間区間が該当する色で表示されます。
- 期限: スケジュールの時間を設定します。“続く”を選択すると期間制限なく“条件”、“アクション”、“対象”のプリセット設定によって録画を続けます。
- 連続録画: スケジュール時間を設定します。
- 繰り返す、反復周期: 間隔及び該当間隔が適用される期間を設定します。設定した反復周期の間、設定した間隔で指定された使用者にイベントを通知します。

2. “条件”スケジュール画面をダブルクリックした後、条件のプリセットを選択して、イベント条件を設定します。

“追加”または“修正”ボタンをクリックして新しいプリセットを追加したり、保存されたプリセットを修正することができます。“追加”または“修正”ボタンをクリックすると、次の設定画面が表示されます。



- 名前: プリセットの名前を入力します。
- イベント発生デバイスと種類を選択してください: 通知するイベントの種類を選択します。

- すべてのイベント: 指定したイベントが感知されるとイベントを通知します。

  “すべてのイベント”をクリックすると、下段にイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると右側にある“すべてのイベント”リストの下に選択したイベントが追加されます。

- すべてのデバイス: 指定したデバイスまたはカメラで指定したイベントが感知されるとイベントを通知します。

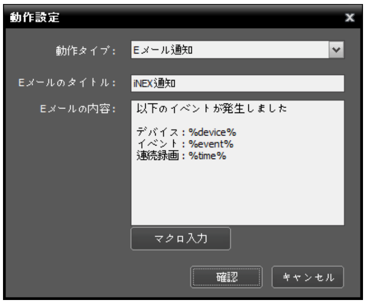
  “すべてのデバイス”をダブルクリックすると、登録されたデバイスまたはカメラのリストが表示されます。→ “すべてのデバイス”でイベントを感知するデバイスまたはカメラをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストに該当するデバイスまたはカメラでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“すべてのデバイス”リストの下に選択したデバイスまたはカメラと選択したイベントが追加されます。

- デバイスグループ: 指定したデバイスグループで指定したイベントが感知されるとイベントを通知します。

  “デバイスグループ”をダブルクリックすると、登録されたデバイスグループが表示されます。→ “デバイスグループ”でイベントを感知するデバイスグループをクリックすると、下段の“イベントの種類”リストで該当するデバイスグループでサポートするイベントの種類が表示されます。→ 希望するイベントの種類を選択すると、右側にある“デバイスグループ”リストの下に選択したデバイスグループと選択したイベントが追加されます。

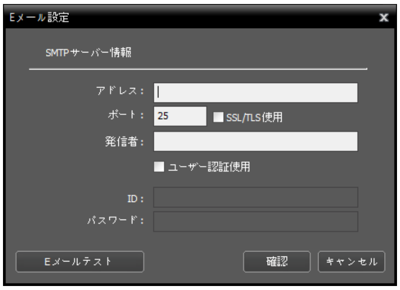
3. “アクション”スケジュール画面をダブルクリックした後、希望するアクションを選択して、イベントアクションを設定します。

- Eメール通知: イベント条件設定によってイベント感知時にクライアントユーザーにEメールを転送します。



- Eメールのタイトル: Eメールのタイトルを入力します。
- Eメールの内容: Eメールの内容を入力します。“マクロ入力”ボタンをクリックすると使用可能なマクロのリストが表示され、好きなマクロを選択するとEメール転送時に該当マクロが適用されます。

本機能が正しく動作するためには、Eメール転送のためのSMTPサーバー情報及びクライアントユーザーのEメールアドレスが入力されていなければなりません。“スケジュール設定”画面の下段にある“Eメール設定”ボタンをクリックした後、次のようにSMTPサーバー情報を入力してください。Eメールを受け取るユーザーのEメールアドレスの入力に関する詳しい内容は、“第 12 章 — ユーザー管理” (p. 95)部分を参照してください。



- アドレス、ポート: SMTPサーバーのEメールアドレス及びポート番号を入力します。SSL接続の必要なSMTPサーバーを使用する場合、“SSL/TLS使用”オプションを選択します。
- 発信者: Eメール発信アドレスを入力します。
- ユーザー認証使用: SMTPサーバーにユーザー認証が必要な場合、ユーザーIDとパスワードを入力します。

- ライブポップアップ: イベント条件設定によってイベント感知時にイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像(最大36個)のポップアップ画面がクライアントシステムに表示されます。“14.2 イベント管理、ライブポップアップ” (p. 105)部分を参照してください。

- 持続時間: ポップアップ画面が表示される時間を入力します。
- ポップアップカメラを選択して下さい: ポップアップ画面を表示するカメラ(最大4個)を選択します。“イベントが発生したカメラ”オプションを選択すると、イベント(アラームインまたはオーディオ感知イベントを除く)が感知されたカメラの映像のみポップアップします。

- イベント確認: イベント条件設定によってイベント感知時に“iNEXクライアント”プログラムにイベントログを表示します。“14.2 イベント管理、イベント確認” (p. 106)部分を参照してください。

- メッセージ: “iNEXクライアント”プログラムに表示するメッセージを入力します。
- 優先順番: イベントの優先順番を選択します。イベントログに優先順番が一緒に表示されます。

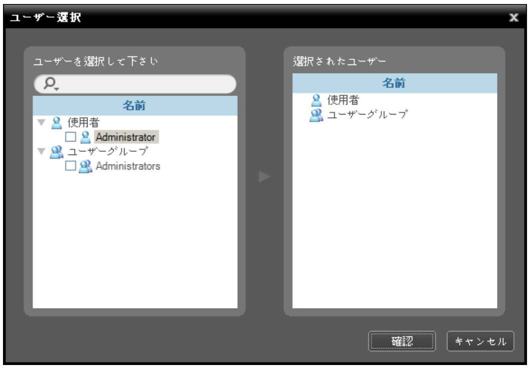
- PTZ移動: イベント条件設定によってイベント感知時PTZカメラをプリセット位置に移動させます(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

- PTZカメラを選択してください: 移動するカメラを選択します。この機能はPTZカメラのみ対応します。
- 選択されたPTZカメラ: 選択されたカメラを表示し、カメラが移動するプリセット位置を選択することができます。プリセット位置設定に関する内容は、“4.3 カメラの制御、PTZ制御、PTZプリセット制御” (p. 47)部分を参照してください。

- アラーム出力: イベント条件設定によってイベント感知時アラーム出力を動作させます(iNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応)。

– 持続時間: アラーム出力を維持する時間を入力します。
– アラームアウトのデバイスを選択してください: 動作させるアラーム出力デバイスを選択します。

4. “対象”スケジュール画面をダブルクリックした後、イベントの通知を受け取るユーザーを設定します。



スケジュールの管理

新しいスケジュールの追加

- 時間範囲が異なる新しいスケジュールを追加する場合: “時間範囲”スケジュール画面の左上段にある ボタンをクリックして完全に新しいスケジュールを追加することができます。

- 同じ時間範囲の新しいスケジュールを追加する場合: “条件”スケジュール画面の左上段にある ボタンをクリックして同じ時間範囲に新しいスケジュールを追加することができます。

- 同じ時間範囲および条件の新しいスケジュールを追加する場合: “アクション”スケジュール画面の左上段にある ボタンをクリックして同じ時間範囲および条件に新しいスケジュールを追加することができます。

スケジュールの削除

各スケジュール画面の右上段にある ボタンをクリックすると、該当スケジュールを削除します。

スケジュールの位置の変更

各スケジュール画面の左上段にある または ボタンをクリックしてスケジュールの位置を変更することができます。スケジュール間で優先順番はなく、すべてのスケジュールを実行します。

14.2 イベント管理

イベント管理スケジュールによって、イベント通知時に該当イベント映像をリアルタイムで監視したり再生することができます。

先ず次の内容を確認した後、“iNEXクライアント”プログラムを実行します。

- デバイスグループにデバイスが追加されていなければなりません。詳しい内容は、“第 11 章 — デバイス管理” (p. 81)部分を参照してください。
- イベント管理スケジュールが設定されていなければなりません。詳しい内容は、“14.1 イベント管理スケジュール 設定” (p. 99)部分を参照してください。

ライブポップアップ

イベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が監視できます。イベント感知時にイベント管理スケジュール(“アクション”スケジュール画面: “ライブポップアップ”アクション)によってポップアップ画面が表示されます。ライブポップアップリストにはクライアントシステムで表示されたライブポップ画面のリストが表示されます。

ポップアップ画面

画面を選択した後、マウスのカーソルを該当画面にあてるとコントロールツールバーが表示されます。コントロールツールバーを利用して該当カメラをコントロールすることができます。マウスのカーソルを各ボタンの上にあてると該当ボタンのツールチップが表示されます。コントロールツールバーボタンに関する詳しい内容は、"4.3 カメラの制御、制御ツールバー" (p. 46)部分を参照してください。

ポップアップ画面でマウスを右クリックすると、ポップアップ画面のメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面設定を変更することや該当カメラをコントロールすることができます。カメラコントロールメニューの場合、監視画面メニューの機能と同一です。詳しい内容は、"4.3 カメラの制御、監視画面のメニュー" (p. 46)部分を参照してください。

ライブポップアップリスト

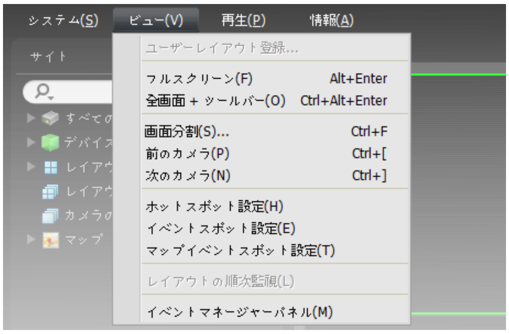
右上にある矢印ボタンをクリックすると、ライブポップアップメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面の設定を変更することができます。

- レイアウト: ポップアップ画面の画面分割を選択します。
- モニター: デュアルモニターを使用する場合、ポップアップ画面を出力するモニターを選択します。
- ライブポップアップ無視: 時間を選択すれば、イベント管理スケジュール("動作"スケジュール → "ライブポップアップ"動作)の設定と関係なく、選択した時間中にはライブポップアップが動作しません。
- タイムアウト解除: 設定されたポップアップ画面の持続時間に関係なく、ポップアップ画面を手動で閉じるときに選択します。
- すべて削除: すべてのリストを削除します。

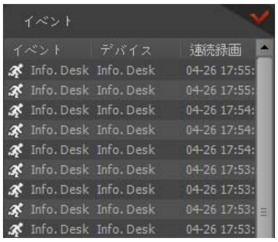
イベント確認

イベント感知時にイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が監視でき、該当イベント感知映像が録画されていれば映像を再生することができます。イベント管理スケジュール("アクション"スケジュール画面: "イベント確認"アクションで設定)によってイベント感知時に"イベント管理"パネルが自動的に表示されるか、次のように手動でイベントマネージャーパネルを表示させることができます。

"ビュー"メニューに移動した後、"イベントマネージャーパネル"をクリックします。または、最近のイベントリストで ボタンをクリックします。



または



イベントマネージャーパネルが表示されます。

設定されたイベント管理スケジュールによってクライアントシステムに通知されたイベントのリストが表示されます。

- 自動ポップアップ ☑: クライアントシステムにイベントを通知する際、自動的にイベントマネージャーパネルが表示されます。
- 新しいイベント: クライアントシステムに通知されたイベントのうち、まだ確認されていないイベントを表示します。
  - (イベント確認): リストで選択したイベントを確認します。確認されたイベントは"確認したイベント"リストに移動します。
  - (イベント発送): 全ての使用者または"ユーザー"の設定時に"モニターリンググループ"で指定した使用者にイベントを発送します(但し、現在クライアントシステムに接続中の使用者に限る)。"モニターリンググループ"設定に関する詳しい内容は、"第 12 章 — ユーザー管理" (p. 95)部分を参照してください。
  - (再生): 選択したイベント感知映像が録画されていれば映像を再生します。
- 確認したイベント: クライアントシステムで確認したイベントを表示します。

ログ検索

イベントマネージャーパネルに表示されたイベントのログが検索できます。ログ検索は、イベント履歴でサポートします。パネルタブにイベント履歴タブがない場合、"システム"メニューで"新しいタブ"を選択した後、"イベント履歴"をクリックしてタブを追加します。

ログリストが表示されます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。

イベント履歴のツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のログを検索することができます。

- スタート時、終了時刻: 検索するログの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“スタート時”と“終了時刻”の時間間隔をその間隔に調整します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると最初に発生したログから最後に発生したログまで検索します。
- (条件): 検索するログの種類を選択します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (全体画面): イベント管理パネルを全体画面で表示します。
- (プリセット適用): 現在システムに保存されたコラム分類を適用します。
- (プリセット保存): 現在のコラム分類を現在システムに保存します。
- (検索): 検索条件によって検索を開始します。
- (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)またはCSVファイル(.csv)で保存します。
- (プリント): 検索結果をプリントします。
- もっと見る: 次の結果を表示します。

第 15 章 — マップエディター

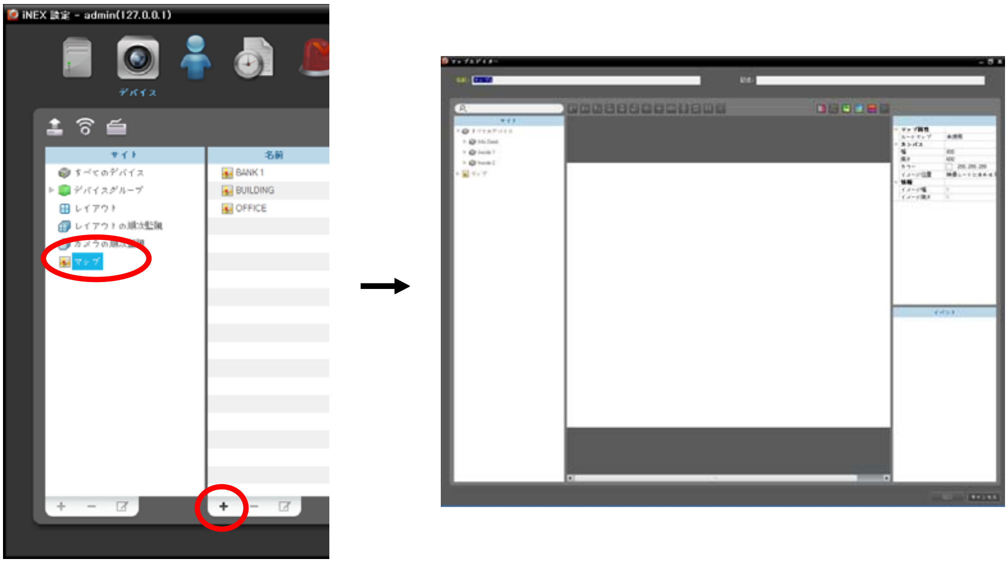
マップを登録してクライアントシステムでカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。

✓ この機能はiNEXプロトコルを使用するデバイスの場合にのみ対応されます。ただし、映像監視の場合“Axis”または“ONVIF Conformance”のプロトコルを使うデバイスに対しても支援されます。

15.1 マップの登録

1. “iNEX設定”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。

2. “サイト”パネルで“マップの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある ✚ ボタンをクリックします。“マップエディター”画面が表示されます。

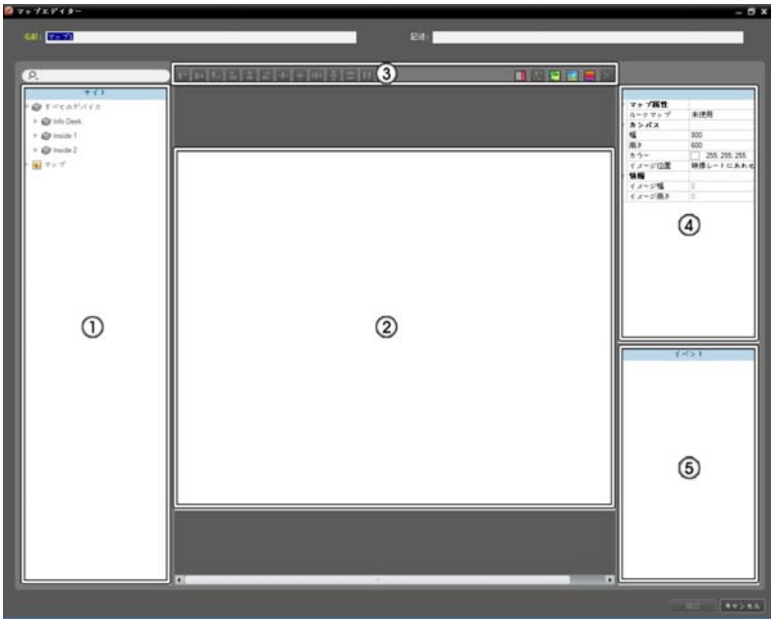


3. “サイト” パネルでデバイスに接続された入/出力デバイスおよび下位マップを選択してからカンバスでご希望の所にマウスをドラック&ドロップします。

4. マップを設定します。詳しい内容は、“15.2 マップ設定” (p. 110)部分を参照してください。

5. マップ名を入力してから“確認”ボタンをクリックしてマップの登録を終了します。

15.2 マップ設定



① サイト: 登録されたデバイス及びマップリストを表示します。 ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイス及びマップを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。

② カンバス: マップの背景イメージを挿入してからサイトリストで希望の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを配置してマップを構成します。

③ 設定ボタン: マップを設定します。
- 整列: カンバスに配置された入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを使用者が好みで整列します。
- (テキストボックス): テキストを入力できるテキストボックスを挿入します。
- (経路順次監視): 順次監視経路を設定します。詳しい内容は、“経路順次監視” (p. 112)部分を参照してください。
- (マップオブジェクト名の同期化): デバイスの設定によって入/出力デバイスの名前を同期化します。
- (背景イメージ投入): カンバスに希望の背景イメージを入れます。
- (状態カラー): マップにイベント感知および入/出力デバイスの状態を固有の色で表示するように設定することができます。
- (削除): カンバスで入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを選択してからボタンをクリックボタンをクリックすると選択した入/出力デバイスアイコンまたはマップリンクをカンバスで削除します。

④ 属性: マップ、マップのカンバスまたはカンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を 設定します。

⑤ イベント動作: カンバスに配置された入/出力デバイスアイコンのイベント動作を設定します。マップ監視時イベントが発生すると設定した通りにイベント発生を通知します。

アイコンの整列

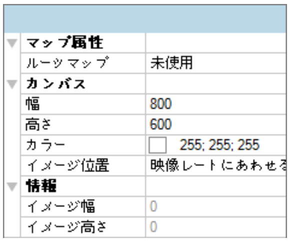
1つ以上の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを選択してから整列ボタンをクリックしてカンバスでの配置および大きさを一括に修正することができます。

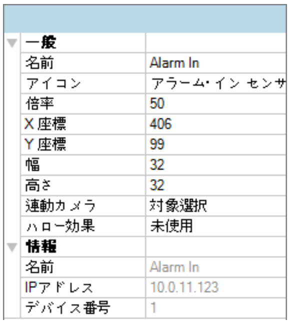
- / (位置調節): 1つ以上のアイコンに対して選択したアイコンを背景イメージの縦/横の中央整列します。
- / 、 / 、 / (位置調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したすべてのアイコンを一番後で選択したアイコンを基準に上段/下段、縦/横の中央または左/右に整列します。

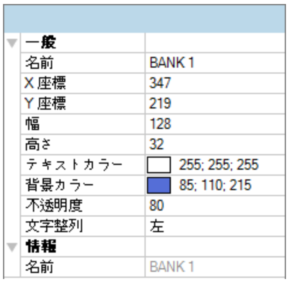
- / (間隔調節): 3つ以上のアイコンに対して選択したデバイスの間をすべて同じく整列します。
- / / (大きさ調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したアイコンの幅/高さ/大きさをすべて同じく調節します(幅および高さの比率が異なる同じアイコンのみ該当)。

属性

カンバスまたはカンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定することができます。カンバスまたはアイコン、マップリンクを選択してから属性の各項目を選択して希望の値を直接入力したりドロップダウンメニューで希望の値を選択します。



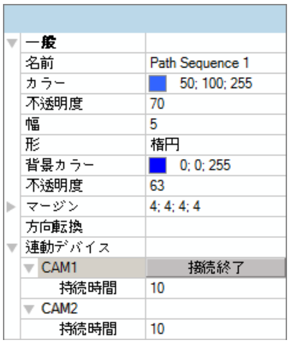




- マップ属性: マップの属性を設定します。
  - ルーツマップ: “使用”に設定するとマップ監視する時、マップパネルの右側にマップに登録されたデバイスのリストを表示します(マップパネルである場合のみ該当)。
- カンバス: カンバスおよびカンバスに入れた背景イメージの属性を設定します。
  - 幅、高さ、カラー: カンバスの幅、高さ、カラーを選択します。
  - イメージ 位置: カンバスに入れた背景 イメージの位置を設定します。
  - 情報: カンバスに入れた背景のイメージの幅および高さの情報を表示します。
- デバイス: 選択した入/出力デバイス アイコンの属性を設定します。
  - 名前: デバイス アイコンの名前を設定します。
  - アイコン、倍率: デバイス アイコンの模様および倍率を設定します。
  - X座標/ Y座標、幅/高さ: デバイス アイコンの位置および大きさを設定します。カンバスでアイコンをマウスのドラック&ドロップして設定することもできます。
  - 連動 カメラ: デバイスにカメラを連動することができます(アラームインまたはオーディオ入力のデバイスである場合のみ支援)。カメラを連動するとそのイベント感知時連動したカメラの映像を監視することができます。
  - ハロー効果: アイコンの背景にカラーを設定してマップでそのデバイスを簡単に探せます。
  - 情報: デバイスの情報を表示します。
- マップリンク: 選択したマップリンクの属性を設定します。
  - 名前: マップリンクの名前を設定します。設定した名前がマップリンクに表示されます。
  - X座標/ Y座標、幅/高さ: マップリンクの位置および大きさを設定します。カンバスでマップリンクをマウス のドラック&ドロップして設定することもできます。
  - テキストカラー、背景 カラー: マップリンクのテキストカラーおよび背景カラーを設定します。
  - 不透明度: マップリンクの背景カラーの不透明度を設定します。
  - 文字整列: マップリンクの文字を整列します。
  - 情報: マップの名前を表示します。
- テキストボックス: 選択したテキストボックスの属性を設定します。
  - テキスト: テキストを設定します。設定したテキストがマップに表示されます。
  - フォント、フォントサイズ: フォント、フォントサイズを設定します。
  - テキストカラー、背景カラー: テキストのテキストカラーおよびテキストボックスの背景カラーを設定します。
  - 文字整列: テキストを整列します。
  - 太字、イタリック、下線、取り消し線: テキストを 太字にすることや、イタリック体、下線、取り消し線を設定ます。
  - X座標/ Y座標、幅/高さ: テキストボックスの位置および大きさを設定します。カンバスでテキストボックスをマウス のドラック&ドロップして設定することもできます。

経路順次監視

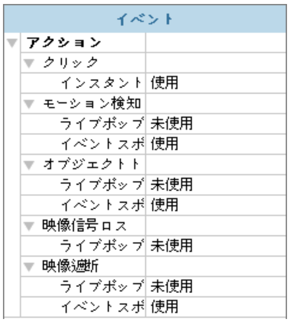
順次監視経路を設定してマップ監視する時、多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、キャンバスで各カメラに順次監視経路が設定されてある必要があります((経路順次監視)ボタンクリック → キャンバスで各カメラアイコンを監視しようとする順番でクリック → マウス右側ボタンをクリックして設定終了)。経路設定が終わったら経路を選択してから経路の属性を設定します。



- 名前: 経路の名前を設定します。
- カラー/不透明度/幅: マップに表示される経路のカラー/不透明度/幅を設定します。
- 形: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、そのカメラを区別するための標識アイコンの形を設定します。
- 背景カラー/不透明度/幅: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、標識アイコンのカラー/不透明度/幅を設定します。
- 方向転換: 経路の方向を転換します。
- 連動デバイス: 経路順次監視が設定されたカメラのリストを表示します。マップ監視する時、リストの順番で設定された"持続時間"間、順次監視を行います。リストでカメラを選択してから"解除"をクリックするとそのカメラを経路順次監視で削除します。

イベント動作

カンバスに配置された入/出力デバイスについてはイベント感知時行う動作を設定することができます。アイコンを選択してから項目を選択し、ドロップダウンメニューで希望の値を選択します。



- クリック: マップでデバイス アイコン クリップ する時インスタントビューアーウィンドウが表示されるように設定することができます。アラーム アウトデバイスである場合、アイコンをクリップしてアラーム 出力を動作させたり解除した設定することができます。
- モーション検知、オブジェクト、映像ロス、映像遮断、アラーム インなど: 各 イベントが感知する場合行う動作を設定または解除します。ただ、マップ監視する際、入/出力デバイスのイベント動作を無視するように設定した場合は、下記の設定とは関係なくイベントは動作しません(イベント動作無視設定: マウスカーソルーをマップ入/出力デバイスの上に位置 → マウス右側ボタンクリック → "イベント動作無視"選択)。
  - ライブポップアップ: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がポップアップされます。
  - イベントスポッ: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がイベントスポット画面に現れます。
  - イベントのサウンド: オーディオファイル(.wav)を設定するとオーディオを出力します。

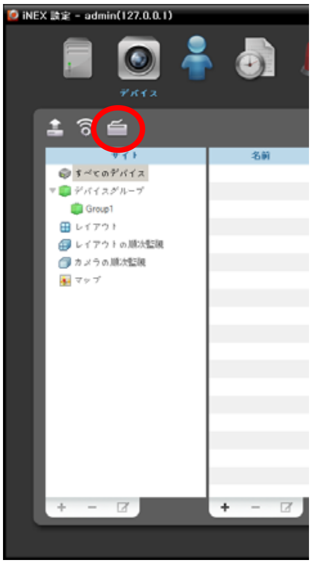
第 16 章 – ネットワークキーボードを利用した制御

ネットワークキーボードを利用してクライアントシステムを制御することができます。

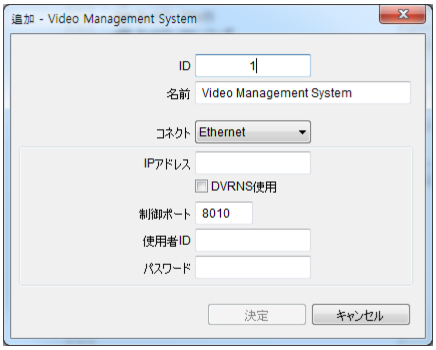
✓ この機能はiNEXプロトコルを使用するネットワークキーボードの場合にのみ対応されます。

16.1 登録

1. 管理サービスでネットワークキーボードを登録します。“スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。→ “iNEX Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。→ “デバイス”メニューを選択します。→ (ネットワークキーボード設定)ボタンをクリックします。“ネットワークキーボード検索”画面が出ます。ネットワークキーボード登録方法はデバイス登録方法と同一です。詳しい内容は、“11.1 デバイスの登録” (p. 81)部分を参照してください。

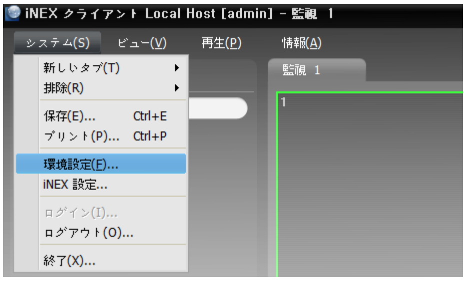


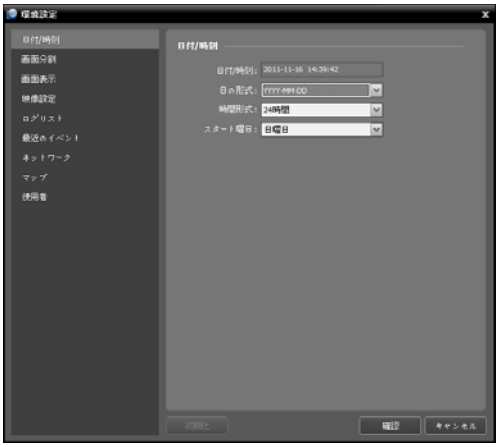
2. ネットワークキーボードにクライアントシステムを登録します。詳しい内容は、ネットワークキーボードユーザーマニュアルを参照してください。



- ID (クライアントシステムID): クライアントシステム登録時に自動で割り当てられ、変更が可能です。設定されたIDは、ネットワークキーボードを利用してクライアントシステムを制御する時に他のクライアントシステムと区別するために使用されるので、固有でなければなりません。
- 名前 : 使用者の便宜のためにクライアントシステムの名前を設定します。
- IPアドレス: クライアントシステムのIPアドレスを登録します。“DVRNS使用”項目は選択しないでください。
- 制御ポート: クライアントシステムで設定した制御ポートを入力します(制御ポートは“システム” → “環境設定” → “ネットワーク” → “ネットワークキーボード”設定で確認してください)。
- 使用者ID、パスワード: クライアントシステムに接続する時使用する使用者ID、パスワードを入力します。

3. “ネットワークキーボード 使用”項目を選択してクライアントシステムでネットワークキーボード 使用を設定します。

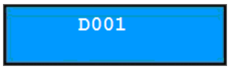




16.2 接続

ネットワークLCD画面

1. ネットワークキーボードでクライアントシステムIDをクリックします。

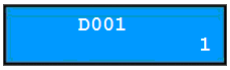


2. DEVボタンを押すとネットワークキーボードが クライアントシステムに接続します。接続が成功すると各カメラ画面とパネルタブに次のように 固有IDが表示されます。

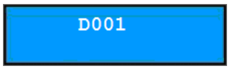
3. SHIFTボタンとDEVボタンを同時に押すと接続が解除されます。

16.3 実行

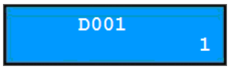
映像監視



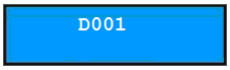
1. ネットワークキーボードで監視パネルタブIDをクリックします。



2. DEVボタンを押します。

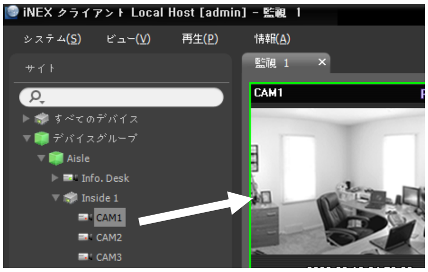


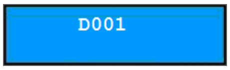
3. カメラ画面IDをクリックします。



4. PANEボタンを押します。

5. ネットワークキーボードに接続されているマウスを利用して"サイト"リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。



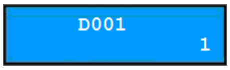


6. (メニュー)ボタンを押します。監視画面のメニューが表示されます。

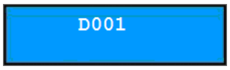
7. ネットワークキーボードの矢印ボタンを利用して、メニューに移動した後、エンターボタン()を押すと、該当メニューを選択、又は選択を解除することができます。現在設定中のメニューを抜ける場合は (メニュー)ボタンを押した後で該当メニューの選択を解除することができます。

8. その外機能に関しては、"16.4 ネットワークキーボードボタン、クライアントシステム制御ボタン" (p. 117)部分を参照してください。

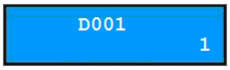
映像再生



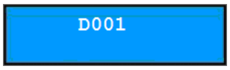
1. ネットワークキーボードで再生又はDVR検索パネルタブをIDをクリックします。



2. DEVボタンを押します。

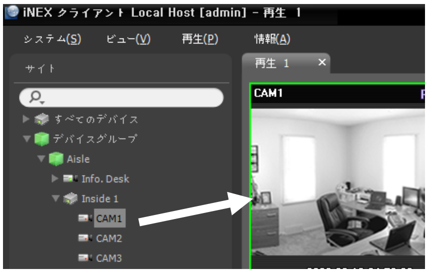


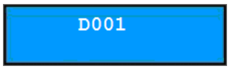
3. カメラ画面IDをクリックします。



4. PANEボタンを押します。

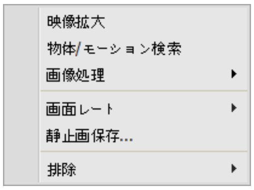
5. ネットワークキーボードに接続されているマウスを利用して“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面またはDVR検索画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。





6. (メニュー)ボタンを押します。再生画面のメニューが表示されます。

7. ネットワークキーボードの矢印ボタンを利用して、メニューに移動した後、エンターボタン(↵)を押すと、該当メニューを選択、又は選択を解除することができます。現在設定中のメニューを抜ける場合は (メニュー)ボタンを押した後に該当メニューの選択を解除することができます。



8. その外機能に関しては、“16.4 ネットワークキーボードボタン、クライアントシステム制御ボタン“ (p. 117)部分を参照してください。

16.4 ネットワークキーボードボタン

下記の表はネットワークキーボードを利用してクライアントシステムを制御する時に使用するボタンの説明です。PTZ制御関連ボタンはネットワークキーボードユーザーマニュアルをご参照ください。

実行命令ボタン

ボタン	説 明	動 作
1	番号(1~9)	• ID → MON、PANE、DEV : 制御するモニタ、カメラ画面、パネルタブ及びクライアントシステムを選択します。
0	番号(0)	• 命令ボタンでは動作しません。
SHIFT	Shift	• SHIFT → ボタン: 命令が2つの機能を実行する場合、2番目の機能を実行します。
ESC	Esc	• ESC : 実行命令中に命令を取り消します。
DEV	接続	• クライアントシステムID → DEV : クライアントシステムを制御することができます。
	解除	• SHIFT & DEV : クライアントシステム接続を解除します。
	パネルタブ	• タブID → DEV : 該当パネルを選択します。
PANE	カメラ画面	• カメラ画面ID → PANE : 該当カメラ画面を選択します。
MON	モニター	• モニターID → MON : モニターを選択できます。
−	−	• − : 現在選択されたカメラ画面又はデバイスの接続を解除します。

F1	機能(1~8)	• F1: 二つ以上のモニタを使用する場合、モニタIDを表示します。 • F7 (SHIFT & F3): “システム”メニュー → “環境設定”の設定を変更することができます。ボタンを再度押すと命令がキャンセルされます。 • F8 (SHIFT & F4): クライアントプログラムのソフトウェアバージョンを表示します。じボタンを再度押すと命令がキャンセルされます。

クライアントシステム制御ボタン

✓ 接続されたデバイスの種類及びバージョンにより一部機能が対応できない可能性があります。

ボタン	説 明	動 作
!	緊急録画On	• カメラ画面ID → ! : 選択したカメラ画面の映像に対して緊急録画を実行します。
	緊急録画Off	• カメラ画面ID → SHIFT & ! : 選択したカメラ画面の映像に対して緊急録画を中止します。
	アラーム出力On	• カメラ画面ID → : 選択したカメラ画面に接続されたデバイス1番アラーム出力を動作させます。 • ‘アラーム出力装置番号’ → : 選択したアラーム出力を動作させます。
	アラーム出力Off	• カメラ画面ID → SHIFT & : 選択したカメラ画面に接続されたデバイス1番アラーム出力を解除します。 • ‘アラーム出力装置番号’ → SHIFT & : 選択したアラーム出力を解除します。
	分割表示	• : 画面分割を変更することができます。矢印及びエンターボタン()を利用して画面分割を選択します。 • SHIFT & : 1x1分割画面に変更します。ボタンを再度押すと以前画面分割に戻ります。
	グループ	• : 次の画面グループに移動します。
	フリーズ	• : 監視画面を一時停止させます。
	ズーム	• SHIFT & : 監視画面の特定部分を拡大します。矢印及びエンターボタン()を利用して拡大領域を移動させることができます。
	フルスクリーン	• パネルタブID’ → : 該当パネルタブをフルスクリーンで表示します。
	検索/監視	• : 再生またはDVR検索パネルを表示して、監視パネルで選択されたカメラ画面に接続されているデバイスの録画映像を検索、再生することができます。 • SHIFT & : 以前の監視パネルに戻ります。
	早巻戻し再生	• : 録画映像を早巻戻し再生します。
	1フレーム巻戻し再生	• SHIFT & : 録画映像を1フレームずつ巻戻し再生します。
	再生、一時停止	• : 録画映像を再生します。再生中にボタンを押すと映像を一時停止させます。
	倍速再生	• : 録画映像を倍速再生します。
	1フレーム再生	• SHIFT & : 録画映像を1フレームずつ再生します。
	メニュー	• 選択したカメラ画面の画面のメニューを表示します。
	エンター()	• 選択したカメラ画面の画面のメニューで項目を選択します。 • 拡大モードで映像の拡大率を変更します。

	矢印	• 選択したカメラ画面の画面のメニューで各項目に移動します。 • 拡大モードで拡大領域を移動させることができます。
	ジョグダイヤル	• 再生モードのみ動作します。 • 再生モード中に一時停止状態で映像を1フレームずつ再生します。ジョグダイヤルを時計方向または反時計方向に回して再生または巻戻し再生します。
	シャトルリング	• 再生モードのみ動作します。 • DVR検索パネルで再生速度を変更します。

第 17 章 — 遠隔監視

PCに"iNEXクライアント"プログラムをインストールして、NVRシステムに登録されたデバイスの映像を遠隔で監視したり再生することができます。PCで"iNEXクライアント"プログラムを実行する方法はNVRシステムでの実行方法と同じです。"iNEXクライアント"プログラムに関する詳しい内容は、"3.3 クライアント" (p. 26)部分を参照してください。

クライアントシステムシステムの要求事項

推奨仕様

- OS：Microsoft® Windows® XP x86 (32 Bit)/Vista (Home Basic、Business、Ultimate、Enterprise)、Microsoft® Windows® 7 (Home Premium、Professional、Ultimate)
- CPU：Intel Core II Quad 8200 2.33GHz以上
- RAM：2GB以上
- VGA：ATI Radeon™ HD 3650またはNVIDIA GeForce 8400GS (ATI推奨) (1024x768、24bpp以上)
- ハードディスク：350MB以上の空き容量
- LAN：10/100Mbps Ethernet以上

最低仕様

- OS：Microsoft® Windows® XP Home SP3
- CPU：Intel Pentium IV3.0GHz以上
- RAM：1.5GB以上
- VGA：ATI RadeonTM HD 2400またはNVIDIA GeForce FX5500 (ATI推奨) (1024x768、24bpp以上)
- ハードディスク：350MB以上の空き容量
- LAN：10/100Mbps Ethernet以上

17.1 インストール

⚠ **旧バージョンのiNEXプログラムが既にインストールされている場合、ソフトウェアをアップグレードするかどうかを問うインストール画面が表示されます。その場合、インストール画面の指示に従ってソフトウェアをアップグレードしてください。**

✓ Windowsのスタートメニューのコントロールパネルに移動後、"電源"オプションで"、"モニタ節電モード"と"ハードディスク節電モード"を"使わない"に設定してください。

1. ソフトウェアのインストールCDを準備します。

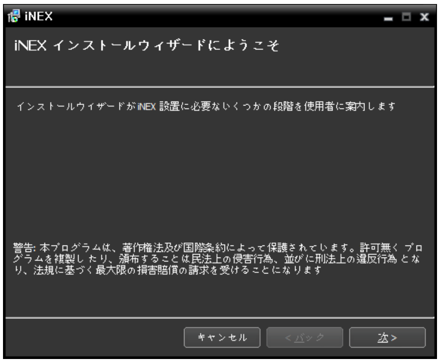
2. クライアントPCでソフトウェアインストールCDの"Setup"のフォルダーの下にある"ClientSetup.exe"ファイルを実行します。

✓ Microsoft® Windows® Vistaまたはその上のOSで"ユーザーアカウント制御"画面が表示されることがあります。この場合、"許可"ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

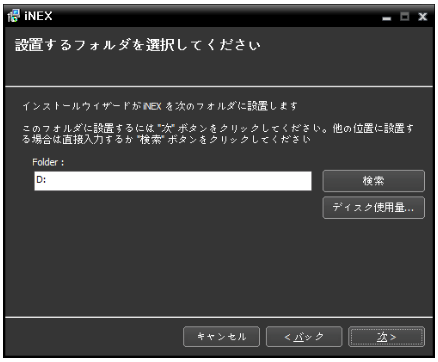
3. プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、"OK"ボタンをクリックします。

✓ 選択した言語が正しくディスプレイされるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
✓ プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に"スタート"メニューの"iNEX" → "Utility"フォルダーにある"Language Selector"を実行します。

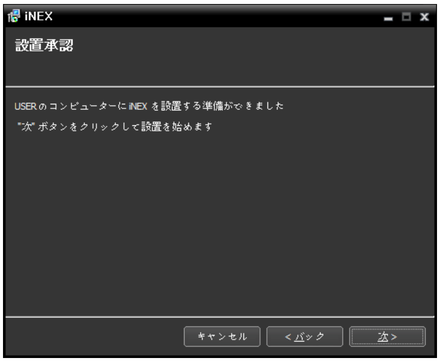
4. 次のインストール画面が表示されたら、“Install”を選択してから“次”ボタンをクリックします。

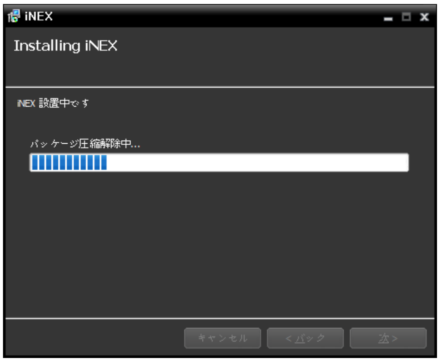


5. Client(クライアント)プログラムがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。“ディスク使用量…”ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。“次”ボタンをクリックします。

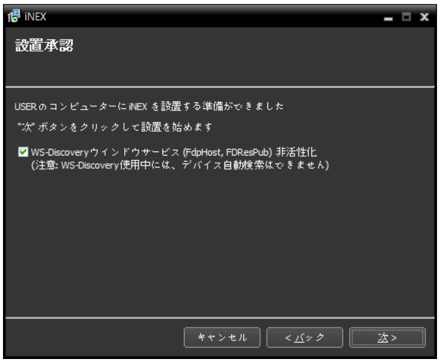


6. 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。



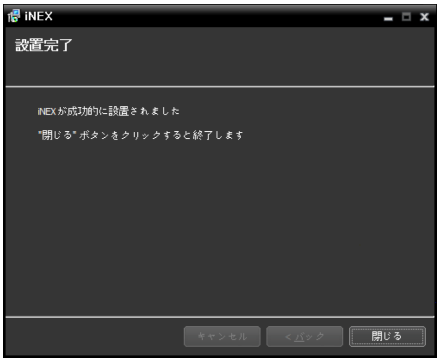


✓ Microsoft® Windows® Vista またはその上のOSでは次のインストール画面が表示されます。この場合、“WS-Doscoveryウィンドウサービス(fdPHost, FDResPub)非活性化”項目を選択することをお勧めします。項目を選択しなければ、デバイス登録時にONVIF^{TM} Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、自動検索機能を使用することができません。



- ✓ “NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“Visual C++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

7. 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。



- ✓ iNEXプログラムの動作とは別に次のプログラムが提供されます(“スタート”メニューの“iNEX”をクリック → “Utility”をクリック)。
  - ProblemReport: 必要な場合、iNEXソフトウェアの購入先の指示に従って使います。
  - LanguageSelector: iNEXプログラムの起動時、使う言語を変更しようとする時使います。

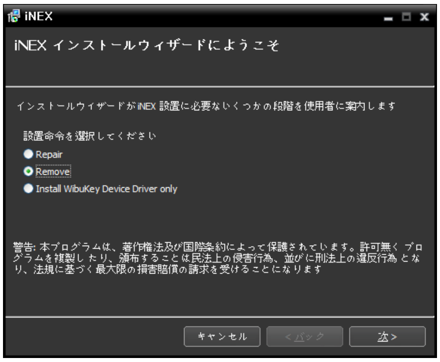
17.2 アンインストール

1. 先に実行中のiNEXプログラムを全て終了します。

- ✓ プログラムの実行が終了していない状態でiNEXのソフトウェアをアンインストールすると、正常に削除されないことがあります。
- ✓ インストールフォルダーを強制的に削除する場合、ソフトウェア削除及び再インストールが不可能になるため、必ず次の手続きに従ってアンインストールしてください。

2. “スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。“Uninstall iNEX”をクリックします。

- ✓ ソフトウェアのインストールCDを用いてソフトウェアを除去することもできます。PCにソフトウェアインストールCDを入れてから“ClientSetup.exe”ファイルを実行します。“Remove”を選択してから“次”ボタンをクリックします。



3. 次のアンインストール画面が表示されたら、“Yes”ボタンをクリックします。

4. 次のアンインストール画面が表示されたら、“Remove All”または“Do not remove”ボタンをクリックします。録画映像及び既存の設定をはじめ、システムに保存されていたすべてのデータを削除するには“Remove All”ボタンを、データを削除せずに保存するには、“Do not remove”ボタンをクリックします。

✓ 削除されたデータは復元することができません。

5. 次のアンインストール画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックしてアンインストールを完了します。

第 18 章 – 連合サービス

連合サービスはNVRシステムに登録されたデバイスのリアルタイム映像監視や連合サービスに登録されたNVRシステムの録画映像の再生機能をサポートします。

システムの要求事項

推奨仕様

- OS：Microsoft® Windows® XP x86 (32Bit)/Vista (Home Standard、Business、Ultimate、Enterprise)、Microsoft® Windows® 7 (Home Premium、Professional、Ultimate)、Microsoft® Windows® Server 2003/2008
- CPU：Intel Core II Quad 8200 2.33GHz/Intel Xeon 3.0 GHz以上
- RAM：2GB以上
- VGA：ATI Radeon™ HD 2400またはNVIDIA GeForce FX5500 (ATI 推奨) (1024x768、24bpp以上)
- ハードディスク：5GB以上の空き容量
- LAN：Gigabit Ethernet以上

✓ 本使用マニュアルで、"サーバー"または"サーバーシステム"とは連合サービスが実行中のPCのことです。

18.1 インストール

✓ 任意のiNEXサービスがインストールされたPCには、連合サービスをインストールすることはできません。
✓ Windowsのスタートメニューのコントロールパネルに移動後、"電源管理"オプションで"モニター節電モード"と"ハードディスク節電モード"を"使わない"に設定してください。

⚠ **旧バージョンのiNEXプログラムが既にインストールされている場合、ソフトウェアをアップグレードするかどうかを問うインストール画面が表示されます。その場合、インストール画面の指示に従ってソフトウェアをアップグレードしてください。**

✓ Windowsのスタートメニューのコントロールパネルに移動後、"電源"オプションで"、"モニタ節電モード"と"ハードディスク節電モード"を"使わない"に設定してください。

1. ソフトウェアのインストールCDを準備します。

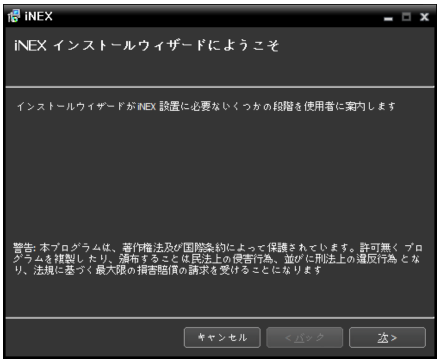
2. 連合サーバーでソフトウェアインストールCDの"Setup"のフォルダーの下にある"FederationServiceSetup.exe"ファイルを実行します。

✓ Microsoft® Windows® Vistaまたはその上のOSで"ユーザーアカウント制御"画面が表示されることがあります。この場合、"許可"ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

3. プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、"OK"ボタンをクリックします。

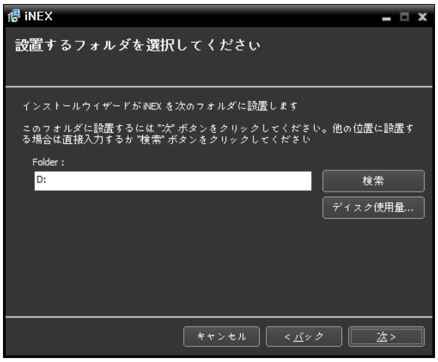
✓ 選択した言語が正しくディスプレイされるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
✓ プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行する前に"スタート"メニューの"iNEX" → "Utility"フォルダーにある"Language Selector"を実行します。

4. 次のインストール画面が表示されたら、“Install”を選択してから“次”ボタンをクリックします。

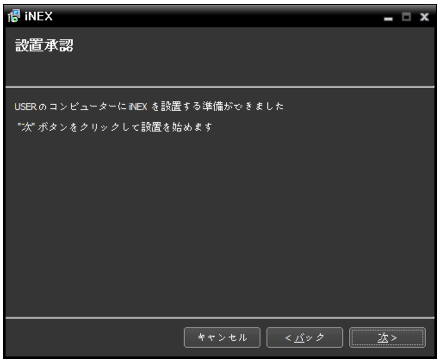


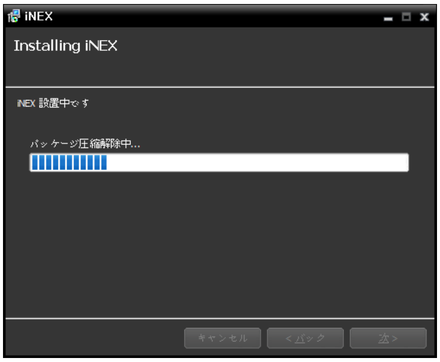
5. “連合サービス”および“クライアント”を選択した後、“次”ボタンをクリックします。

6. サービスがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。“ディスク使用量…”ボタンをクリックすると各ハードディスクドライブの空き容量及びプログラムインストールのために必要な最低容量が表示されます。

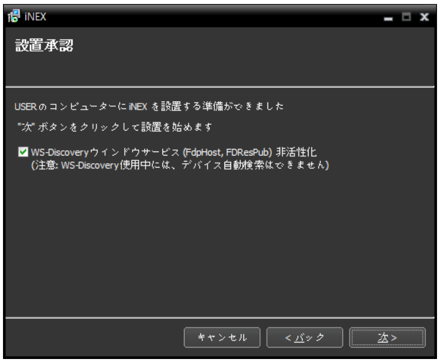


7. 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。





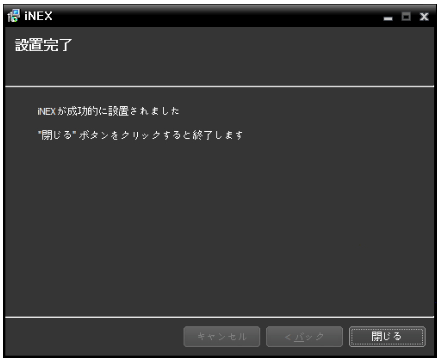
- ✓ Microsoft® Windows® Vista またはその上のOSでは次のインストール画面が表示されます。この場合、“WS-Doscoveryウィンドウサービス(fdPHost, FDResPub)非活性化”項目を選択することをお勧めします。項目を選択しなければ、デバイス登録時にONVIF™ Conformanceプロトコルを使用するデバイスの場合、自動検索機能を使用することができません。



- ✓ “NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“Visual C++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

8. 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。

- ✓ インストールが終わると、サービスとサービス管理者(タスクバーのお知らせエリアに アイコン表示)および“設定”プログラムが自動的に実行されます。



- ✓ iNEXプログラムの動作とは別に次のプログラムが提供されます(“スタート”メニューの“iNEX”をクリック → “Utility”をクリック)。
  - − ProblemReportまたはSecretKey: 必要な場合、iNEXソフトウェアの購入先の指示に従って使います。
  - − LanguageSelector: iNEXプログラムの起動時、使う言語を変更しようとする時使います。

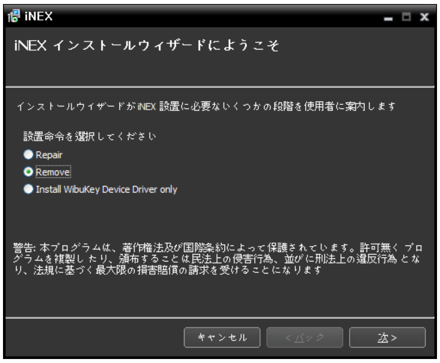
18.2 アンインストール

1. 先に実行中のiNEXプログラムを全て終了します。

- ✓ プログラムの実行が終了していない状態でiNEXのソフトウェアをアンインストールすると、正常に削除されないことがあります。
- ✓ インストールフォルダーを強制的に削除する場合、ソフトウェア削除及び再インストールが不可能になるため、必ず次の手続きに従ってアンインストールしてください。

2. “スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。“Uninstall iNEX”をクリックします。

✓ ソフトウェアのインストールCDを用いてソフトウェアを除去することもできます。PCにソフトウェアインストールCDを入れてから“FederationServiceSetup.exe”ファイルを実行します。“Remove”を選択してから“次”ボタンをクリックします。



3. 次のアンインストール画面が表示されたら、“Yes”ボタンをクリックします。

4. 次のアンインストール画面が表示されたら、“Remove All”または“Do not remove”ボタンをクリックします。録画映像及び既存の設定をはじめ、システムに保存されていたすべてのデータを削除するには“Remove All”ボタンを、データを削除せずに保存するには、“Do not remove”ボタンをクリックします。

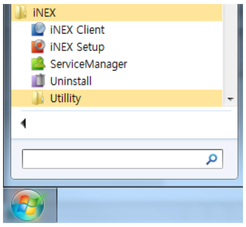
✓ 削除されたデータは復元することができません。

5. 次のアンインストール画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックしてアンインストールを完了します。

18.3 開始

サービス実行

サービスのインストールが完了したら、各サービスが自動的に実行され、サービスを手動でスタートしたり停止することができます。連合サーバーで“スタート”メニューの“iNEX”をクリックした後、“Service Manager”プログラムを実行します。

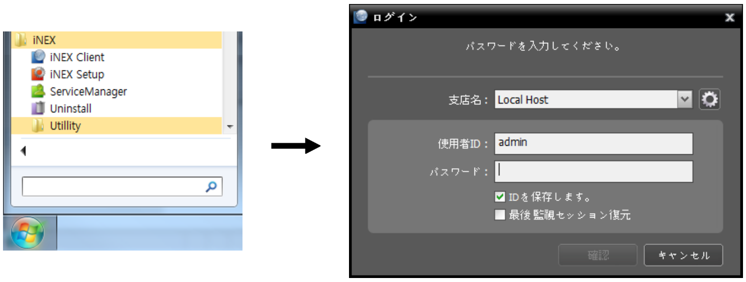


サービスの動作状態を確認します。サービスが動作中でない場合、手動でサービスを実行してください。“Service Manager”プログラムに関する詳しい内容は、“第 12 章 — ユーザー管理” (p. 95)部分を参照してください。

ログイン

“設定”プログラム及び“クライアント”プログラム実行時、次のように連合サービスにログインしなければなりません。

連合サーバーで“スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。→ “iNEX Setup”または“iNEX Client”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



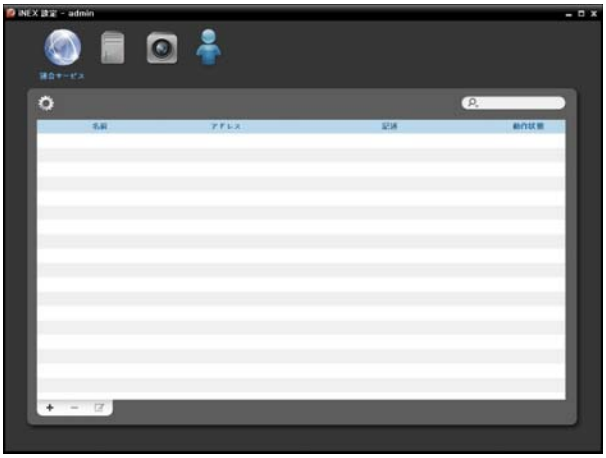
- 支店名: リストから接続しようとする 連合サービスを選択します。初期設定では連合サービスが現在のシステムで実行中である場合、“Local Host”を選択します。リストの右側にある ボタンをクリックして他の連合サービスをリストに追加したりリストにある連合サービスの情報を修正することができます。

- 支店名、サービスのアドレス、サービスポート: 連合サービス名を指定してから連合サーバーのIPアドレス及びポート番号(基本値: 11000)を入力します。

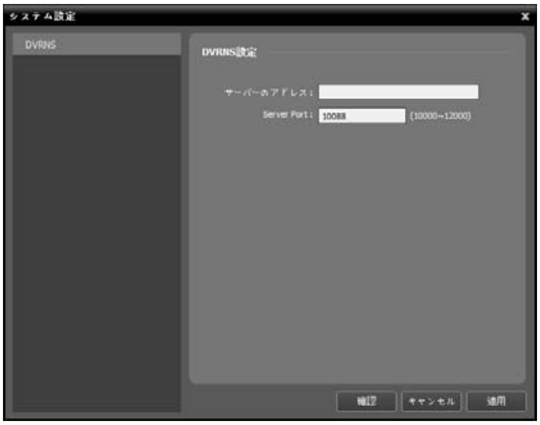
- 使用者ID、パスワード: 使用者ID及びパスワードを入力します。使用者IDの基本値は“admin”、パスワードの初期値は“12345678”です。ユーザーメニューで使用者ID及びパスワードが変更できます。詳しい内容は、“第 12 章 — ユーザー管理” (p. 95)部分を参照してください。
- ID保存します: この項目を選択するとログインする際、入力したIDを保存します。
- 最後監視セッション復元: クライアントソフトの監視画面に以前の監視セッションを復元することができます(“クライアント”プログラムのみ支援)。

システム設定

“iNEX設定”プログラムを 実行した後、連合サーバーを設定します。



(システム設定)ボタンをクリックすると、システム設定画面が表示されます。

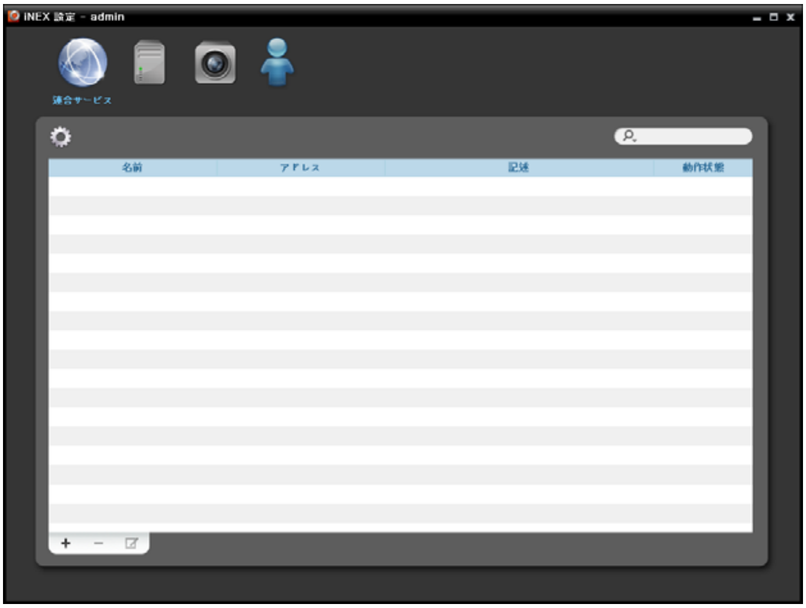


- サーバーのアドレス、サーバーのポート: 連合サーバーに登録するNVRシステムが登録されたDVRNSサーバーのIPアドレス(またはドメインネーム)及びポート番号を入力します。

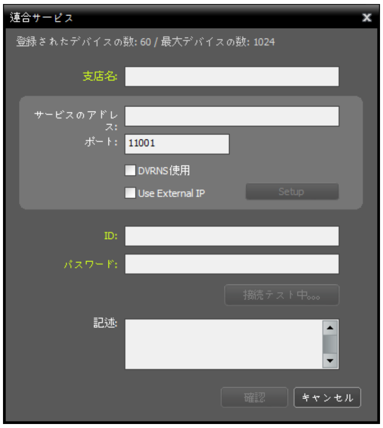
サービス登録

NVRシステム(管理サービス)を連合サービスに登録しなければなりません。“iNEX Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。

“サービス”メニューを選択した後、次の説明を参照して録画サービス及びモニタリングサービスを登録します。



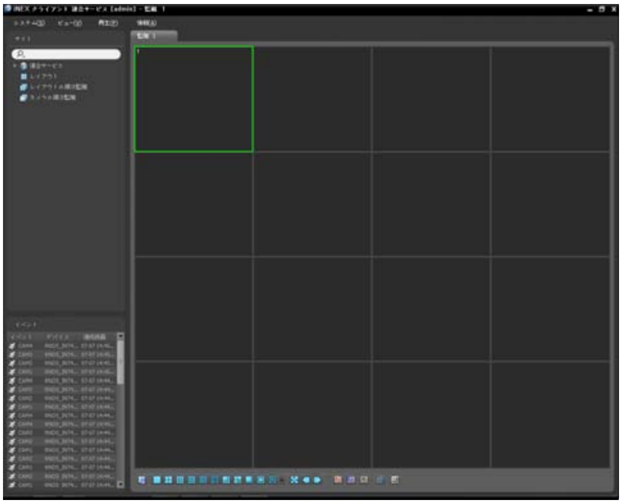
下段にある ✚ ボタンをクリックします。“連合サービス”画面が表示されたら登録するNVRシステム(管理サービス)の情報を入力します。



- 支店名: 登録するNVRシステム(連合サービス)の名前を入力します。
- サービスアドレス、ポート: 管理サーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。
  - ☑ DVRNS私用: NVRシステムがDVRNS機能の使用する場合、“DVRNS使用”選択した後、IPアドレスの代りにDVRNSサーバーに登録されたNVRシステムの名前を入力することができます。DVRNSサーバーに登録された名前はNVRシステムのDVRNS設定で確認できます(NVRシステム接続 → “iNEX設定”プログラムの“サービス”メニュー ⚙ (システム設定)ボタンクリック → “DVRNS”クリック)。
  - ☑ コールバックポート私用: “設定”ボタンをクリックし、NVRシステムの外部IPアドレス及びポート番号を設定します。
- ID、パスワード: NVRシステムに接続するためのIDとパスワードを入力します。連合サービスからNVRシステムへの接続は、“Administrator”グループに属したユーザーにのみサポートされます。
- 接続テスト: ボタンをクリックすると、画面上で入力した情報で該当NVRシステムへ接続できるかどうかをテストできます。

リアルタイム映像監視

“スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。→ “iNEX Client”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。

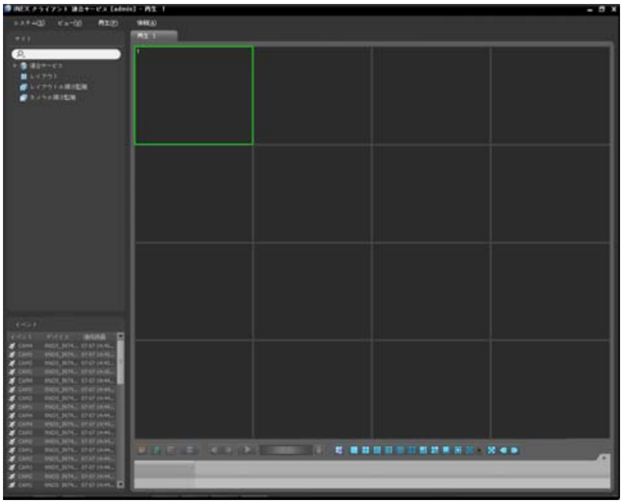


1. “サイト”リストで“連合サービス”にNVRシステム(管理サービス)が追加されているか確認します。

2. パネルタブで監視タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。連合サーバーのクライアントプログラムでリアルタイム映像を監視する方法は、NVRシステムで監視する方法と同じです。詳しい内容は、“第 4 章 — リアルタイム映像監視” (p. 37)部分を参照してください。

録画映像再生

“スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。→ “iNEX Client”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



1. “サイト”リストで“連合サービス”にNVRシステム(管理サービス)が追加されているか確認します。

2. パネルタブで再生タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面またはDVR検索画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。再生パネルまたはDVR検索パネルの下段にあるツールバー及びタイムテーブルを用いて、映像を検索及び再生することができます。連合サーバーのクライアントプログラムで録画映像を検索及び再生する方法は、NVRシステムで検索及び再生する方法と同じです。詳しい内容は、“第 6 章 — 録画映像再生及び動画で保存” (p. 61)部分を参照してください。

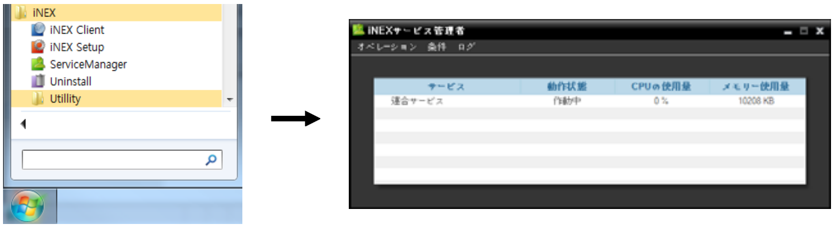
18.4 システムの概要

NEX連合プログラムはサービス管理者、設定及びクライアントプログラムから構成されており、各プログラムを設定及び実行する方法は、NVRシステムの設定及び実行方法と同じです。但し、以下の機能はサポートされません。

- クライアントプログラム: リアルタイムイベント及びコールバックイベント通知、マップ監視、緊急録画、イベントマネージャーパネル、イベント履歴タブ、動作状態タブ及びデバイス状態タブ
- 設定プログラム: デバイス設定、録画スケジュール設定、イベント管理スケジュール設定、マップエディター設定

サービス管理者

連合サーバーで“スタート”メニューの“iNEX”をクリックします。→ “Service Manager”プログラムを実行します。



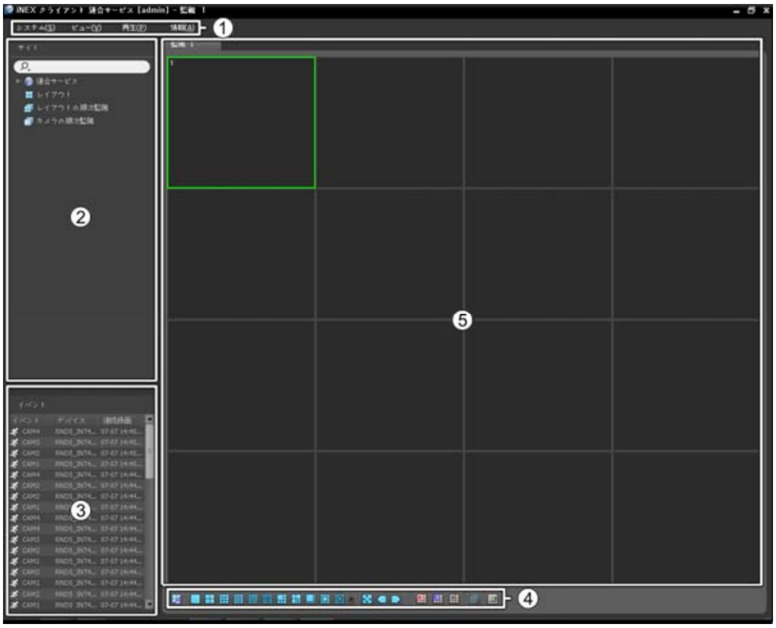
設定

“iNEX Setup”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。

- 連合サービス: NVRシステム(管理サービス)を登録及び管理します。
- サービス: iNEXバックアップサービスが動作中である場合、バックアップサービスを登録及び管理します。iNEXバックアップサービスの購入および詳しい内容は、NVRの購入先にお問い合わせください。
- デバイス: NVRシステム(管理サービス)に登録されたデバイスで構成されたサイトを登録及び管理します。
- ユーザー(使用者): ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。
- (システム設定): 連合サーバーを設定します。詳しい内容は、“システム設定” (p. 127)部分を参照してください。

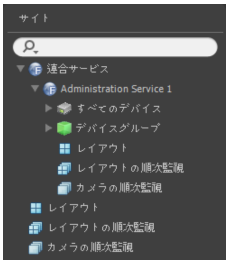
クライアント

“iNEX Client”プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



① メニュー: クライアントのプログラムを制御します。
② サイトリスト: マウスでドラッグ&ドロップを利用して登録されたサイトに接続します。
③ 最近のイベントのリスト: 連合サービスに登録されたデバイスの監視イベントを表示します。デバイスが使用するプロトコルによってイベント関連機能に対応しないことがあります(iNEXプロトコール又は一部バージョンのAxisプロトコール対応)。
④ パネルのツールバー/タイムテーブル: パネルによってツールバーまたはタイムテーブルを表示します。
⑤ パネル: 選択したタブの映像またはリストを表示します。

サイトリスト



NVRシステム(管理サービス)または連合サービスに登録されたサイトリストを表示します。

- (検索): 連合サービスに登録されたNVRシステム(管理サービス)を検索します。リストでNVRシステム(管理サービス)をクリックすると、該当NVRシステム(管理サービス)に登録されたサイトのリストが表示されます。
- レイアウト: 連合サービスに登録されたレイアウトリストを表示します。リストでレイアウトをクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすれば、レイアウトの監視または再生を行います。
- レイアウトの順次監視: 連合サービスに登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。リストでレイアウトの順次監視をクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすると、レイアウトの順次監視を行います。
- カメラの順次監視: 連合サービスに登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。リストでカメラの順次監視をクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、カメラの順次監視を行います。

付録

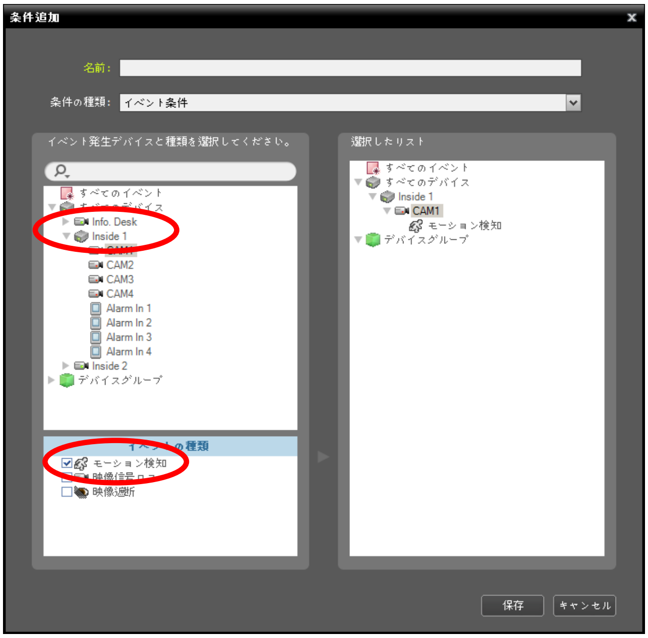
イベント録画モードのスケジュール設定例

✓ イベント録画はiNEXプロトコルを使用するネットワークビデオデバイスに限って対応します。

例1

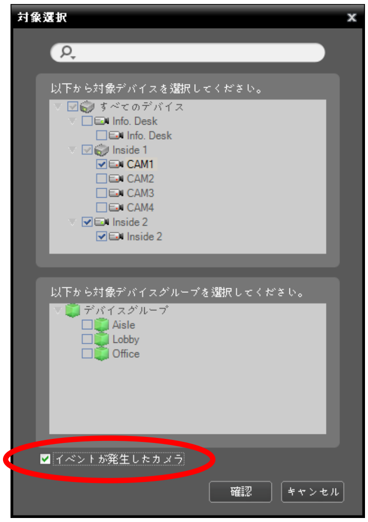
“Inside 1”デバイスの1番カメラでモーション検知イベント発生時、該当映像を録画するには次のように設定します。

→



→

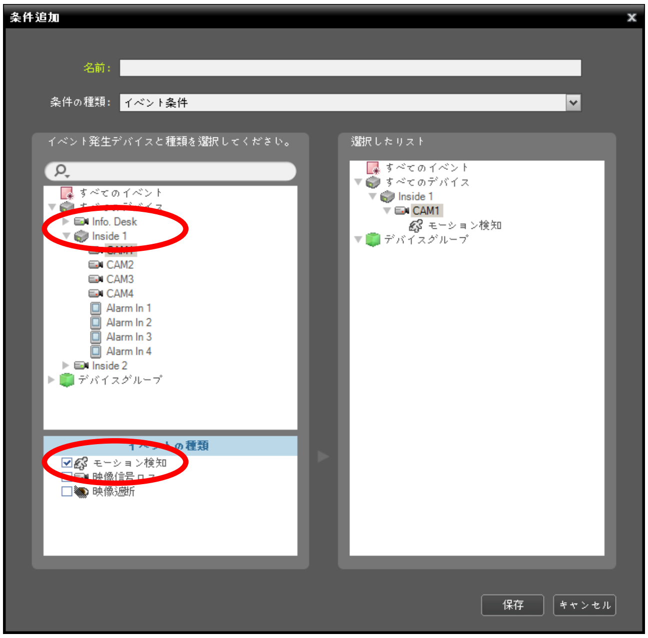
→

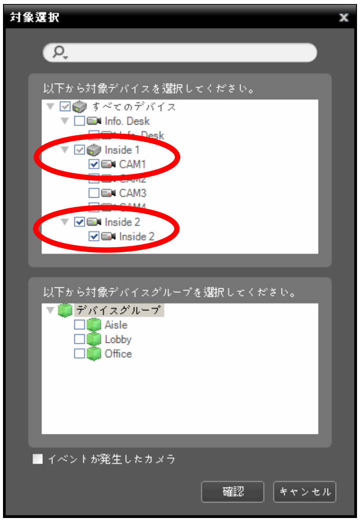


- “時間条件”プリセット: “Always”のプリセットを選択します。
- “条件”プリセット
  - 条件の種類: “イベント条件”を選択します。
  - イベント発生デバイスと種類を選択してください: “すべてのデバイス” → “Inside 1” → “CAM1” を選択します。
  - イベントの種類: “モーション検知”を選択します。
- “アクション”プリセット: 希望するプリセットを選択します。
- “対象”プリセット: “イベントが発生したカメラ”オプションを選択します。

例2

“Inside 1”デバイスの1番カメラでモーション検知イベント発生時、該当するカメラ及び“Inside 2”デバイスの1番カメラの映像を録画するには次のように設定します。





- “時間条件”プリセット: “Always”プリセットを選択します。
- “条件”プリセット
  - 条件の種類: “イベント条件”を選択します。
  - イベント発生デバイスと種類を選択してください: “すべてのデバイス” → “Inside 1” → “CAM1”を選択します。
  - イベントの種類: “モーション検知”を選択します。
- “アクション”プリセット: 希望するプリセットを選択します。
- “対象”プリセット: “イベントが発生したカメラ”オプションを解除します。→ “すべてのデバイス”リストで“Inside 1”デバイスの“CAM1”と“Inside 2”デバイスの“CAM1”を選択します。

OSD 情報

“iNEXクライアント”プログラム監視画面の各カメラ画面にOSDが表示されます。

- カメラ名: iNEXプログラムで設定したカメラ名を表示します(画面の左上段)。
- (リスニングまたはトーク): デバイスのオーディオを受信したり、デバイスでオーディオを送信していることを示します(画面右上段)。
- (PTZ): PTZ制御が可能であることを示します(画面右上段)。
- (カメラの順次監視): カメラが順次監視中であることを示します(画面右上段)。
- (赤色: タイムラプス録画またはイベントベース録画)、(オレンジ色: 緊急録画): NVRシステムに映像が録画中であることを示します(画面右上段)。
- (映像拡大): 映像が拡大されたことを示します(画面右上段)。
- 日付、時間: NVRシステムの日付及び時間を示します(画面下段)。
- イベント警告: イベントが検知されたことを示します(カメラ名バーの赤色表示)。
- モーションブロック: モーションイベントが検知されたエリアを表示します(映像上) (iNEXプロトコルを使用するネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。

ネットワーク接続解除ログ

ID	説明
0	原因を把握できないエラー
1	ログアウト
2	デバイスのすべての通信チャンネル使用中
3	サポートしていないバージョン
4	ユーザーID及びパスワードのエラー
10	デバイスが実行されない
11	ネットワークが停止する
12	デバイスが連結したネットワークに接続できない
13	接続時間超過。ネットワークビデオデバイスが応答しない
16	デバイスに接続されない。ネットワークが停止する
20	ユーザーが接続をキャンセルする

トラブルシューティング(Q&A)

症状	確認内容
サーバーが応答しなくてログインが失敗されました。	• ログインのスクリーンで ボタンをクリックしてからNVRシステムの情報が正しく設定されているか確認します。
映像監視を行うことができません。	• デバイスグループにデバイスが追加されているか確認してください。 • 監視の権限があるのか確認してください。
映像監視中に接続が解除されてから再接続を繰り返す。	• デバイスの状態及びデバイスとNVRシステムのネットワークの接続状態を確認します。 • ストリーミングサービスが動作中であるか確認します。ストリーミングサービスが動作しない場合にも映像の監視はできますが、この場合、そのデバイスで支援する最大同時接続ユーザー数によって監視することができるユーザー数が制限されます。
監視映像が見えません。	• デバイスのカメラの接続状態を確認してください。 • システムまたはネットワークの負荷によって監視映像が多少遅く見えることがあります。
双方向オーディオ通信を行うことができません。	• デバイスとNVRシステムのスピーカー及びマイクの接続状態を確認してください。 • デバイスのオーディオ入力/出力の設定を確認してください。 • 双方向オーディオ通信は1:1でのみ行われます。デバイスが異なるシステムとすでに双方向オーディオ通信中の場合、該当する通信が解除された後に再び試みます。
録画がおこなわれません。	• ストレージが充分であるかまた録画スケジュールが設定されているか確認してください。 • デバイスの登録情報を確認します。"admin"ユーザーで登録されたデバイスに対してのみ録画機能をサポートします。 • デバイスの録画状態を確認してください。一つのデバイスが他のNVRシステムまたはiNEXシステムの録画サービスにも登録されている場合、先に接続された一つのNVRシステムまたは録画サーバーでのみ録画が行われます。まず接続が行われると最初の接続が解除されない限り他のNVRシステムまたは録画サーバーではそのデバイスの映像を録画しません。現在のNVRシステムで映像を録画するには、他のNVRシステムまたはiNEXシステムでデバイス登録を削除するか、デバイス情報を修正してデバイスを使用しないように設定します。
録画OSDが表示されません。	• システムの負荷によって録画が遅れ、録画OSDがスケジュールで設定された時間より遅くれて、または長く表示されることがあります。
ユーザーIDとパスワードを忘れてしまい、iNEXプログラムを実行することができません。	• "SecretKey"プログラムを実行します("情報"メニューの"SecretKey"クリック)。実行結果物を製品の購入先に伝えると、新規ユーザーIDとパスワードが受け取れます。
ポート番号エラーによりiNEXプログラムが実行できません。	• 該当ポート番号がセキュリティ上の理由で遮断されているか、別のプログラムで使用中の場合、"サービス管理者"プログラムでポート番号を変更します。ポート番号の基本値は管理サービスの場合11001、録画サービスの場合11002、モニタリングサービスの場合11004、ストリーミングサービスの場合11003、連合サービスの場合11000です。
Windows環境にアクセスしたいのですが。	• システムクラッシュを防止する為、Windows へのアクセスは禁止しています。Windows環境へのアクセスに関する内容は、製品の購入先にお問い合わせください。
デスクトップ画面が真っ黒か、またはロゴのみ表示されてそれ以上進みません。	• メインボードの問題です。DVRを再起動してください。しばしば本問題が発生するようなら製品の購入先にお問い合わせください。

製品仕様

ビデオ	
ビデオ入力	ネットワークビデオエンコーダー、ネットワークカメラ
モニター出力	D-Sub: 1 DVI: 1
対応解像度	352x240、704x240、704x480、1280x720、1920x1080
映像コーデック	H.264、MPEG-4、M-JPEG
ディスプレイスピード (images per second)	max. 480ips @ 704x480 または 64ips @ 1920x1080
録画スピード (images per second)	16チャンネルモデル: max. 480ips @ 1920x1080 32チャンネルモデル: max. 960ips @ 1920x1080
入出力	
オーディオ入力	1
オーディオ出力	1
コネクタ	
モニター出力	D-Sub: 1 DVI: 1
オーディオ入力	Line in、microphone、1 Vp-p
オーディオ出力	Line out
ネットワークポート	RJ-45
USBポート	8 USB コネクタ
保存	
メイン保存装置	SATA HDD (最高4つまで装着可能)
一般	
外形寸法(幅 x 高さ x 長さ)	430mm x 88mm x 400mm
本体重量	8.45kg
包装重量	11.85kg
包装寸法(幅 x 高さ x 長さ)	540mm x 280mm x 590mm
動作温度 / 動作湿度	5°C ~ 40°C / 0% ~ 90%
電源	AC 100-240V~、50/60 Hz、3.0-1.5A
認証	FCC, CB, CE, UL*, PSE

* CAUTION: Risk of Explosion if Battery is replaced by an Incorrect Type. Dispose of Used Batteries According to the Instructions. This equipment is indoor use and all the communication wiring are limited to inside of the building.

仕様は予告なく変更されることがあります。

索引

I

iNEXアップデートマネージャー 5
iNEXサービス管理者..17

P

PIP...48

い

イベントスポット 38
イベントのツールバー 73

う

ウォッチドッグ 17

か

カスケード 20
カメラ制御ツールバー......................................46, 64

く

クライアント 17
クライアントシステム 1
クリッププレーヤー..67
グループパネル...24

さ

サーバー 123
サーバーシステム 123
サービスデータベースのバックアップ/復元 18
サイトパネル 23
サイトリスト...27, 132
サイトリストのパネル..23

す

ストリーミングサービス...18

せ

設定 17

た

タイムテーブル/イベントリスト 63

は

パネル 27, 132
パネルのツールバー...................................... 37, 61

ふ

プリセット 52, 100

ほ

ホットスポット 37, 38
ポップアップ画面...106

ま

マップイベントスポット...38
マップ画面のメニュー 49
マップ制御ツールバー..48

め

メニュー... 27, 132

も

モニタリングサービス 18

ゆ

ユーザーリストパネル 24

ら

ライブポップアップリスト............................... 27, 106

れ

レイアウト.. 39, 40, 61
レポートのツールバー 78, 107

漢字

遠隔地システム 1
監視画面のメニュー...46
管理サービス...18
緊急録画..46
経路順次監視 45
再生画面のメニュー...64
最近のイベントのリスト 27, 132
時間重複現象..63
録画サービス...18